私たちの

道徳

中学校

活用のための指導資料

文部科学省

私たちの 道徳 中学校 活用のための指導資料 文部科学省

私たちの 道徳 中学校 活用のための指導資料 文部科学省

まえがき

文部科学省では、平成二十六年度から、道徳教育用教材「私たちの道徳」を全国の小・中学生に配布しています。

「私たちの道徳」は、道徳の時間はもちろん、学校の教育活動全体を通じて、また、家庭や地域においても活用されることを念頭に作成したものであり、児童生徒が道徳的価値について自ら考え、行動できるようになることをねらいとした教材です。

「私たちの道徳」については、学校等で活用いただく中で、具体的な活用方法に関する情報提供等を求める声もいただいており、このことも踏まえ、このたび、「私たちの道徳」の趣旨の理解を図り、より効果的に活用いただくための手引きとして、「『私たちの道徳』活用のための指導資料」を作成しました。本書には、道徳の時間をはじめとする学校の教育活動において、また、学校と家庭や地域が連携して、「私たちの道徳」を活用いただくに当たっての解説や事例などを掲載しています。

道徳教育については、平成二十六年十月二十一日に中央教育審議会から「道徳に係る教育課程の改善等について」の答申がなされたところであり、その中では、教師が一方的に教え込むのではなく、児童生徒が互いの意見を交流させる言語活動や表現活動等の多様な指導方法を通じて、一人一人に考えさせる授業を重視することなどが提言されています。

各学校においては、この答申や今後の制度改正等の動向も見据えながら、本書も参考にしつつ「私たちの道徳」を効果的に活用することなどを通じて、道徳教育の一層の充実を図っていただきますようお願いします。

最後に、本書の作成に当たって多大な御尽力をいただきました作成協力委員をはじめ関係各位に対して、心から感謝の意を表します。

平成二十六年十一月

文部科学省初等中等教育局長

小松親次郎

「私たちの道徳」中学校　活用のための指導資料

目　次

■「私たちの道徳」の概要 …… 4

第一章「私たちの道徳」の活用に当たって

1 「私たちの道徳」について …… 6
2 「私たちの道徳」の活用 …… 10
3 「私たちの道徳」の活用を促す「道徳教育の全体計画」 …… 22
4 「私たちの道徳」の活用を促す「道徳の時間の年間指導計画」 …… 28

■「私たちの道徳」の内容の構成 …… 32

第二章「私たちの道徳」の活用事例

1－（1） 調和のある生活を送る …… 34
1－（2） 目標を目指しやり抜く強い意志を …… 36
1－（3） 自分で考え実行し責任をもつ …… 38
読み物資料 ネット将棋 …… 40
重　点 自分を深く見つめて …… 41
1－（4） 真理・真実・理想を求め人生を切り拓く …… 42
1－（5） 自分を見つめ個性を伸ばす …… 44
2－（1） 礼儀の意義を理解し適切な言動を …… 46
2－（2） 温かい人間愛の精神と思いやりの心を …… 48
2－（3） 励まし合い高め合える生涯の友を …… 50
2－（4） 異性を理解し尊重して …… 52
2－（5） 認め合い学び合う心を …… 54
読み物資料 言葉の向こうに …… 56
2－（6） 人々の善意や支えに応えたい …… 58
読み物資料 帰郷 …… 60
重　点 支え合い共に生きる …… 61
重　点 生命を考える …… 62
3－（1） かけがえのない自他の生命を尊重して …… 64
読み物資料 キミばあちゃんの椿 …… 66
3－（2） 美しいものへの感動と畏敬の念を …… 68
3－（3） 人間の強さや気高さを信じ生きる …… 70
読み物資料 二人の弟子 …… 72
4－（1） 法やきまりを守り社会で共に生きる …… 74
読み物資料 二通の手紙 …… 76
重　点 一人一人が守るべきものがある …… 77
4－（2） つながりをもち住みよい社会に …… 78
読み物資料 鳩が飛び立つ日 ―石井筆子― …… 80
重　点 社会に目を向け、社会と関わり、社会を良くする。 …… 81
4－（3） 正義を重んじ公正・公平な社会を …… 82
4－（4） 役割と責任を自覚し集団生活の向上を …… 84
4－（5） 勤労や奉仕を通して社会に貢献する …… 86
4－（6） 家族の一員としての自覚を …… 88
読み物資料 一冊のノート …… 90
4－（7） 学校や仲間に誇りをもつ …… 92
4－（8） ふるさとの発展のために …… 94
4－（9） 国を愛し、伝統の継承と文化の創造を …… 96
4－（10） 日本人の自覚をもち世界に貢献する …… 98
読み物資料 海と空 ―樫野の人々― …… 100
重　点 日本人としての自覚をもって真の国際人として世界に貢献したい …… 101
特　設 情報社会の光と影 …… 102
特　設 あなたの身近にいじめはありますか …… 106
「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表 …… 110

■「私たちの道徳」の概要

	表紙	ページ数	読み物資料数	各冊子の特徴
小学校一・二年		160ページ	12編	●家庭と連携して、児童の豊かな心を育んでいくことができるように、家の人からの書き込み欄を豊富に設けている。
小学校三・四年		176ページ	12編	●身近な人々と温かい人間関係を築いていくことができるように、家族や友達など身近な人との関わりに関する内容を豊富に盛り込んでいる。
小学校五・六年		192ページ	13編	●話合いを通して、自分の考えを深め、自らの成長に気付いていくことができるように、話合いの題材を豊富に盛り込んでいる。
中学校		240ページ	9編	●人物の生き方を通して、自己の生き方を考えていくことができるように、先人、偉人や著名人のメッセージや格言などを豊富に盛り込んでいる。

第一章　「私たちの道徳」の活用に当たって

1　「私たちの道徳」について……6
2　「私たちの道徳」の活用……10
3　「私たちの道徳」の活用を促す「道徳教育の全体計画」……22
4　「私たちの道徳」の活用を促す「道徳の時間の年間指導計画」……28

1 「私たちの道徳」について

1 「私たちの道徳」作成の背景

教育再生実行会議は、平成二十五年二月の第一次提言において、いじめの問題が深刻な事態にある今こそ、心と体の調和の取れた人間の育成の観点から、道徳教育の重要性を改めて認識すべきであるとし、その抜本的な充実を図るとともに、新たな枠組みによって教科化することを提言した。あわせて、国及び教育委員会の役割として、心の豊かな成長を育み、よき行動を引き出す道徳教育が実践されるよう、教員の指導力向上に取り組むこと、さらに、学校における道徳教育の教材として、具体的な人物や地域、我が国の伝統と文化に根ざす題材や、人間尊重の精神を培う題材などを重視することなども提言した。

こうした提言を踏まえて、平成二十五年三月に文部科学省に設置された「道徳教育の充実に関する懇談会」では、これまでの道徳教育の成果や課題を検証しつつ、「心のノート」の全面改訂や新たな枠組みによる教科化の在り方などについて、幅広く検討を行った。

このうち、「心のノート」の改訂については、道徳の時間をはじめとする授業でより活用しやすいものへと改善する観点から、本懇談会の下に設置した「心のノート改訂作業部会」において、全面改訂の作業を行い、名称を「私たちの道徳」と改めた。「私たちの道徳」については、平成二十六年度から使用できるよう、全国の小・中学生への配布を行った。

2 「私たちの道徳」の趣旨と特徴

(1) 趣旨

「私たちの道徳」は、「心のノート」を全面改訂したものであり、児童生徒が道徳的価値について自ら考え、行動できるようになることをねらいとして作成した道徳教育用教材である。

(2) 特徴

○道徳の時間はもちろん、学校の教育活動全体を通じて、また、家庭や地域においても活用することが期待される。
○学習指導要領に示す道徳の内容項目ごとに「読み物部分」と「書き込み部分」とで構成している。
○児童生徒の発達の段階を踏まえ、先人等の名言、偉人や著名人の生き方に関する内容を多く取り上げるとともに、いじめの問題への対応や我が国の伝統と文化、情報モラルに関する内容などの充実を図っている。

3 「私たちの道徳」の構成

「私たちの道徳」は、学習指導要領に示す道徳の内容項目ごとに「読み物部分」と「書き込み部分」とで構成している。

中学校の冊子では、各内容項目を六ページ構成としている。一ページ目で内容を簡潔に示し、二から四ページ目には各教科や特別活動等でも活用できるよう配慮し、

考えるきっかけとなる素材などを配した。主に、五ページ目に人物のメッセージやコラムなどを、六ページ目には格言・名言等を配置した。

(1) 読み物部分

①読み物資料ページ
読み物資料は、重点化に係る内容項目を中心に九編掲載した。内容的にも読み応えがあり、深く考えることのできる読み物資料が中心となっている。

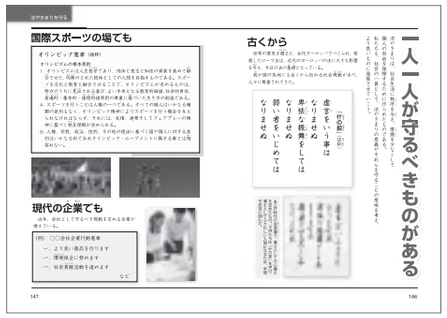
②内容項目に関わる読み物等のページ
内容項目に関わるメッセージやコラム、写真やイラストなどを掲載している。写真やイラストについては、児童生徒の発達の段階も考慮しつつ、より適切なものとなるよう配慮した。

③重点化ページ
指導内容の重点化については、中学校学習指導要領の道徳の「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」に次のような記載がある。

> 各学校においては、生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、指導内容の重点化を図ること。特に、自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすることなどに配慮し、生徒や学校の実態に応じた指導を行うよう工夫すること。また、悩みや葛藤等の思春期の心の揺れ、人間関係の理解等の課題を積極的に取り上げ、道徳的価値に基づいた人間としての生き方について考えを深められるよう配慮すること。

この記載に基づいて、「規律ある生活ができ、自分の将来を考えること」「人間関係の理解」「自他の生命の尊重」「法やきまりの意義の理解」「主体的に社会の形成に参画すること」「国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けること」「国際社会に生きる日本人関連した重点化に関わるページを設けている。

P.44～45



P.146～147

④特設ページ
情報モラル、いじめの問題に関する特設ページを設けた。情報モラルについては、関連する内容項目を通して扱うこととされているが、情報化が進み顕在化してきた問題の重大性からも、別に項目を立てて示した。いじめの問題については、関連する各内容項目においても繰り返し取り上げている。道徳の時間だけでなく、各教科等においても積極的に活用することが期待される。

⑤重視した内容例

●人物のコラム等

読み物部分には、偉人や著名人などの生き方に関する内容が多くあり、人物の生き方を通して生きることの魅力や意味の深さについて考えを深めることができる。

各内容項目の五ページ目には、「人物探訪」や「メッセージ」などを配置している。

生き方を考える際の参考になるだけでなく、その生き方に憧れや親しみを感じる人物などを取り上げている。

六ページ目には、「この人のひと言」などを配置し、内容項目に関連して考えるきっかけとなる格言・名言等を掲載している。

各内容項目の五・六ページ目には、人物に関連するもの以外にも、４―（２）大船渡市立第一中学校「希望新聞」、４―（３）東京都中学校生徒会長サミット「いじめ撲滅宣言」など内容項目に応じた事柄などについて掲載している。

P.20

message
希望

P.153

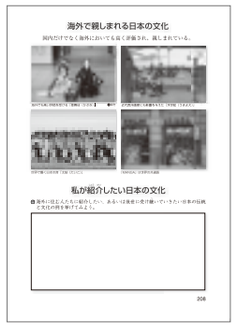
●いじめの問題への対応

いじめの問題に正面から向き合う内容や、善悪の判断、信頼・友情、規範意識、公正・公平などの内容、また、自他の生命の尊重に関する内容を充実している。

P.230

●我が国の伝統と文化

日本人としての自覚をもって、我が国の伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する意欲や態度の育成に資する内容を充実している。



P.208

●情報モラル

コンピュータや携帯電話等の急速な普及等による社会の情報化の進展に対応し、情報モラルに関する内容を充実している。

P.226

(2) 書き込み部分

書き込み部分については、家庭や地域の人から話を聞いて記入する欄を充実するなどの改善を図った。

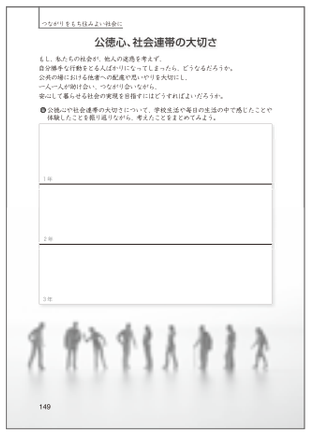
また、冊子内での段階的な指導がより容易となるように配慮し、複数学年にわたって使用する特性を踏まえて三学年分の書き込み欄を設けた所もある。

さらに、「今の私」「今の私　巣立ちのとき」として自分に関することを書き込むページや、「道徳の時間に感じたこと、考えたこと」「私が出会った言葉、心に響いたあのひと言」「家族からのメッセージ」を書き込むページも設けている。

書き込み欄は、書き込んだ日付を記入して、自分のための記録とするなどの工夫も考えられる。

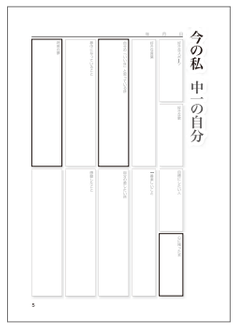
●書き込み欄

自分の成長を振り返ることができるように、学年別に書き込む欄がある。



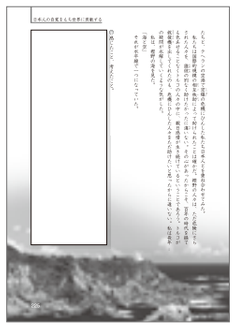
P.149

各学年の始まりや三年間の終わりの時期に、中学校生活について考え、自分に関することを書き込む「今の私」のページがある。



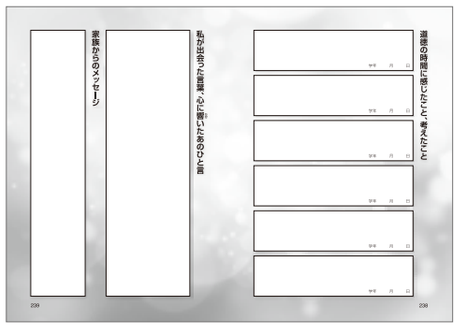
P.5

読み物資料を読んだ後に、感じたことや考えたことを書く欄がある。



P.225

道徳の時間に感じたこと、考えたことや、家族からのメッセージを書く欄がある。



P.238～239

2 「私たちの道徳」の活用

1 活用の留意事項

「私たちの道徳」は、学校での活用の他、家庭や地域での活用や、児童生徒が自主的に活用することもできる。各学校においては、家庭や地域での活用、児童生徒の自主的な活用が促されるよう、家庭や地域との連携を図るなどの適切な配慮が求められる。

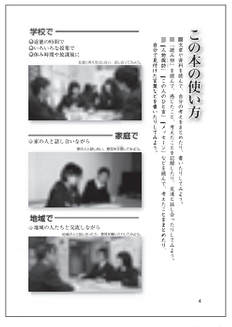
また、「私たちの道徳」は、児童生徒が複数学年にわたって使用するものであり、考えたことや書き込んだことを振り返って、自らの成長を実感しながら道徳性を育んでいくことができる。各学校においては、道徳教育の全体計画や道徳の時間の年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付けるなどして、活用方針や活用方法等についての共通理解を図り、児童生徒の発達の段階を踏まえて計画的に活用することが望まれる。

なお、道徳の時間においては、児童生徒が多様な角度から考えたり話し合ったりしながら、道徳的価値について考えを深めていくよう、「私たちの道徳」の効果的な活用の仕方も含めて指導方法を工夫していくことが求められる。その際、教師が一方的に教え込むのではなく、児童生徒の多様な発想や考えを大切にし、それを受け止めたり認めたりするなどして、話合いに生かしていくことが重要である。児童生徒一人一人の道徳性に係る成長を促すことができるよう、発言をどのように受け止めて話合いに生かすのかなども含め、指導の在り方を工夫していくことも求められる。

●この本の使い方

「私たちの道徳」には、「この本の使い方」のページがある。学校だけでなく、家庭で家の人と話し合いながら、地域で地域の人たちと交流しながら活用するための使い方を示している。

学校での活用に当たっては、道徳の時間だけでなく、いろいろな授業で、また休み時間や放課後においても活用できることを示している。



P.4

□文章や資料を読んで、自分の考えをまとめたり、書いたりしてみよう。

□「読み物」を読んで、感じたこと、考えたことを記録したり、友達と話し合ったりしてみよう。

□「人物探訪」「この人のひと言」「メッセージ」などを読んで、考えたことをまとめたり、自分で見付けた言葉などを書いたりしてみよう。

2 活用の例

(1) 道徳の時間での活用

読み物資料は、道徳の時間の中心的な資料とすることが考えられる。コラムの中にも、工夫次第で道徳の時間の中心的な資料になるものもある。

また、「人物探訪」「メッセージ」などの人物のコラムや先人の格言などを活用して、道徳的価値について考えを深めたりまとめたりすることができる。

さらに、児童生徒が自分自身を見つめたり、考えを整理したりする際に、書き込み欄を活用することができる。

〔人物のコラム〕

P.42

人物からのメッセージ
自分の生き方や考え方から道徳的価値に関わることを学ぶことができる。

人物の言葉
人物の主張に関することが端的に表された言葉。この言葉に込められた道徳的価値などについて考えることができる。

活用例

●生命尊重 3―(1)（一〇二から一一三ページ）

	学習活動	留意事項
導入	○これまでの生活を振り返って、生命のかけがえのなさについて感じたことを書いて発表する。（P.102～103）	・メッセージなどを基にして、主題に関わる問題意識をもたせたり、学習への雰囲気づくりをしたりする。
展開	○「キミばあちゃんの椿」を読んで話し合う。（P.108～113）	・読み物資料を基にして、自分との関わりで道徳的価値の自覚を深める。
	○「この人のひと言」について考える。（P.107）	・格言を基にして、道徳的価値に対する考えを深める。
終末	○「キミばあちゃんの椿」、「この人のひと言」を通して、感じたことや考えたことを書く。（P.113）	・書き込み欄を活用して、道徳的価値に対する自分の思いや考えをまとめる。

(2) 各教科等での活用

各教科等における道徳教育は、学校の道徳教育の目標や指導の重点に基づいて、意図的、計画的に行うことが大切である。

各教科等の指導を通じて児童生徒の道徳性を養うための視点としては、次のような点が挙げられる。

①道徳教育の目標や内容と各教科等の目標、内容及び教材との関わりを通した道徳性の育成

②学習活動や学習態度への配慮による道徳性の育成

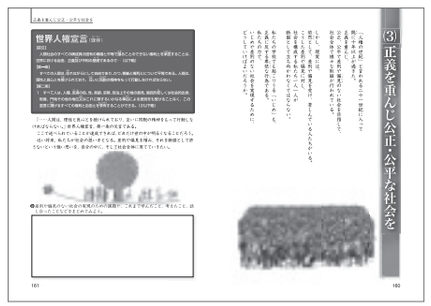
③教師の態度や行動からの感化を通じた道徳性の育成

また、各教科等においては、その目標や内容に応じて、「私たちの道徳」の関連するページを活用し、児童生徒の道徳性を育成することができる。

活用例

■社会科（公民的分野）（一六〇・一六一ページ）

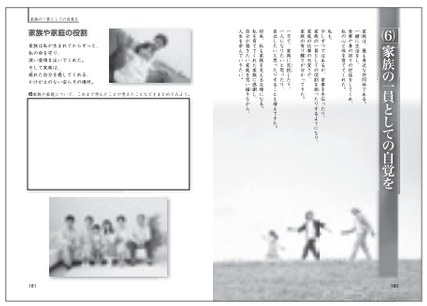
人権思想の歴史の学習において、一八世紀以降の世界の思想や第二次世界大戦後の世界や日本における基本的人権に関する取組を学ぶ際に、一六〇・一六一ページを活用して、人権の尊重の意義などについて話し合う。



P.160~161

■技術・家庭科（家庭分野）（一八〇から一八三ページ）

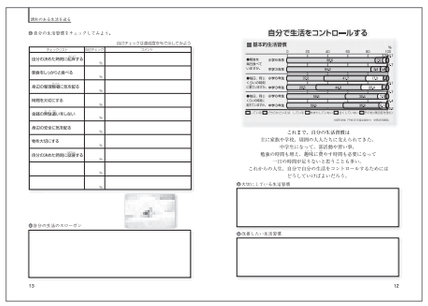
家庭や家族の基本的な機能について知るとともに、家族関係をよりよくする方法を考える際に、一八〇から一八三ページを活用して、家族について振り返り、自分が築きたい家庭について考える。



P.180~181

■保健体育科（保健分野）（十二・十三ページ）

健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があることを理解する際に、十二・十三ページを活用して自分の生活を振り返る。



P.12~13

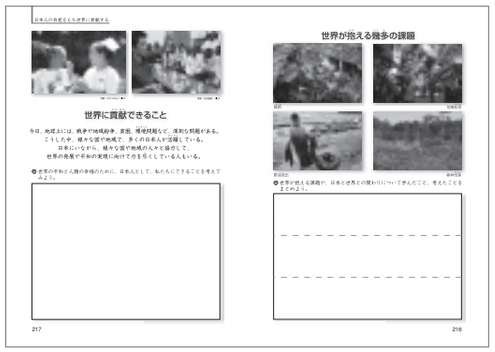
■総合的な学習の時間

総合的な学習の時間では、学習の動機付けや自らの生き方を考える際に「私たちの道徳」を活用することができる。

例えば、「私たちの道徳」の内容から課題を見付け、探究活動に取り組んでいくこともできる。また、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自らの生き方を考える際に、「私たちの道徳」を活用することもできる。

●国際理解を視点とした課題に関わる学習（二一六・二一七ページ）

外国の文化や習慣などを理解し、日本人としての自覚をもって世界の人々と積極的に交流しようとする探究的な学習のきっかけとして、世界の平和と人類の幸福のために私たちにできることを考える際に、二一六・二一七ページを活用することができる。



P.216~217

■特別活動

特別活動には、学級活動、生徒会活動、学校行事の内容がある。特別活動の指導に当たっては、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深める際に、「私たちの道徳」を活用することができる。

●学級活動（四〇・四一ページ）

自分自身の個性を考えて自尊感情を育み、個性の伸長を図ろうとする際に、四十・四十一ページを活用して、自分の「良い所」をどう磨き、「改めたい所」をどう改善していくのか考える。

P.40~41

(3) 家庭や地域との連携による活用

「私たちの道徳」は、学校に備え置くのではなく、家庭に持ち帰って、家の人と一緒に話し合うなど家庭や地域での活用もねらいとしている。

家庭に持ち帰らせるに当たっては、例えば、学校・学級通信等を通じて家庭での活用の仕方等を伝えたり、保護者会などで、家庭における「私たちの道徳」の活用の仕方を説明したりすることで、家庭での効果的な活用が促進されるような働き掛けを積極的に行うようにしたい。

「私たちの道徳」には、家庭や地域で話し合ったことを書き込んだり、家の人が書き込んだりする欄が多く設けられており、家庭や地域で広く活用できる。

例えば、「私たちの道徳」を家庭や地域で活用することで、学校における道徳教育への理解を深め、学校と家庭や地域が協力し合って地域全体で道徳教育を行うことができる。

また、「私たちの道徳」を介して、児童生徒が家庭や地域の人と共に活動したり、語り合ったりする機会を設けることができる。

このように、「私たちの道徳」を活用して、学校と家庭や地域が連携して道徳教育を行い、児童生徒の豊かな心を育んでいくことが望まれる。

なお、家庭や地域での活用に当たっては、家庭や地域の様々な実情を考慮する必要があり、学校は日頃より家庭や地域との連携を図って教育活動を行うことが大切である。

活用例

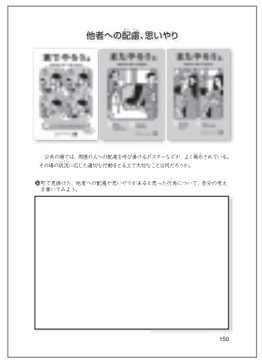
●人間としての誇りある生き方　（一二三ページ）

杉原千畝のコラムを読んで、千畝の生き方について家の人と感想を話し合う。また、その他、先人の伝記などから人間としての誇りある生き方を考えるきっかけとして、一二三ページを活用する。

P.123

●公徳心や社会連帯の大切さ　（一四八から一五三ページ）

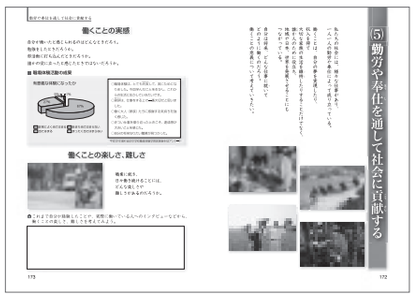
公徳心や社会連帯の大切さについて生活の中で感じたこと、また、町で見掛けた思いやりのある行為について、家の人と一緒に話し合い、よりよい社会づくりに向けた具体的な関わりを考える際に、一四八から一五三ページを活用する。



P.150

●働くことの意義と社会貢献　（一七二から一七七ページ）

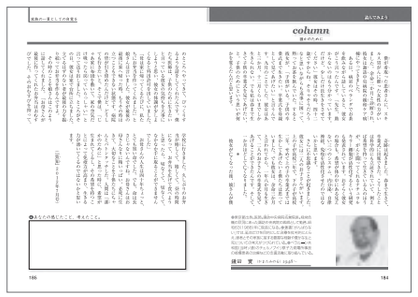
実際に働いている地域の人にインタビューを行って、働くことの意義や社会貢献について考える際に、一七二から一七七ページを活用する。



P.172～173

●家族の一員としての自覚　（一八四・一八五ページ）

家族の一員としての自覚をもって、充実した家庭生活を築く態度を養うために、一八四・一八五ページのコラム「誰かのために」を家の人と一緒に読んで感想を話し合い、家族の在り方について考え、家族に対する思いをまとめる。

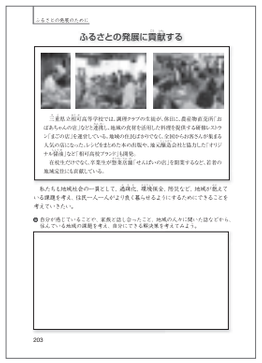


P.184～185

●ふるさとの発展への貢献　（二〇三ページ）

ふるさとに貢献するために、自分に何ができるかを考える際に、二〇三ページの三重県立相可高等学校の「まごの店」の運営などに関するコラムを活用する。

また、地域が抱えている課題を考え、住民一人一人がよりよく暮らせるようにするためにできることを、家の人と話し合って二〇三ページに書き込む。

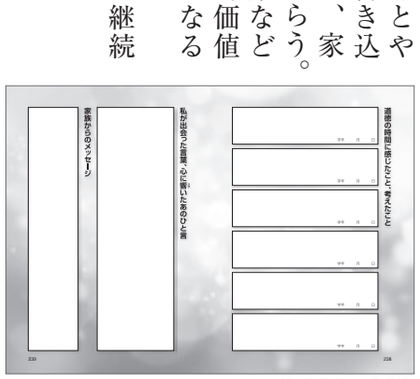


P.203

●道徳的な成長の実感　（二三八・二三九ページ）

道徳の時間に感じたことや考えたことについての書き込みを基に家庭で話し合い、家族からのメッセージをもらう。家の人から励ましの言葉などをもらうことで、道徳的価値への意識が高まり、さらなる実践意欲へとつながる。

学校と家庭が連携して継続的に活用する。



P.238～239

家庭や地域との連携による活用事例

P.82～95

2　人と支え合って
(6)　人々の善意や支えに応えたい
・　支え合い共に生きる

学習の流れ

1　家庭での学習

①家庭で家の人と一緒に八十六ページの振分親方の「メッセージ」を読み、感想を話し合う。
②八十三ページの文章を読み、これまでの生活を支えてくれた人々について、家の人の話を聞く。
③それらの人々が支えてくれたのはなぜかについて、家の人と話し合う。
④話し合ったことを踏まえて、八十三ページの書き込み欄「なぜ人は自分を支えてくれるのか、考えてみよう。」「なぜ感謝の気持ちをうまく表現できないことがあるのか、考えてみよう。」に自分の考えを記入する。

P.86

◆**ポイント**

家の人の話から、家族だけでなくたくさんの人々の支えがあって生活することができていることに気付く。

P.82～83

2　道徳の時間
（参観日などに、家庭や地域の人と共に考える）

①読み物資料「帰郷」を読んで、感じたことや考えたことを家庭や地域の人と共に話し合う。
②八十四ページの「伝えられなかった『ありがとう』」を読んだ後、八十五ページを読んで、伝えたい「ありがとう」と、伝えられてうれしかった「ありがとう」について考え、家庭や地域の人と意見を交流する。
③学習を通して、考えたことや感じたことをまとめる。

◆**ポイント**

感謝の気持ちはあるけれど、なかなか言葉にできないことがある。けれども、その気持ちを伝えることで、支え合う人間関係は、より深まっていく。

自分の心の中にある感謝の気持ちを率直に表現することの大切さに気付き、感謝の気持ちを表現しようとする意欲を高める。

P.84～85

3　家庭での学習（道徳の時間に考えたことを生かして）

①道徳の時間に考えたことや話し合ったことを、家の人に伝える。
②家庭で家の人と一緒に、九十四・九十五ページの「知命」を読んで、感想を話し合う。
③人の支えに感謝し、それに応えるとはどういうことか話し合う。

◆**ポイント**

人は誰かの支えや善意で生きていること、そして、その支えや善意に感謝し、それに応えることの大切さに気付く。

P.94～95

家庭や地域との連携による活用事例

P.172〜177

学習の流れ

１ 道徳の時間

①一七六ページの鈴木邦雄氏の「メッセージ」や、一七七ページの「この人のひと言」を読んで、働くことの喜びや意義について話し合う。
②仕事に生きがいを感じている地域の人の話を聞いて、働くことについての感想を話し合う。
③自分は将来、どのような仕事に就きたいと思っているか、グループで話し合う。

◆ポイント

働くことへの関心をもち、働くことの意義を見いだそうとする課題意識をもつ。

P.176〜177

２ 家庭での学習（道徳の時間に考えたことを生かして）

①道徳の時間に考えた働くことの意義を家の人に伝える。
②働くことの喜びや意義について、家の人の話を聞いて、一七三ページの書き込み欄に記入する。

◆ポイント

家の人から勤労に関する話を聞いて、働くことの喜びや意義などをより具体的に考える。

P.172〜173

４ 社会に生きる一員として

(5) 勤労や奉仕を通して社会に貢献する

３ 学級活動（家庭での学習を生かした職場体験活動の事前学習）

①働くことの喜びや意義について、家の人から聞いたことを発表し合う。
②職場体験活動を通して感じたり考えたりした働くことの喜びや意義を先輩から聞く。（ビデオレター形式でもよい。）
③職場体験活動に当たっての目標や取り組みたいことを発表する。

４ 学校行事（職場体験活動）

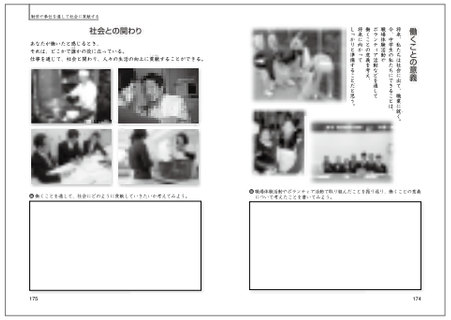
各職場で職場体験活動を行う。

５ 家庭での学習（職場体験活動の振り返り）

①職場体験活動を通して考えた働くことの意義について、一七四ページの書き込み欄に記入する。

◆ポイント

職場体験活動を通して、自分なりに感じた働くことの意義をまとめる。
また、将来、職業人、社会人として自立し、生きがいのある人生を築こうとする意欲や態度へとつなげていく。



P.174〜175

６ 生徒会活動「志フォーラム」（家庭や地域の人と共に考える）

※例えば、「志フォーラム」と題した勤労と社会貢献をテーマとする発表会を生徒会で行うための準備をする。

「志フォーラム」では、道徳の時間や職場体験活動を通して学んだことを発表する。
①職場体験活動の活動報告を行う。
②生徒代表、職場体験活動で世話になった職場の方、保護者代表など数名程度のシンポジウム形式で、働くことの喜びや意義、社会への貢献などについて、それぞれの立場から考えていることを語り合う。
③「私たちの志」発表を行う。
・働くことを通して、社会にどのように貢献していきたいかなど、自分の思いを「私たちの志」としてまとめてグループで発表する。

◆ポイント

この学習の始めの頃に感じていた勤労観と職場体験活動後の勤労観の違いを比較し、勤労と社会貢献に関してどのように考えが深まったのか、自分の考えをまとめる。また、働くことを通して、自らの人生を切り拓いていこうとする態度を育んでいく。

家庭や地域との連携による活用事例

P.200～205

4　社会に生きる一員として
(8)　ふるさとの発展のために

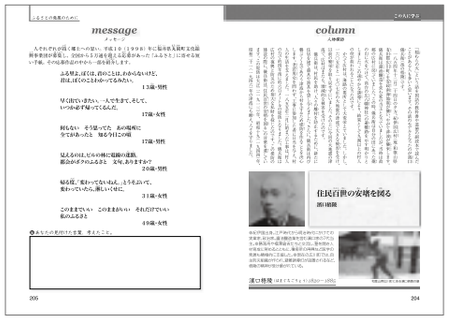
学習の流れ

1　道徳の時間

①二〇四ページの濱口梧陵の「人物探訪」を読んで考えたことを発表する。
②二〇五ページの「メッセージ」を読んで考えたことを発表する。
③自分たちが生活している地域の伝統や文化、それをつくり上げてきた先人や高齢者について、自分が知っていることを話し合う。

◆ポイント

「人物探訪」や「メッセージ」などから、自分たちが生まれ育った地域に関心をもち、ふるさとの魅力を探っていこうとする課題意識をもつ。



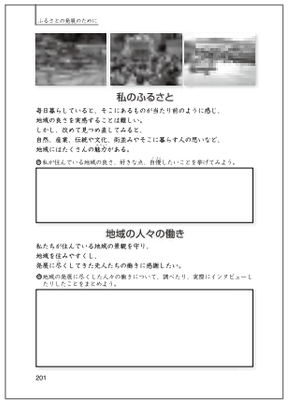
P.204～205

2　家庭での学習（道徳の時間に考えたことを生かして）

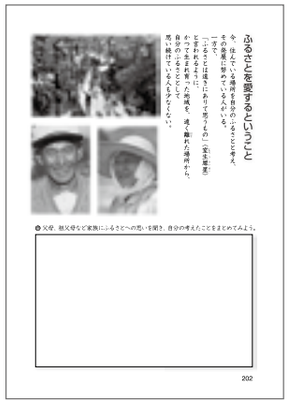
①自分が住んでいる地域のよさや好きな点、自慢したいことを二〇一ページの書き込み欄に記入する。
②家の人からふるさとへの思いを聞き、自分の考えたことを二〇二ページの書き込み欄に記入する。

◆ポイント

地域の発展に尽くした先人や高齢者によって自分たちの生活が支えられていることを自覚し、ふるさとのよさを感じるとともに、ふるさとのために自分たちが貢献していきたいという意欲をもつ。



P.201



P.202

3　学校行事

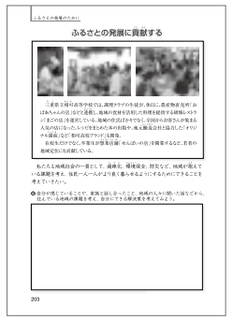
校区の小学生、中学生、保護者、地域住民が協働して花の苗植え、ゴミ拾いなどのボランティア活動を行う。
①自己紹介をして「自分が思うふるさとのよさ・好きな点」を発表し合う。
②地域ごとの異年齢グループで、環境美化活動を行う。
③活動を振り返る。
※学校便りやホームページなどの広報、参観日や保護者会などの機会を通して、活動の様子や感想を家庭や地域の人に伝える。

4　学級活動

①ふるさとへの思いについて、家の人から聞いたことやボランティア活動の感想を発表する。
②道徳の時間や総合的な学習の時間（特に地域や学校の特色に応じた課題をテーマとした学習）で学んだことを基に、住んでいる地域の課題を考え、自分にできる解決策を二〇三ページの書き込み欄に記入する。
③地域の課題と解決策を話し合う。

◆ポイント

地域の人たちの関わりや、地域社会の実態を把握するとともに、地域の課題を解決しようとする意欲をもつ。



P.203

5　生徒会活動「子供議会」（これまでの学習を生かして）

①これまで学習してきたことを基に、自分たちが考えた地域の課題の解決策について提言し、行政担当者等と話合いをする。
地域の課題【例】
- 高速道路の完成による観光客誘致について
- ユニバーサルデザインによる公園の整備について
- 文化的・歴史的遺産の保存や伝承について
- 川の水質汚染の状況と対策について

②中学生と行政担当者等が、それぞれの立場から、ふるさとへの思いや発展に向けた考えを語り合う。
※自治体の広報紙等で様子や感想を地域住民に伝える。

◆ポイント

地域社会の一員としての自覚を深め、主体的にふるさとの発展に努めようとする態度を育んでいく。

3 「私たちの道徳」の活用を促す「道徳教育の全体計画」

1 「私たちの道徳」を位置付けた道徳教育の全体計画

「私たちの道徳」の活用に当たっては、道徳教育の全体計画に「私たちの道徳」を位置付けるなどして、活用方針や活用方法などについて、学校内で共通理解を図って活用することが望まれる。

全体計画への「私たちの道徳」の位置付けについては、学校の全教育活動を通じた「私たちの道徳」の活用方針、また、道徳の時間や各教科等のそれぞれの教育活動における「私たちの道徳」の活用方針、さらには、学校と家庭や地域との連携による「私たちの道徳」の活用方法などを示すことが考えられる。

また、「私たちの道徳」をより効果的に活用していくために、活用状況等を振り返って、全体計画を見直し、工夫・改善を図っていくことが望まれる。

さらに、各教科等の指導計画などにも必要に応じて「私たちの道徳」の活用を盛り込み、全教育活動を通じて「私たちの道徳」の効果的な活用を図っていくことも期待される。

2 道徳教育の全体計画に「私たちの道徳」を位置付ける際の配慮事項

○校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に、学校内で共通理解を図って、全体計画に「私たちの道徳」を位置付けるようにする。

○学校の教育目標、道徳教育及び各学年の重点目標の下、学校の特色や実態、課題等に即して、「私たちの道徳」の効果的な活用の仕方などを考える。

○学校と家庭や地域との連携、また、小・中学校の連携などによる効果的な活用方法を考える。

○組織的で一貫性のある道徳教育を効果的に推進するために、「私たちの道徳」の活用状況等を振り返って、全体計画の評価と工夫・改善を図る。

●「私たちの道徳」の活用に関する全体計画の評価の視点〔例〕

①共通理解の下に、学校の教育活動全体を通じて効果的な活用が図られたか。
②道徳の時間において、効果的な活用が図られたか。
③各教科等において、児童生徒の道徳性を養う視点から効果的に活用することができたか。
④生徒指導や体験活動などに効果的に生かすことができたか。
⑤家庭や地域との連携を深める視点から有効な活用が図られたか。

3 「私たちの道徳」の活用について示した道徳教育の全体計画の例

平成○年度

学校の教育目標

日本国憲法
教育基本法・学校教育法
学習指導要領
教育委員会の目標など

確かな学力を身に付け、
心豊かにたくましく
地域社会に貢献できる生徒の育成

生徒の実態
保護者や地域の願い
教職員の願い・目指す生徒像
現代社会の課題と要請など

道徳教育の重点目標

1　基本的な生活習慣を身に付け、自ら考え、判断し、進んで行動しようとする態度を育てる。
2　礼儀正しく、時と場に応じた適切な言動をとろうとする態度を育てる。

各学年の重点目標

第1学年	第2学年	第3学年
基本的な生活習慣の定着を図り、自分で考え判断し、行動に責任をもつ態度を育てる。	自分のよさを伸ばし、相手の立場を尊重しながら、共に高め合う態度を育てる。	広い視野をもち、物事に最善を尽くし、理想を求めて自己の人生を切り拓く態度を育てる。

道徳の時間の指導方針

各教科、総合的な学習の時間、特別活動等との関連を図り、それらにおける道徳教育を補充、深化、統合し、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する。

「私たちの道徳」活用の基本方針	○年間35時間の道徳の時間の中で、計画的に活用する。 ○道徳の時間の中で1時間を通して活用するなどの工夫をする。 ○家庭や地域社会との架け橋として「私たちの道徳」を活用する。

各教科

各教科の特質に応じて、関連する内容を含んだ「私たちの道徳」のページを生かすことなどを通して、自己の生き方を考える機会を充実する。

国語	互いに立場や考えを尊重しながら言葉で伝え合う力を高める言語活動を通して、表現力や理解力を育てる。 →関連するページ P.54～59、P.72～81、P.82～95など
社会	我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者としての態度や能力を育てる。 →関連するページ P.206～211、P.212～225など
数学	数学的活動を通して、自分の考えを数理的に考察し、筋道を立てて考え、表現する能力を高める。 →関連するページ P.16～21、P.22～27など

特別活動

学級活動　友達のよさを認め合い、集団生活の向上を目指そうとする態度を育てる。
進路指導　自己の生き方を見つめ、自己の目標を定めて努力しようとする能力・態度を育てる。
生徒会活動　自己の責任を果たすとともに、よりよい学校づくりを目指す態度を育てる。
学校行事　集団の一員としての自覚を深め、学校生活の充実と発展に努めようとする態度を育てる。
→様々な体験活動等の特質を踏まえ、「私たちの道徳」を活動内容に関連させたり、事前、事後指導に活用したりする。
→主に関連するページ P.166～171、P.172～179など

総合的な学習の時間

○自ら課題を見付け、学び、考え、主体的に判断して、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
○学び方やものの考え方を身に付け、問題解決や探究活動を通して、自己の生き方を考えることができるようにする。
→課題をつかむための資料や、課題の追究を深めたり広げたりするための資料などとして「私たちの道徳」を柔軟に活用できるようにする。
→主に関連するページ P.16～45、P.226～237など

家庭・地域社会との連携

○学校公開日や授業参観及び保護者会をはじめ、学校便りや道徳通信、ホームページ等を通して道徳教育について交流を図る。
○地域の諸行事への参加などを通して、生徒の健全育成と豊かな心を育てるための共通理解と相互連携を推進する。
→道徳教育への共通理解を深め、相互連携を図るために、各種通信の発行や公開授業等の際に「私たちの道徳」を活用する。

＊［　］は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

4 「私たちの道徳」を位置付けた道徳教育の全体計画の別葉

(1) 道徳教育の意図的、計画的な展開

平成二十年の学習指導要領の改訂において、道徳教育の全体計画に各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を示すことが新たに求められた。一覧表としての全体計画に必要な各事項について文章化したり、具体化したりした別葉を加えることで、教育活動全体を通じて行われる道徳教育を意図的、計画的に展開することが容易となり、全体計画が具体的な教育実践に生きて働くものとなる。

学習指導要領解説道徳編では、別葉として、次の例が示されている。

①各教科等における道徳教育にかかわる指導の内容及び時期を整理したもの
②道徳教育にかかわる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
③道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるもの

各学校においては、道徳教育推進教師を中心とした協力体制と共通理解の下、創意工夫を生かした様々な別葉が作成されることが期待される。その際、「私たちの道徳」の活用についても別葉に適切に盛り込むことが重要である。

(2) 別葉を作成することで期待される効果

道徳教育の全体計画に、「私たちの道徳」の活用を盛り込んだ別葉を加えることで様々な効果が期待できる。

例えば、道徳教育の全体計画には、学校や地域の実態に応じた重点目標が示されている。その重点目標や各学年の重点項目と学校の教育活動がどのように関連し、展開されていくのか、その際、「私たちの道徳」をどのように活用するのかなどを別葉において示すことで、目標を明確に意識して、一貫した指導方針の下、「私たちの道徳」を効果的に活用しながら、より重点的、具体的な指導を行うことができる。

また、各教科等における学習と道徳の内容との関連を考える際に、「私たちの道徳」の内容を参考にすることができる。「私たちの道徳」の活用を考慮しながら、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容を別葉に示すことで、全教育活動を通じた意図的、計画的な道徳教育の指導をより具体的に構想し、実践に生かすことができる。

さらには、家庭や地域と連携して行う道徳教育の活動や、家庭や地域との連携による「私たちの道徳」の活用の方法等を示した別葉を作成することで、家庭や地域との共通理解を図りつつ、より具体的な活動によって連携を深め、児童生徒の豊かな心を育んでいくことができる。

5 「私たちの道徳」の活用について示した道徳教育の全体計画の別葉の例

(1) 道徳の時間と各教科等における道徳教育に関わる内容及び時期を示した例

（第１学年）

	道徳の時間	各教科等	数　学	総合的な学習の時間	特別活動		
					学級活動	生徒会活動	学校行事
4月	(1) 1－(3) 自主自律 『ネット将棋』 （「私たちの道徳」P.22～31）	学習内容	「正の数・負の数」 正、負の加法・減法の仕組みを理解する。	「郷土まち探検」 自分たちが住む郷土について調べる探究的な学習を行う。	「1年生になって」 目標の設定、学級組織づくりをして、中学校生活の充実を図る。	「生徒会オリエンテーション」 生徒会の計画や運営について理解する。	始業式、入学式、身体測定、健康診断
	(2) 2－(3) 真の友情 『違うんだよ、健司』 （「私たちの道徳」P.60～65）	関連する道徳の内容項目	1－(4) 真理を愛する	4－(8) 郷土の発展に尽くした先人への尊敬と感謝の念	1－(2) 目標に向かう強い意志 4－(7) 学級・学校の一員としての自覚	4－(7) 学級・学校の一員としての自覚	1－(1) 基本的な生活習慣 1－(2) 目標に向かう強い意志
	(3) 3－(3) 良心のめざめ 『二人の弟子』 （「私たちの道徳」P.120～131）	「私たちの道徳」	P.32～37	P.200～205	P.16～21、 P.194～199	P.194～199	P.10～15、 P.16～21

（第３学年）

道徳の内容 ＼ 教科等		国語	社会	保健体育	総合的な学習の時間	特別活動	道徳の時間	
							資料	「私たちの道徳」（活用ページ）
一　自分自身に関すること	(1)望ましい生活習慣、健康、節度			運動、食生活、休養と睡眠、生活習慣病と健康（5月）		学級開き・組織づくり（4・10月）、生徒総会議案審議（5・1月）	すてる思考の整理学（5月）	導入P.10 終末P.13
	(2)希望、勇気、強い意志	故郷（9月）		喫煙、飲酒、薬物乱用と健康（6月）	総合発表会（12月）	目標づくり（4・10月）、二学期に向けて（7月）	メッセージ〈松井秀喜〉（4月）	導入P.16 終末P.17
	(3)自主・自律、誠実、責任		自由権、社会権、社会の変化と「新しい人権」（9月）	性感染症とその予防（9月）			ネット将棋（9月）	導入P.22～23 終末P.26
	(4) 真理愛、理想の実現		田中正造（4月）				『忘れ残りの記』より（7月）	導入P.32 終末P.35
	(5)向上心、個性の伸長、充実した生き方			器械運動（10月）	生き方を考える（10－12月）	学校祭（9月）	メッセージ〈山中伸弥〉（10月）	導入P.38～40 終末P.41
二　他の人との関わ…	(1)礼儀	敬語（5月）		集団行動（4月）			Vサイン（4月）	導入P.48～49 終末P.53
	(2)人間愛、思いやり		世界の平和のために（12月）、よりよい地球社会のために（1月）				賢者の贈り物（12月）	導入P.54～55 終末P.56
	(3)信頼、友情			ダンス（11月）			嵐の後に（11月）	導入P.60～61 終末P.62

＊　は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

(2) 各教科等における「私たちの道徳」の活用方針の例

(1) 各教科の学習内容との関連で活用する

●国語科（四十八から五十三、六十から八十一、二〇六から二一三ページ）
伝え合う力を高め、言語感覚を豊かにすることは、相手の立場や考えを尊重し、感性や情操を豊かにし、望ましい人間関係をつくっていくことにつながる。また、国語を尊重する態度を育てることは、我が国の文化や伝統を大切にする心を育てることにつながる。

●社会科
（二十二から三十一、一三三から一六五、一七二から一七九、二一四から二二九ページ）
社会に対する関心を高め、民主的平和的な国家・社会の一員として責任のある行動がとれるための公民的資質を養うことは、人間としての生き方を追求する道徳教育と大きな関連をもつものである。

●数学科（三十二から三十七ページ）
事象を数理的に考察する能力を高め、数学的な見方や考え方のよさを知り、それらを進んで活用する態度を育てることは、筋道を立てて考える能力を育て、道徳的判断力の育成にも資するものである。

●理科（十から十五、一〇二から一一三ページ）
科学的に調べる能力と態度の育成や生物学的な見方や考え方は、道徳的判断力の育成や心情の涵養（かんよう）と深く関わるものである。

●音楽科（一一四から一三一ページ）
音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重する心に通じており、このことにより、豊かな情操を養うことにつながる。

●美術科（一一四から一一九ページ）
美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育て、心豊かな生活を創造していく意欲や態度を育てることや、美術の基礎的能力を伸ばし、豊かな情操を養うことは、道徳性の基礎を養うことになる。

●保健体育科
（十から十五、六十六から八十一、一〇二から一一三、一六六から一七一ページ）
健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図ることや、生命の誕生や心身の成長を理解することは、明るく豊かな生活を営む態度を育成する。

●技術・家庭科
（十から十五、六十六から八十一、一〇二から一一三、一四八から一五九、一七二から一九三ページ）
家庭生活を営んでいく基礎的知識を学び、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てることは、自分の生き方を考え、生活をよくしようとすることであり、道徳教育の基本である。

●外国語科（四十八から五十、二〇六から二一七ページ）
言語やいろいろな国・地域の慣習や文化に対する理解を深めることは、豊かな人間関係を築いていく上で必要なものである。

(2) 道徳の時間に活用する
①導入段階の題材として……写真や文などを用いて、主題への関心を高める。
②展開段階の中心的な資料として……読み物資料などを活用して道徳的価値について考え、話し合う。
③展開段階の補助的な資料として……参考資料を得、内容を深める。
④生徒が体験を想起するときに……記入内容について発表し合い、体験を基に、価値の自覚を深める。
⑤終末段階の題材として……学習したことを明確にし、考えをまとめる。
⑥事前や事後に……学習につながる問い掛けや、発展的な問い掛けをする。

(3) 特別活動の各内容と関連させて活用する
（六十から九十五、一六〇から一七一、一九四から一九九ページ）
学級活動では、学級集団の一員としての自覚の下に、学級や学校の生活の充実と向上に関する活動を行う。生徒会活動では、学校生活の充実や改善向上を図るために、生徒による自発的、自治的な活動を展開する。また、学校行事においては全校や学年を単位として、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行う。

(4) 総合的な学習の時間の動機付けや自己の生き方を考える際などに活用する
（三十二から三十七、一四八から一七九、二〇六から二二九ページ）
総合的な学習の時間は、地域や学校の実態に応じて、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題や生徒の興味・関心に基づく課題についての学習活動を行う。

(3) 各教科等における「私たちの道徳」の活用計画の例

ページ	タイトル（読み物資料活用学年）	内容項目	教科等との関連										
			国	社	数	理	音	美	体	技	外	特	総
4	この本の使い方												
5～7	今の私												
8～9	自分を見つめ伸ばして											○	○
10～15	調和のある生活を送る	1－（1）				○	○		○	○		○	○
16～21	目標を目指しやり抜く強い意志を	1－（2）	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
22～27	自分で考え実行し責任をもつ	1－（3）										○	○
28～31	読み物資料「ネット将棋」（2年）	1－（3）							○	○		○	
32～37	真理・真実・理想を求め人生を切り拓（ひら）く	1－（4）			○	○						○	○
38～43	自分を見つめ個性を伸ばす	1－（5）						○				○	○
44～45	自分を深く見つめて											○	○
46～47	人と支え合って								○			○	○
48～53	礼儀の意味を理解し適切な言動を	2－（1）	○								○	○	○
54～59	温かい人間愛の精神と思いやりの心を	2－（2）	○					○				○	○
60～65	励まし合い高め合える生涯の友を	2－（3）										○	○
66～71	異性を理解し尊重して	2－（4）		○					○	○		○	○
72～77	認め合い学び合う心を	2－（5）	○		○								
78～81	読み物資料「言葉の向こうに」（3年）	2－（5）	○							○		○	○
82～87	人々の善意や支えに応えたい	2－（6）										○	○
88～93	読み物資料「帰郷」（2年）	2－（6）					○					○	
94～95	支え合い共に生きる		○										

	ページ	内容項目	特別活動	総合的な学習の時間	教科	活用場面例
○自分を見つめ伸ばして	8					
・調和のある生活を送る	10	1－（1）	健康		理・保・家	長期休業日の前後
・目標を目指しやり抜く強い意志を	16	1－（2）	目標			学年始め、学期始め
・自分で考え実行し責任をもつ	22	1－（3）	責任			諸問題の解決
・真理・真実・理想を求め人生を切り拓く	32	1－（4）	進路			進路学習
・自分を見つめ個性を伸ばす	38	1－（5）	長所短所			家庭での話合い
○人と支え合って	46					
・礼儀の意味を理解し適切な言動を	48	2－（1）		職場体験活動	国	職場体験活動前後 ボランティア活動前後
・温かい人間愛の精神と思いやりの心を	54	2－（2）		ボランティア活動	国・美	
・励まし合い高め合える生涯の友を	60	2－（3）	友情		社・保	友達との関わりに関する学習
・異性を理解し尊重して	66	2－（4）	男女理解		家・社	男女理解を深める学習
・認め合い学び合う心を	72	2－（5）	様々な考え		国	討論活動
・人々の善意や支えに応えたい	82	2－（6）	感謝		国	家庭での話合い

4 「私たちの道徳」の活用を促す「道徳の時間の年間指導計画」

1 「私たちの道徳」を位置付けた道徳の時間の年間指導計画

「私たちの道徳」の活用に当たっては、道徳の時間の年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付けるなどして、活用場面や活用方法などについて学校内で共通理解を図って活用することが望まれる。

「私たちの道徳」に掲載されている読み物資料、コラムや格言、書き込み欄などについては、道徳の時間の中心的な資料として活用したり、学習指導過程の一部で活用したりすることが考えられるが、内容等に応じて、発達の段階を考慮して計画的に活用していくようにしたい。

なお、「私たちの道徳」に掲載されている内容等は、三学年で割り振って活用するものや、三学年繰り返して活用するものなどを学年間で協議したり、共通理解を図ったりして計画的に活用することが重要である。

また、「私たちの道徳」をより効果的に活用していくために、活用状況等を振り返って、年間指導計画を見直し、工夫・改善を図っていくことが望まれる。

学習指導要領解説道徳編には、年間指導計画に明記しておくことが望まれる内容として、次の内容が示されている。

（1）各学年の基本方針
（2）各学年の年間にわたる指導の概要
ア　指導の時期
イ　主題名
ウ　ねらい
エ　資料
オ　主題構成の理由
カ　展開の大要及び指導の方法
キ　他の教育活動等における道徳教育との関連
ク　その他（保護者や地域の人々の参加・協力の計画等）

2 道徳の時間の年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付ける際の配慮事項

(1) 共通理解の下、見通しをもって計画を立てる

「私たちの道徳」の読み物資料等を三学年のうちのどの学年で活用するのかを三学年間で検討し、各学年の年間指導計画に位置付ける。また、三年間を見通した重点的指導や「私たちの道徳」の活用の仕方などについて共通理解を図って計画に位置付けていくことが大切である。

(2) 計画の弾力的な取扱いについて配慮する

三年間の見通しをもって「私たちの道徳」を位置付けること、また、計画的に扱うことを基本としながらも、学級の実態や学級担任の創意工夫によって弾力的な取扱いも考えられる。

学級の実態等に応じて計画を変更する場合には、学校内での共通理解を図ることが望まれる。

(3) 計画の工夫・改善を図る

年間指導計画が一層効果的に機能するためには、実践の振り返りに基づき、年間指導計画の評価と改善を行うことが重要である。年間指導計画には、「私たちの道徳」の活用状況や活用を通して気付いたことなどを書き込む欄を設けるなどして、年間指導計画の評価と工夫・改善を行っていくことが望まれる。

改善に当たっては、校内研修や学年会等で、「私たちの道徳」の活用の仕方について情報交換や研修等を行ったり、道徳教育推進教師や学年主任等が他の教師に指導・助言をしたりして「私たちの道徳」の効果的な活用についての研鑽（けんさん）を深め、よりよい改善を図っていくようにしたい。

(4) 計画に多様な指導方法を取り入れる

指導のねらい及び内容に基づいて、「私たちの道徳」を効果的に生かした指導、各教科等との関連を図った指導、道徳的実践に生かす指導、発達の段階に応じた指導などについて多様な指導方法を取り入れた計画になるように工夫する。

●年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付け、活用し、工夫・改善を図る取組〔例〕

①校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心にして、主題の設定や配列、活用する資料等について三学年間で協議したり、共通理解を図ったりする。
②年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付ける際の配慮事項等に即して、各学年等で年間指導計画を作成する。
③作成した年間指導計画についての共通理解を図る。
④各学級では、年間指導計画に基づいた授業実践を行う。計画については、学級の実態や学級担任の創意工夫によって柔軟な扱いも大切にする。また、実践後は、気付いた点や変更した点などを計画に記しておく。
⑤学期ごとなどに年間指導計画の実施状況等について振り返り、共通理解を図ったり、今後の工夫・改善に生かしたりする。

3 「私たちの道徳」の活用について示した道徳の時間の年間指導計画の例

(1) 主題等一覧に「私たちの道徳」の活用について示した例

月	週	主題名	内容項目	資料名	ねらい	「私たちの道徳」の活用（読み物資料を除く）
1	1	国際理解	4－(10)	海と空 ―樫野の人々―	国際的視野に立って人類の幸福に貢献しようとする態度を養う。	P.217を終末で活用する。P.219を読む。
	2	生命尊重	3－(1)	キミばあちゃんの椿	生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を精一杯生きようとする意欲を培う。	P.103、P.105を終末で活用する。
	3	きまりを守る	4－(1)	二通の手紙	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を育てる。	P.134～137を終末で活用する。
2	1	責任ある行動	1－(3)	裏庭での出来事	自ら判断しなくてはならない状況のときに、自ら考え責任をもって自主的に行動しようとする態度を育てる。	P.22～23を導入で活用する。
	2	家族愛	4－(6)	一冊のノート	父母や祖父母に深い愛情をもって育てられたことを自覚し、家族に対する敬愛の念を深める。	P.182～183を終末で活用する。

＊　は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

(2) 展開の大要の欄に「私たちの道徳」の活用について示した例

期日	○○月○○日（○）
主題名	自主自律　内容項目1－(3)
ねらい	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を養う。
資料名	「ネット将棋」（私たちの道徳）
展開の大要	○一手一手に考え込んでいるふりをして、徹底的に時間稼ぎをしている僕はどのようなことを考えているのだろう。 ○どう考えて、僕はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろう。 ◎敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、僕が笑えなかったのは、どのようなことを考えているからだろう。
「私たちの道徳」の活用	P. 22～27「自分で考え実行し責任をもつ」を活用し、誠実に他者に接することの大切さについて考える。
他の教育活動等との関連	学級活動（自己理解と生活設計）

《授業についての生徒アンケート》	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
今日の道徳授業はためになった。	%	%	%	%
自分の思いや考えをもち、振り返ることができた。	%	%	%	%
資料がよかった。	%	%	%	%

成果と課題	

＊　は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

(3) 重点内容に関する年間指導計画に「私たちの道徳」の活用について示した例

月	重点内容	取り組む教科等、行事	「私たちの道徳」対応ページ	具体的な取組
6	情報モラル	技術分野、学級活動、総合的な学習の時間、道徳	P. 226～229	○コンピュータ、携帯電話などの適切な使い方について学習する。 ○情報モラルについて講演を開催する。
10	いじめの問題への対応	生徒会活動、学級活動、総合的な学習の時間、道徳	P. 230～237	○生徒会が中心になり、いじめ撲滅のためのスローガンを掲げ、全校生徒に呼び掛ける。 ○人間関係づくりの活動に学級で取り組む。
1	我が国の伝統文化	社会科、学級活動、総合的な学習の時間、道徳	P. 206～211	○地域巡り等を行って、地域のよさや地域の歴史について学習する。 ○社会科の時間に地域の歴史、文化について学ぶ。 ○道徳の時間に我が国の伝統と文化についての考えを深める。

＊　は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

(4) 「私たちの道徳」の読み物資料活用一覧の例

内容項目【主題名】「私たちの道徳」資料名	ねらい	対象学年			他の教育活動等との関連
		1年	2年	3年	
1－(3)【責任・誠実】ネット将棋	自分で考え、実行し責任をもつ態度を育てる。		4月		情報モラル
2－(5)【認め合う心】言葉の向こうに	立場を尊重し、多様な見方や考え方があることを理解し、寛容な心をもとうとする態度を育てる。	5月			学級活動、生徒会活動、情報モラル、いじめの問題
2－(6)【感謝】帰郷	多くの人に支えられ、それに感謝する態度を育てる。		10月		社会科、家庭分野
3－(1)【生命尊重】キミばあちゃんの椿	生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を精一杯生きようとする意欲を培う。			2月	理科、家庭分野、総合的な学習の時間
3－(3)【人間の気高さ】二人の弟子	自己の弱さ醜さと向き合い、それを克服することで誇りある生き方に近づく態度を育成する。			12月	
4－(1)【規則の意義】二通の手紙	誠実に実行し、その結果に責任をもとうとする態度を育てる。			1月	公民的分野、校外学習でのルール
4－(2)【住みやすい社会】鳩が飛び立つ日―石井筆子―	社会全体に目を向け、よりよい社会の実現に努めようとする意欲を育てる。		9月		公民的分野、家庭分野、生徒会活動、ボランティア活動、地域での職場体験活動
4－(6)【家族愛】一冊のノート	家族の有り難さに気付き、家族との関わりを通し、充実した家庭生活を築く意欲を育てる。		1月		家庭分野、学級活動、保護者会
4－(10)【国際理解】海と空―樫野の人々―	日本人としての自覚をもち、世界に貢献する態度を育てる。			9月	外国語科、総合的な学習の時間

＊　は、「私たちの道徳」の活用に関する箇所

■「私たちの道徳」の内容の構成

	小学校一・二年【内容項目数 16】	小学校三・四年【内容項目数 18】	小学校五・六年【内容項目数 22】	中学校【内容項目数 24】
スタートページ	●この本のつかい方 ●あなたのことを教えてね	●この本の使い方 ●自分のことを書いてみよう	●この本の使い方 ●これが今の私	●この本の使い方 ●今の私
1主として自分自身に関すること	**自分を見つめて** 【内容項目数 4】	**自分を高めて** 【内容項目数 5】	**自分をみがいて** 【内容項目数 6】	**自分を見つめ伸ばして** 【内容項目数 5】
2主として他の人との関わりに関すること	**人とともに** 【内容項目数 4】	**人と関わって** 【内容項目数 4】	**人とつながって** 【内容項目数 5】	**人と支え合って** 【内容項目数 6】
3主として自然や崇高なものとの関わりに関すること	**いのちにふれて** 【内容項目数 3】	**命を感じて** 【内容項目数 3】	**命をいとおしんで** 【内容項目数 3】	**生命を輝かせて** 【内容項目数 3】
4主として集団や社会との関わりに関すること	**みんなとともに** 【内容項目数 5】	**みんなと関わって** 【内容項目数 6】	**みんなとつながって** 【内容項目数 8】	**社会に生きる一員として** 【内容項目数 10】
特設ページ		■コンピュータやけい帯電話などをどのように使えばよいのでしょうか	■情報社会に生きる私たち	■情報社会の光と影 ■あなたの身近にいじめはありますか
まとめのページ	●道徳で学習したことを書きましょう	●道徳の時間に学習したことと	●自分を見つめ豊かに生きる ●道徳の時間に学習したこと	●道徳の時間に感じたこと、考えたこと ●私が出会った言葉、心に響いたあのひと言／家族からのメッセージ ●今の私

第二章 「私たちの道徳」の活用事例

中学校

目次

このの本の使い方 …… 4
今の私 …… 5

1 自分を見つめ伸ばして
(1) 個性のある生活を送る …… 8
(2) 目標を目指しやり抜く強い意志を …… 10
(3) 自分で考え実行し責任をもつ …… 16
特設 ネット将棋 …… 22
(4) 真理・真実・理想を求め人生を切り拓く …… 28
(5) 自分を見つめ個性を伸ばす …… 32
◎ 自分を深く見つめて …… 38
◎ 目分を深く見つめて …… 44

2 人と支え合って
(1) 礼儀の意義を理解し適切な言動を …… 46
(2) 温かい人間愛の精神と思いやりの心を …… 48
◎ 思まし合い高め合える生涯の友を …… 54
(3) 異性を理解し尊重して …… 60
(4) 認め合い学び合う心を …… 66
(5) 言葉の向こうに …… 72
(6) 人々の善意や支えに応えたい …… 78
特設 絆 …… 82
◎ 支え合い共に生きる …… 88
◎ 郷 …… 94

3 生命を輝かせて
◎ 生命を考える …… 95
(1) かけがえのない自他の生命を尊重して …… 98
特設 キミはあやちゃんの椅 …… 102
(2) 美しいものへの感動と畏敬の念を …… 108
(3) 人間の強さや気高さを信じ生きる …… 114
特設 二人の男子 …… 120
◎ 情報社会の光と影 …… 126
◎ あなたの身近にいじめはありますか …… 230
道徳の時間に感じたこと、考えたこと、私が出会った言葉、心に響いたあのひと言、家族からのメッセージ …… 239
今の私 …… 240

4 社会に生きる一員として
(1) 法やきまりを守り社会で共に生きる …… 132
特設 二通の手紙 …… 134
◎ 一人一人が守るべきものがある …… 140
(2) つながりをもち住みよい社会に …… 146
特設 鳩が飛び立つ日 石井筆子 …… 148
(3) 正義を重んじ公正・公平な社会を …… 154
(4) 役割と責任を自覚し集団生活の向上を …… 160
(5) 勤労の尊さを通して社会に貢献する …… 166
◎ 社会に目を向け社会と関わり社会を良くする …… 172
(6) 家族の一員としての自覚を …… 178
特設 一冊のノート …… 180
(7) 学校や仲間に誇りをもつ …… 186
(8) 心ゆたかな発展のために …… 194
(9) 国を愛し伝統の継承と文化の創造を …… 200
◎ 日本人としての自覚をもち真の国際人として世界に貢献したい …… 206
(10) 日本人の自覚をもち世界に貢献する …… 212
特設 海と空 櫻野の人々 …… 214

１ 自分を見つめ伸ばして
(1) 調和のある生活を送る

望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康の増進を図り、節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。

P.10〜15

1−(1)

１ この内容項目のページの特徴

心身の健康は、豊かな人生を送るための欠かせない要素である。本内容項目のそれぞれのページでは、節度と調和のある生活を送ることが心身の健康を維持していく上で重要であるということに気付くことができる。例えば、十二ページの小学六年生と、中学三年生の基本的生活習慣を比較したグラフでは、生活習慣の改善に向けての動機付けを図ることができる。

さらに、「人物探訪」では、「病気にならない健康な人間をつくる」ことも医学の役目と考えた香川綾の考え方を通して、健康について考えることができる。

２ 活用のポイント

本内容項目は、理科や保健体育科、技術・家庭科などの教科との関連が深く、様々な場面での活用が考えられる。

書き込み欄以外にも、例えば「健康ノート」などを作り、生活習慣を日常的にチェックするなどの工夫を促すこともできる。節度と調和のある生活の積み上げによって、心身の健康が増進され、健やかで豊かな人生が送れるということを考えるとともに、自分自身の生活を振り返って、望ましい生活習慣を身に付けようとする態度を育みたい。

３ 活用場面例

■道徳の時間

十三ページの書き込み欄を活用して、自分自身の生活習慣をチェックした上で、授業に臨むことができる。「人物探訪」では、香川綾の「健康」に対する考えや取組から、調和のある生活の重要性について考えることができる。

事例

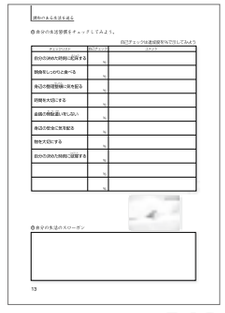
①十二ページのグラフを見て、十三ページの生活習慣チェックを行って、自らの生活を振り返る。

②十二ページ下段の書き込み欄に、大切にしている生活習慣や改善したい生活習慣を記入し、発表する。

③十四ページの「人物探訪」を読み、「食は生命なり」という言葉に込められた思いについて考える。

④「食事日記」をなぜ生涯書き続けることができたのかを話し合う。

⑤自分自身の生活を振り返り、今後に向けて調和のある生活を送るためのスローガンを決め、十三ページの書き込み欄に記入する。



P.13

■保健体育科（保健分野）

十二・十三ページを活用して、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を継続することの大切さについて学ぶことができる。特に、適切な運動による発汗や気分転換は、心身のリフレッシュにも有効である。具体的な生活習慣の改善に結び付くように健康な生活についての理解を深めていきたい。

■技術・家庭科（家庭分野）

十四ページの「人物探訪」を読み、生活の中で食事が果たす役割や健康によい食習慣、栄養素の種類と働き、中学生に必要な栄養の特徴について考えるきっかけとする。

■家庭との連携

十一ページの「心と体の健康について学んだこと」を活用し、各教科、特別活動、道徳の時間などで学んだことを踏まえて、家の人と話し合いながら、書き込み欄に記入する。

◆人物探訪〈香川 綾〉
「健康な人間をつくることも医学の役目ではないか」

香川綾は夫の昇三とともに、昭和初期、胚芽米がビタミンB1を多く含み脚気の予防に効果があることを発見した。病気にならない健康な人間をつくることも医学の役目であるとして、食品の栄養、調理方法を詳細に研究、記録を続け、食品摂取の目安となる「四群点数法」を考案した。昭和十年に発刊した月刊『栄養と料理』は現在も発行されている。

昭和十二年に女子栄養学園を創設。学園が昭和二十年四月の空襲で焼失した後、終戦までは群馬県へ学校が疎開。この間の過労から、昇三は急逝する。

綾は、二人で目指した栄養学への熱い思いを引き継ぎ、戦後、埼玉県にキャンパスを建設し、日本の栄養学の普及発展に貢献した。

◆この人のひと言
「早寝早起きは、人を健康で豊かで賢明にする。」

ベンジャミン・フランクリンは、アメリカ合衆国建国のために活躍した政治家である。また、凧を用いた実験で雷が電気であることを証明した科学者としても知られている。理想とする生き方を実行するために自らまとめた十三の徳目を実践した。十五ページの言葉にある「豊か」は、原文では「wealthy」という単語で、この語には「富裕な」という意味も含まれる。原文を外国語科の時間に紹介するなどして、指導の関連を図ることもできる。

Early to bed and early to rise makes a man healthy, wealthy and wise.

１ 自分を見つめ伸ばして
(2) 目標を目指しやり抜く強い意志を

P.16～21

1－(2)

より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。

１ この内容項目のページの特徴

将来に向けて大きな夢をもつこと、そして、その夢の実現のために大切なことは何かについて、十六ページのアイルランドのことわざや、十七ページのクラークの言葉などを通して考えることができるよう構成されている。

中学生の時期に、より高い目標に向かって努力しようとする強い意志を養うことは重要である。目標を達成したときの充足感は自己肯定感を高め、人生を切り拓(ひら)いていく原動力になる。

しかし、実際には、目標の実現に向けた道のりは決して平坦(へいたん)ではなく、思い通りにいかない場面に直面することが多い。二十ページの松井秀喜氏の「メッセージ」や、二十一ページの「この人のひと言」などを通して、誰もが苦しい経験や挫折を乗り越え、目標に向かって懸命に努力してきたことを知ることができる。

２ 活用のポイント

中学生の時期には、希望や勇気をもって生きる崇高な生き方に憧憬をもつ一方で、自分の好むことには意欲的に取り組むが、障害や困難に直面すると簡単に諦めてしまうこともある。

指導に当たっては、書き込み欄などを活用して、具体的な生活の中で目標を達成した経験を振り返らせたり、もう少しの努力で達成できる目標をもたせたりすることが大切である。

また、達成を繰り返すことで得られる成就感や満足感が、希望と勇気を生み、目標に向かう努力の動機につながることについても考えることができるように留意したい。

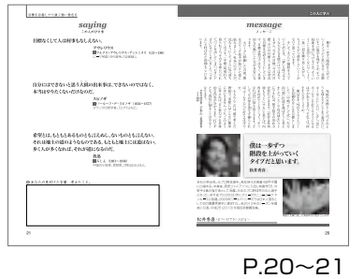
３ 活用場面例

■道徳の時間

二十ページの松井秀喜氏の「メッセージ」や二十一ページの「この人のひと言」を活用して、着実にやり抜く強い意志をもつために大切なことについて考える。

事例

①自分の夢や目標について話し合う。
②二十ページの「メッセージ」を読む。
③「夢」と言えるような大きな目標を実現するためには何が必要かを考え、発表し合う。
④二十一ページの「この人のひと言」を読み、目標に向かって努力することの大切さについて考えを深める。



P.20～21

■特別活動（学級活動）

学級活動の内容「（３）学業と進路」の「オ　主体的な進路の選択と将来設計」の指導に当たって、本内容項目のページを活用して、自分の夢や希望について話し合い、発表を行う。

また、学年や学期の始めの目標設定の際に、本内容項目の文章や資料などを読んで、十七ページの中学生のうちに達成したい目標の欄や将来の目標の欄に記入する。なお、その際には、単に目標を立てるだけではなく、障害や困難が生じたときの手立ても併せて考えるようにする。

さらに、十九ページは、学期末や学年末、行事の事後指導の際に、目標の達成度を自己評価するときにも活用できる。

事例

①十六・十七ページの言葉を参考にして十七ページの書き込み欄に記入する。
②十八から二十ページを読んで、理想通りにいかない現実に直面したときの対処法を考え、話し合う。
③十八・十九ページを読んで、目標を実現するために、これから取り組みたいことを考え、記入する。

◆メッセージ〈松井秀喜〉

「僕は一歩ずつ階段を上がっていく
タイプだと思います。」

元プロ野球選手である松井秀喜氏のメッセージを読み、より高い目標を目指して段階的に堅実な努力をする姿勢から学ぶようにする。

「一進一退を繰り返しながら、ちょっとずつ進歩していくしかないと思っています。」という松井氏の言葉から、深い思慮と強い意志をもって挑むことの大切さについて考えるようにする。

松井氏が、身近な目標を定めてそれを実現するに当たって具体的な行動が目安になると指摘している点に注目し、「まずは身近な目標を定める」ようにしているのはなぜか、より高い目標を達成するためには何が大切なのか、目標立案のヒントとしても考えていくようにしたい。

◆この人のひと言

「希望とは、もともとあるものとも言えぬし、ないものとも言えない。それはもともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」

魯迅は、中国の小説家、思想家。明治三十五年、日本に留学。この言葉は、中学生にもよく知られている小説「故郷」の一節である。常によりよい未来を見つめて前進しようとした魯迅の生き方が示された言葉である。

１ 自分を見つめ伸ばして
(3) 自分で考え実行し責任をもつ

P.22～31
1－(3)

自律の精神を重んじ、自主的に考え、誠実に実行してその結果に責任をもつ。

１ この内容項目のページの特徴

人間は様々な場面で考え、判断し、行動している。その際、深く考えて判断しているか、周囲の思惑を気にして他人の言動に左右されていないかを振り返り、自律とは何か、誠実に生きるとはどのようなことかなどについて、自分自身の日常生活と重ね合わせて考えていきたい内容である。

二十三ページでは、易(やす)きに流れがちな面もある中学生の時期の一面を問い掛け、自分を振り返って考え、二十四・二十五ページでは自律とは何か、さらには自律的に判断し、誠実に実行するとはどういうことかについて考えることができる構成となっている。「人物探訪」に掲載されている上杉鷹山の考え方や生き方からも自律的で誠実な生き方を考えることができる。

２ 活用のポイント

中学生の時期は、自我意識が高まり自主的な行動を強く求める一方で、周囲の考えや思惑を気にして他者との迎合も目立つ不安定な時期でもある。

自律とは何か、責任ある行動とはどのようなことか、自問と内省を促す構成を生かして、自己の行動に責任をもつことの意味について考えたり、話合いを深めたりするようにしたい。

３ 活用場面例

■道徳の時間

書き込み欄や各ページの文章を活用し、行動の背景にあるべき配慮について生徒に自覚を促し、自律的な生き方について内省する機会をつくることができる。

読み物資料「ネット将棋」や「人物探訪」、「この人のひと言」は、道徳の時間の中心的な資料、または補助的な資料として活用することができる。

事例

①二十四ページの書き込み欄に記入する。
②読み物資料「ネット将棋」を読んで話し合う。
③二十四・二十五ページの文章を参考にしながら、自律的に生きることについて考え、発表し合う。
④「考え、判断し、実行し、責任をもつこと」という行動のために、どのような心掛けが必要なのか、また、なぜそれが必要なのかについて話し合う。

■社会科（歴史的分野）

近世、江戸時代中期の藩政改革の学習で二十六ページの「人物探訪」を活用する。上杉鷹山は、米沢藩の財政改革に粘り強く当たり、財政状態を改善した人物である。鷹山の政治に対する高い志は今日にも伝えられているところである。

また、鷹山の温かな人柄は、今も米沢で尊敬されている。歴史的分野の学習の際に本ページの活用を通して、江戸時代に活躍した人物の一人について知ることができる。

◆この人のひと言
「プリンシプルを持って生きていれば、人生に迷うことは無い。」
（プリンシプル principle／主義、信条、原則）

白洲次郎は、戦後の占領下、終戦連絡中央事務局次長、経済安定本部次長、貿易庁長官を歴任し、連合国軍総司令部（ＧＨＱ）との折衝で活躍した。また、随筆家である妻白洲正子の言葉も二一一ページで取り上げている。夫妻が半世紀を過ごした茅葺(かやぶ)き農家は、東京都町田市に「旧白洲邸　武相荘(ぶあいそう)」として公開されている。

白洲次郎は、日本人というのは、物事を考える時に、物事の原則ということを考えない、自分でものを考える人が少ない、といったことも述べている。

◆人物探訪〈上杉鷹山〉
「なせば成る　なさねば成らぬ　何事も　成らぬは人の　なさぬなりけり」

（道徳の時間の学習展開の例）

この「人物探訪」を道徳の時間の中心的な資料として活用し、次のような問い掛けを行って話し合うこともできる。

①鷹山は、藩主として、財政改善にどのような気持ちで取り組んだのか。
②「なせば成る　なさねば成らぬ　何事も　成らぬは人の　なさぬなりけり」とは、どのような意味か。
③鷹山の再度の改革への取組が、なぜ成功したのか。

鷹山は米沢藩中興の祖である。絹の着用を制限し、質素倹約を奨励、東北地方を襲った天明の大飢饉(だいききん)を乗り越え、全国の諸藩が財政難に苦しむ中、農地開発、学問の奨励を進めた。公平無私の生き方を自ら示し、領地内のすべての民人の父として、愛情深く、常に誠実に実行し続けた。明治時代、内村鑑三の著作『代表的日本人』の中で取り上げられ、海外に紹介された。

column
なせば成る　なさねば成らぬ　何事も　成らぬは人の　なさぬなりけり

P.26

読み物資料

ネット将棋

P.28〜31

1−(3)

1 資料の特性

将棋や囲碁は、対局者の一方が自分の負けを宣告することで終局となるものであり、対局者双方の自主性・自律性が不可欠なゲームである。本資料は、その自主性・自律性を無視し、一方的に試合を中断させてしまう主人公の不誠実さが道徳的な論点となっている。

誠実とは、真心をもって他者に接する生き方である。誠実な態度でネット将棋を楽しみ、実力を伸ばす敏和とは対照的に、主人公の「僕」は、ネット将棋を楽しめず、気分や感情に支配されて不誠実に振る舞っている。そうした折、智子や明子と話している敏和の「自ら『負けました。』」「目には見えない相手とどう向き合うかで、自分が試されてる気がして」という言葉を聞き、誠実に自らの行動に責任をもって行動するとはどういうことかを考え始めるという資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、自主的に考え、行動できるようになる一方で、自由の意味をはき違え、自分の行為が自分や他人にどのような結果をもたらすかを深く考えないで行動する面も見られる。

ネット社会における匿名性は、ややもすると無責任な態度や攻撃的な言動と結び付きやすい。インターネットを利用した機器や通信手段を有益に活用するためには、他人の立場や結果に対する責任を熟慮した上で、誠実に実行していくことがより必要とされている。そうしたことを自分たちの行動と照らし合わせて、生徒一人一人に深く考えさせたい。

3 展開例

【ねらい】

誠実に行動し、その結果に責任をもとうとする態度を育てる。

事例①

「僕」の思いを通して、誠実に実行することの大切さを考える展開

【主な学習】

①嫌そうな顔もせず、手早く駒を片付ける敏和を見て、「僕」はどのようなことを思っていたのか。
・僕が時間稼ぎをしていたことを、敏和は本当は気付いていたんだろう。なのに、何も言わないなんて、格好付けるなよ。
・敏和は、自分が勝っていたと思って、きっといい気分だろうな。いい気になるなよ。

②どう考えて、「僕」はネット将棋でいきなりログアウトしたのだろうか。
・相手が誰だか分からないし、また、自分が誰かも知られていないからまあいいか。
・負けそうになったらやめればいいだけだ。こんなので敏和が強くなったなんて信じられない。

③敏和のツッコミに明子と智子は笑ったが、「僕」が笑えなかったのは、どのようなことを考えていたからだろうか。
・ネットで相手が見えないからとひきょうなことをしていた。
・勝ち負けでなく、相手と誠実に対戦する姿勢が大切だ。
・相手が目の前にいるかどうかにかかわらず、いつでも誰に対しても相手の立場を考えることが大切なんだ。

事例②

登場人物の言動を通して、誠実の意味について考える展開

【主な学習】

①心から「負けました。」と言うことができるのは、どのような思いからだろうか。
・勝負の結果を素直に受け止める気持ち。
・相手への敬意。
・自分自身、力の限り頑張ったことに達成感を感じている。

②「心から」という言葉には、どのような意味があるのだろうか。
・悔しくても、負け惜しみではなく、負けを素直に認めることで、心から「負けました。」と言える。
・自分が正々堂々、誠実に勝負したからこそ、心から言える言葉。

③誠実とは、どのようなことか。誠実に行動するためにどのようなことが大切なのだろうか。
・結果を素直に受け止め、自分の行動に責任をもつこと。
・自分の言動がどういう結果につながるのかをよく考えることが大切。

一の視点　重点ページ

自分を深く見つめて

P.44〜45

1 このページの特徴

一の視点に関わる重点化「自立心や自律性を育成すること」に関するページである。

坂村真民は、高等学校などで国語を教える傍ら、数多くの詩を作った。愛媛県伊予郡砥部町に記念館がある。

2 活用事例

■道徳の時間

自立心や自律性の内容を学習する際に、この詩を読んで、感じたことについて意見交流をし、自分を深く見つめさせるようにしたい。「一本の道を行く」とはどういうことか、自分にとっての「一本の道」とは何かなどについて話し合うことができる。

P.44〜45

１ 自分を見つめ伸ばして
(4) 真理・真実・理想を求め人生を切り拓く

P.32～37
1－(4)

真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。

１ この内容項目のページの特徴

本内容項目では、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく力強い生き方について考えることができる。理想を追い求めることは、ともすれば宙に浮いた空想的な態度に陥る場合もある。それゆえ、理想を求めて生きていく原動力となる真理を愛し、真実を求める態度が要求される。本項目のページを活用して、理想をもって生き、夢や理想を実現するためにはどうすればよいかを友達や人生の先輩の意見を参考にしながら考えることができる。また、湯川秀樹の「人物探訪」から、真理や真実を探求し、実現すべき理想に向けて生きることの大切さを自覚することができる構成となっている。

２ 活用のポイント

中学生の時期には、自分の将来に向かって理想を求める傾向が強くなってくる。一方で、現実と遊離した理想を性急に求めるあまり、その夢が破れたときは人生の虚しさを感じてしまうことも多い。そこで、理想や夢について漠然と思いを巡らせるだけではなく、真理や真実を探求することで目標をもった生き方ができることに気付かせたい。内容項目1－(2)「目標を目指しやり抜く強い意志を」との違いと相互の関連を意識した指導が求められる。

３ 活用場面例

■道徳の時間

三十四ページの書き込み欄を活用して、友達や家族、地域の人に取材をし、家庭や地域と連携を図ることができる。また、導入や終末で自己の生き方と関わらせて考えを深める際にも活用することができる。

P.34

事例

①事前学習で三十四ページを読んで、夢や理想の実現について、友達や人生の先輩の考えを取材する。
②取材してきたことをグループで紹介し合う。
③三十六ページの「人物探訪」を読み、湯川秀樹の生き方について考え、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく生き方について話し合う。
④三十七ページの「この人のひと言」を読み、自分が関心をもった言葉を選び、理由を添えて発表する。

■理科（第一分野）

第一学年の始めの時期に、理科の学習への意識付けを図る段階において、三十六ページの「人物探訪」を読んで、「未知の世界を探究する人々は地図を持たない旅人である。」の言葉の意味を考えさせ、科学的に探究する学習への意欲を高めさせるようにしたい。

◆人物探訪〈湯川秀樹〉
「未知の世界を探究する人々は地図を持たない旅人である。」

湯川秀樹が人々の尊敬を集めるのは、日本人初のノーベル賞受賞者ということだけではない。科学者の執念で真理・真実を追い求め続ける真摯な生き方が、時代を超えて人々に多くのことを語り掛けているのである。また、湯川は研究を世界最高峰への登頂に例えて、「科学の探究者にはどこに最高峰があるかは、あらかじめ知らされてはいない。行けども行けどもはてしない山脈が、どこかで終って坦々たる平野に続くのか、それとも人智の力では超えることのできない絶壁にぶつかるのか、われわれはそれを知らずに進んでゆくだけである。」と述べ、真理や真実の探求はゴールが分からない冒険であることを伝えている。

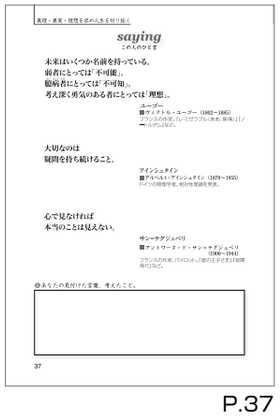
このようなエピソードを伝えて、「未知の世界を探究する人々は地図を持たない旅人である。」という言葉の意味を考えさせたい。

◆この人のひと言
「大切なのは　疑問を持ち続けること。」

アルベルト・アインシュタインの科学者としての思いがこの言葉に凝縮されている。

アインシュタインは、十六歳のときに「もし自分が光の速さで飛んだら、顔は鏡に映るのだろうか。」という疑問をもち、悩んでいたという逸話が知られている。

この逸話を紹介し、「今、もち続けている疑問はあるか。」「その疑問とこれから先どのように向き合っていくか。」などの問いによって、真理・真実と正対することが理想の実現を目指して人生を切り拓くことにつながることに気付かせたい。



P.37

1 自分を見つめ伸ばして
(5) 自分を見つめ個性を伸ばす

P.38〜43
1−(5)

自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求する。

1 この内容項目のページの特徴

本内容項目は、生徒一人一人の自己肯定感を高め、個性を伸ばしていくようにすることに関わるものである。また、将来こう在りたいという自分像を描くことは、自己の向上を願って生きていく上で大切なことである。

そのため、三十八から四十一ページで、自分の「良い所」も「改めたい所」も含めてそれが自分の個性だということに気付くことができるようにし、四十二・四十三ページでは、自分の個性を伸ばして充実した生き方を追求することのすばらしさについて考えることができるような構成になっている。

2 活用のポイント

中学生の時期は、自己理解が深まり、自分の在り方や生き方についての関心が高まる一方で、自分の姿を自らの基準に照らして考えたり、他人との比較において捉えたりするために、その至らなさに悩むことも少なくない。自己の欠点や短所にこだわるだけでなく、自己をまずは肯定的に捉えるとともに、自己の優れている面などの発見に努め、自己との対話を深めつつ、よりよく個性を伸ばしていくことができるようにしたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

三十九ページや、四十二ページの山中伸弥氏の「メッセージ」、四十三ページの「この人のひと言」などを読んで、自分の個性とその伸長について考え、自己を見つめ自己の向上を願って生きていこうとする態度を養う。

事例

①三十八・三十九ページを読んで、「私のカラー」を考え、三十九ページの書き込み欄に記入する。
②「私のカラー」についてグループで紹介し合い、友達から意見をもらう。
③「メッセージ」を読み、その生き方から自己を見つめ、個性を伸ばすことのすばらしさについて話し合う。
④四十三ページの「この人のひと言」を読んで、感じたことや考えたことを記入し、発表する。

■特別活動（学級活動）

学級活動の内容「（2）適応と成長及び健康安全」の「イ　自己及び他者の個性の理解と尊重」の指導に当たって、かけがえのない自己を肯定的に捉え、自己の優れている面などの発見に努め、自己との対話を深めつつ、さらに個性を伸ばしていこうとする意欲を高める学習で活用することができる。

事例

①三十八・三十九ページを読んで、自分の「良い所」「改めたい所」を見つめ、四十一ページの書き込み欄の「自分のこんな所を…」「こうしたい」に記入する。
②四十一ページに書き込んだことについて友達と意見交流し、「良い所」に磨きをかけたり、「改めたい所」を改善したりするためのアドバイスをもらう。
③友達からのアドバイスを基に、自分の「良い所」に磨きをかけたり、「改めたい所」を改善したりすることについて再度考えたことを四十一ページに書き加える。
④自分の個性を伸ばしていくために取り組んでみたいことを決めて発表し、実践していくようにする。

◆メッセージ〈山中伸弥〉
「医師になったからには最期は人の役に立って死にたいと思っています。」

ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥氏は、最初から順調に研究者としての道を歩んできたわけではない。研修医時代のあだ名は「ジャマナカ」。何度も壁にぶつかりくじけそうになった。順調なときも困難なときも一喜一憂せず、自己を見つめ「こう在りたい」という思いを常にもち、努力を続けてきた。その生き方から、自分の長所も短所も含めてそれが自分の個性だということや、将来こう在りたいという願いをもって生きることのすばらしさについて考えさせたい。

◆この人のひと言
「初心忘るべからず」

世阿弥が「花鏡」で芸に精進する際の心得として記した言葉である。

「初心不可忘　此句、三ヶ条口伝在。是非初心不可忘。時々初心不可忘。老後初心不可忘。此三、能々口伝可為。」

○本来は、「若い頃の未熟な芸を忘れるな」という意味であった。世阿弥の言う「初心」とは、未熟だった自分のことである。それは思い出すと恥ずかしくなることもあるだろう。それでも目をそらさずに自分を振り返り見つめることで、これからなすべき道が見え、いつまでも上達し続けることができる。いくつになっても、その時に経験する芸の未熟さが「初心」であり、それを忘れず努力することで自分の能力を伸ばし続けることができるということである。

○世阿弥は、室町時代に猿楽や田楽などの芸能を、総合舞台芸術の能楽として大成させた能役者である。六〇〇年経った今でも演じられる作品や読まれる秘伝書からは、日本人が大切にしてきた心や文化を感じることができる。

○社会科の歴史的分野の学習だけでなく、音楽科、総合的な学習の時間等での学習と関連させて活用することもできる。

２ 人と支え合って
(1) 礼儀の意義を理解し適切な言動を

P.48～53
2－(1)

礼儀の意義を理解し、時と場に応じた適切な言動をとる。

１ この内容項目のページの特徴

日本の礼儀は、伝統として受け継がれているという一面もある。また、礼儀には相手を尊重する心が込められており、コミュニケーションをとる上でも重要なものである。本内容項目のページでは、こうした礼儀の意義について考えを深めていくことができる構成になっている。

四十八から五十一ページで、心と形が一体となった礼儀とはどのようなことかを具体的に考えるとともに、五十二ページの松下幸之助の「メッセージ」や五十三ページの「この人のひと言」を活用して、自分の礼儀や作法を振り返りながら、内面に基づいて時と場に応じた適切な言動をとっていくことの大切さについて考える内容になっている。

２ 活用のポイント

中学生の段階では、礼儀の意義についての理解が十分ではなく、適切な言葉遣い、行動の仕方が十分に習慣化しているとは言えない面もある。また、照れる気持ちやその場の状況に左右されたりして、望ましい行動ができなくなることもある。

日常生活における時と場に応じた適切な言動を体験的に学習する機会を工夫するなどして、形の根底にあるその意義を考えさせ、時と場に応じた適切な言動をとることができるような態度を養いたい。

３ 活用場面例

■道徳の時間

時と場に応じた適切な言葉遣いや行動がとれるようにするために礼儀の意義を考える。礼儀は、相手を人間として尊重する気持ちの表れであることを理解し、日本の伝統的な礼儀作法だけでなく、国際化・国際理解という視点から外国の礼儀についても理解を深める。

また、五十二ページの「メッセージ」や五十三ページの「この人のひと言」の意味を考えて、書き込み欄に記入して、自分自身の礼儀を見つめ直す機会とする。

事例

①四十八・四十九ページを読んで、礼儀や作法に込められた思いを知るとともに、礼儀の大切さが分かっていても実際には振る舞えなかったことを話し合う。

②五十二ページを読んで、松下幸之助の「メッセージ」に込められた思いについて話し合う。

③外国の礼儀・マナーについて外国の文化に詳しいゲストティーチャーから話を聞く。

④五十三ページの「この人のひと言」を読み、考えを深める。

■総合的な学習の時間

国際理解などの横断的・総合的な課題についての学習活動において、外国の礼儀・マナーを例として取り上げ、国や民族の独自の伝統や習慣について探究的な学習を行う際に、五十ページを活用することができる。

■特別活動（学級活動）

学級活動の内容「（３）学業と進路」の「エ　望ましい勤労観・職業観の形成」の指導に当たって、職場体験活動・社会奉仕活動の事前及び事後指導で活用することができる。

事前指導で四十八ページの文章や四十九ページの「礼儀に込められた思い」「礼儀へのためらい」を活用して、他者の言動から自分自身を振り返って考えたり、よりよい言動を心掛けたりする態度を養うようにしたい。

事後指導では五十一ページを活用して、「時と場に応じたふさわしい言動」について、体験を踏まえて話し合い、心と形が一体となった礼儀の在り方について考えるようにしたい。

■家庭との連携

五十一ページの書き込み欄に記入した考えを基に、家の人と話し合い、どのような言葉や態度で接すると、毎日互いに気持ちよく過ごせるかについて考えを深める。

◆メッセージ〈松下幸之助〉

「礼儀作法は堅苦しいものではなく単なる形式でもない、社会生活の潤滑油です。」

心と形の一体化という視点から、礼儀作法は社会の潤滑油であるというメッセージの意味を具体的に考えさせる。また、メッセージにある「社会生活における〝潤滑油〟」とはどういうことなのか、さらに松下が「心と形の両面があいまった適切な礼儀、作法」を大事にするのはどうしてなのかを考えさせるようにしたい。

◆この人のひと言

「信実と誠実なくしては、礼儀は茶番であり芝居である。」

新渡戸稲造は、幕末に武士の子として現在の岩手県盛岡市に生まれ、札幌農学校で学んだ後、アメリカ合衆国・ドイツに留学して農業経済学や統計学を修めた。帰国後、母校の教授となったが体調を崩したため、渡米して療養。療養中に、日本人の精神を世界に紹介するため英文で著した本が、「BUSHIDO THE SOUL of JAPAN」である。各国語に翻訳され、日本文化が欧米人に知られることになった。国際連盟事務次長を務めるなど、国際平和のために貢献した。

2 人と支え合って
(2) 温かい人間愛の精神と思いやりの心を

P.54〜59

2−(2)

温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。

1 この内容項目のページの特徴

思いやりの心は、人と人とが生活していく上で相互に欠かせない心情である。

五十五ページでは、「『思いやり』って……なんだろう?」という問い掛けによって、思いやりの意味を考え、五十六ページでは、グラフから思いやりに関する実態について考える構成になっている。五十八ページの若田光一氏の「メッセージ」では、「日本人の『思いやり』を世界が見ている」という言葉から、利己心に流されない思いやりの心が、世界に誇れる日本人の国民性として称賛されていることを捉えることができる。

2 活用のポイント

中学生に限らず、人は、思いやりや人間愛に基づく他者との関わりが大切だとは知りながらも、なかなか相手の立場に立って物事を捉えることができないことがある。

指導に当たっては、単に思いやりの心の大切さに気付かせるだけではなく、自他ともにかけがえのない存在であることを認識させるようにしたい。そして、その存在が共に認め合い尊重し合う思いやりの心によって支えられているのだということについて考え、他の人に対して思いやりの心をもつことができるようにしたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

思いやりの心は、自分が他者に能動的に接するときに必要な心の在り方であること、他の人の立場を尊重しながら、親切にしたり、いたわったり、励ましたり、時には、黙って温かく見守るといった場合もあることなどについて考え、思いやりの心と態度が育まれていくようにする。

事例

①五十四ページを読んで、思いやりの心は、単なる哀れみや自己満足とは違うということ、また、思いやりの心をもって他の人と接するとはどのようなことかについて話し合う。

②五十八ページの「メッセージ」を読んで、若田光一氏の「日本人の『思いやり』を世界が見ている」という言葉に込められた思いについて話し合う。

③五十五ページを読んで、それぞれの場面で自分だったらどうするか考えて、書き込み欄に記入し、話し合う。

④思いやりの心について、自分なりに大切にしたいことを考えて発表する。

■外国語科

五十七ページの「賢者の贈り物」について、英語で書かれた原作を紹介して、読む機会を設けることができる。

■家庭との連携

五十七ページの「賢者の贈り物」を家の人と一緒に読んで、家の人の考えや思いを聞き、話し合う。

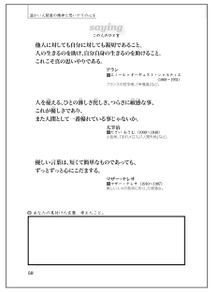
◆この人のひと言

「優しい言葉は、短くて簡単なものであっても、ずっとずっと心にこだまする。」

マザー・テレサは、最も悲しむべきことは、自分はこの世に不要な人間だと思い込むこと、現世の最大の悪は、そういう人たちに対する愛が足りないことであると考え、その人たちのために尽くす生涯を送った。

マザー・テレサが残した次の言葉の意味についても考えさせたい。

「大切なのは、私たちがどれだけ行動するかではなく、それをするのに、どれだけ愛を注いでいるかです。」



P.59

◆メッセージ〈若田光一〉

「日本人の『思いやり』を世界が見ている」

若田光一氏は、ＩＳＳ（国際宇宙ステーション）第三十九次長期滞在において日本人初の船長（コマンダー）に就任した。その際、東日本大震災のことにも触れ、震災地域の街の明かりが力強く輝いているのが印象的で復興への努力を感じ取り、自分自身も強く励まされるということを語るとともに、「和（ハーモニー）」を大切にして任務を全うしたいと語った。

若田氏は、約一八八日間の長期滞在から無事帰還し、宇宙滞在期間は三四七日を超え、日本人最長記録となっている。帰国後、「宇宙と地球と人の『和』と」と題する講演の中で、きちんと議論することでお互いの信頼関係が強まり、チームの「和」が生まれること、「個」の切磋琢磨がチーム全体の向上につながることなどを話し、お互いに相手を思いやる気持ちが信頼関係を生み出すと語った。「メッセージ」とともにこうしたことも紹介し、人を思いやる気持ちの大切さについて話し合わせるようにしたい。

また、若田氏の「メッセージ」にある協力し助け合った震災時の様子や身近に起こった災害時の避難経験などを地域の人から聞き取り、思いやりについての考えを深めることもできる。

P.60〜65
2−(3)

友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。

1 この内容項目のページの特徴

中学生にとって友人との関わりは難しいと感じるテーマの一つである。その要因の一つには、真の友情についての理解が十分でないことがある。そこで、本内容項目では真の友情についての考えを深めていくことを大切にしたい。

六十ページでは、生徒の現状に関わって、心から信頼できる友を得るためにどうあるべきかを問い掛けている。六十一ページでは、生徒の友情観を確認し、六十三ページでは、友情について家族や先輩の話を聞いて書き込むことができる構成になっている。

真の友情は表面的な仲よしではなく、いつも近くにいることでもない。信頼という目には見えない心のつながりがそこにあるかどうかだということについて考え、真の友情を深めていくような態度を育てていきたい。

2 活用のポイント

中学生ともなると、互いに心を許し合える友達を真剣に求めるようになる。相手のことを心から信頼できる友達関係が望まれるところであるが、その関係の構築は容易なものではない。

指導に当たっては、そのような難しさも認めつつ、尊敬し信頼し合うことのできる友情を育てるために、まず自分がどうあるべきかを、自分自身のことを振り返って考えられるようにしたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

真の友情は、互いに励まし合い、高め合い、協力を惜しまないという関係から生まれることを生徒が自分自身の現状に照らし合わせて考えられるようにするために、六十四ページの「メッセージ」などを活用することができる。

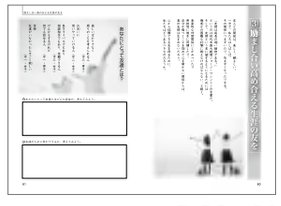
事例

①六十・六十一ページを読んで、自分にとって友達とはどのような存在かを考え、話し合う。

②「メッセージ」を読んで、「友情は、人間感情の中で最も洗練された、そして純粋な美しいものの一つだと思う。」という言葉に込められた本田宗一郎の思いや考えについて話し合う。

③生涯の友を得るために、また、友となるために自分なりに大切にしたいことについて話し合う。

④友達のために何ができるかを考えて、六十一ページの書き込み欄に記入する。


P.60〜61

■国語科

正岡子規の俳句や夏目漱石の小説を学習する際に、六十二ページの「正岡子規と夏目漱石」を活用し、作者への関心を高めるようにしたい。

あわせて、子規は俳句や短歌を研究し、俳句の世界に大きく貢献したこと、漱石と下宿を同じくして、共に俳句を読むなどしたこと、そして、子規と漱石は文学的、人間的に影響を与え合ったことなどを理解させたい。

■家庭との連携

六十三ページの書き込み欄を活用して、家の人や人生の先輩にそれぞれの考える友情について取材し、聞いたことをまとめて記入する。

◆この人のひと言

「私は世界にふたつの宝をもっていた。
私の友と私の魂と。」

二度の世界大戦の時代に生きたロマン・ロランは、一貫して反戦を訴え続けたヒューマニストとして知られ、生き方に悩みを抱えた人々を励ます文学作品を書き続けた。一九一五年、ノーベル文学賞を受賞している。

友情に関する次の言葉についても考えてみたい。

「君を理解する友人は、君を創造する。」

◆メッセージ〈本田宗一郎〉

「友情は、人間感情の中で最も洗練された、
そして純粋な美しいものの一つだと思う。」

本田宗一郎は、日本を代表する世界有数の自動車メーカーを共に育て上げた藤沢武夫と、かけがえのない友であり続けた。そのために心に留めていたことなどがこの「メッセージ」に記されている。

このことを生徒一人一人に自分のこととして捉えさせ、自分の身近な友人関係を振り返りながら具体的に考えさせることが大切である。

また、「友情は、人間感情の中で最も洗練された、そして純粋な美しいものの一つだと思う。」という言葉に込められた本田の思いや考え、また、その言葉に対する自分の考えをまとめ、生徒にとっての友情の定義を表現させてみることも考えられる。

P.64

2 人と支え合って
(4) 異性を理解し尊重して

P.66〜71
2−(4)

男女は、互いに異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する。

3 活用場面例

■道徳の時間

異性に対する理解と互いを尊重した中学生の男女交際の在り方について考えさせるために、六十六から六十八ページや七十ページの「人物探訪」を活用することができる。

事例

①六十六ページのイラストの男女は、何を思い、考えているのか。六十七ページの異性に対する好き嫌いに関する思いを参考にして話し合う。

②異性への関心が芽生える中学生の時期の男女の在り方について話し合う。その際、六十八ページの書き込み欄に記入したり、中学生の男女交際の在り方について、討議しやすい課題を設定し、グループ討議を行ったりする。

③七十ページの「人物探訪」を通して、互いを尊重し合う関係について話し合う。

■社会科（公民的分野）

日本国憲法と平等権の単元における男女共同参画社会などの学習で本項目のページを活用することができる。また、国際社会の単元でも、国際連合などが中心となって進めている両性の平等、男女共同参画などについて学習した後で、六十九ページの書き込み欄に様々な情報を基にして課題を書き出し、異性の相互理解と尊重についても改めて学ぶことができる。

1 この内容項目のページの特徴

男女は社会の対等な構成員であり、両性の尊重と協力によって、社会生活が営まれている。

現代社会では、あらゆる分野にわたって男女が平等に活動できる機会が与えられなければならない。これは両性相互の尊重と協力があって成り立つものである。そのため、本項目は、互いをよりよく理解するために大切なことや、中学生の男女交際、さらに男女共同参画社会の実現に向けての課題などについて考え、異性についての正しい理解を深め、相手の人格を尊重する態度を養う内容になっている。

2 活用のポイント

イラストや写真等を用いて、生徒自身が考えたり、グループ討議をすることができる。男女は互いに理解し、高め合うことが大切である。このことは、自分自身や集団生活を豊かに楽しくするものである。一般に異性に対する関心が強くなるこの時期、偏った考え方や誤解を見直し、違いを受け止め、尊重する態度を育てたい。

また保健体育科における性に関する指導等との関連を生かした活用についても工夫するようにしたい。

※性同一性障害に係る生徒に対しては、生徒の心情に十分配慮した対応を行うようにする（「児童生徒が抱える問題に対しての教育相談の徹底について（通知）」平成二十二年四月（文部科学省ＨＰにも掲載）等参照）。

■技術・家庭科（家庭分野）

家族・家庭と子供の成長の学習で、六十九ページの文章を読んだり写真を見たりして、互いに理解し合い、協力して家族関係をよりよくすることが大切であることや、家族の役割について考えたり、話し合ったりすることができる。

◆この人のひと言

「愛とは他人の運命を自分の興味とすることである。他人の運命を傷つけることを畏れる心である。」

倉田百三の評論『愛と認識との出発』の一節である。百三は、巻頭に「この書を後れて来たる青年に贈る」とし、青年がまさに考えるべき重要な問題の一つとして、善、真理、友情、信仰などとともに、恋愛に関しても本質的な考え方を示そうとした。

『愛と認識との出発』の「版を改むるに際して」の最後の文章、「青春は短い。宝石のごとくにしてそれを惜しめ。俗卑と凡雑と低吝（ていりん）とのいやしくもこれに入り込むことを拒み、その想いを偉（おお）いならしめ、その夢を清からしめよ。夢見ることをやめたとき、その青春は終わるのである。」も知られている。

◆人物探訪〈新島八重〉

「…she is a person who does handsome.」

（彼女は美しい行いをする人です）

（道徳の時間の学習展開の例）

歴史の資料等を参考にしながら、この「人物探訪」を活用し、次のような問い掛けを行って話し合うこともできる。

①男女の協力からイメージするのはどのようなことかを考え、発表する。

②七十ページの「人物探訪」を読む。

③新島八重の人柄や功績などについてどのように感じ、考えるか発表する。

④新島襄が「亭主が東を向けと命令すれば、三年間でも東を向いているような御婦人はごめんです。」と言った思いについて発表する。

⑤「美しい行いをする人」と襄が八重のことを語っていることを取り上げ、襄と八重はお互いにどのような存在だったか話し合う。

⑥男女の協力により新たな力が創出でき、よりよい社会生活が営まれることについて考えを深める。

P.70

２ 人と支え合って
(5) 認め合い学び合う心を

P.72～81

2－(5)

それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。

１ この内容項目のページの特徴

人間が物事についてその全体を知り尽くすことは難しく、自分なりの角度や視点から物事を見ることが多い。大切なことは、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することである。

七十三ページでは、自分と異なるものの見方や考え方と出会った経験を振り返ることができる。また、七十五ページには異なる意見を尊重することと自己の内面的成長との関わりを考えることができる書き込み欄がある。

七十六ページの「人物探訪」では、心の広さ奥深さがあるからこそ誰からも学ぼうとする姿勢をもつことができるということについて考えることができる。

２ 活用のポイント

中学生の時期には、自分の考えや立場に固執する傾向が強くなり、他者と意見の対立や摩擦が生じることも少なくない。個性についての自覚も芽生え、人それぞれにものの見方や考え方に違いがあることを理解するようになる。そのために各ページを通して、自分自身を振り返らせ、自分の視点からだけでなく、様々な意見も取り入れ、認め合い学び合う心を育みたい。

指導に当たっては、個性とは何かについての理解を促すとともに、多様な個性を認め、それぞれの差異を尊重する態度を育てることが大切である。

３ 活用場面例

■道徳の時間

人それぞれに異なるものの見方や考え方があることを実感し、認め合い学び合う心の大切さを確認できるように、七十五ページの書き込み欄などを活用する。

事例

①七十三ページの書き込み欄に記入する。
②読み物資料「言葉の向こうに」を読んで話し合う。
③七十六ページの「人物探訪」を読み、山岡鉄舟の「己の知らざることは何人にてもならうべし」の言葉に込められた思いについて話し合う。
④七十五ページの書き込み欄に、異なる意見を尊重しつつ、自分も成長していくにはどうすればよいか、自分の考えを記入して話し合う。

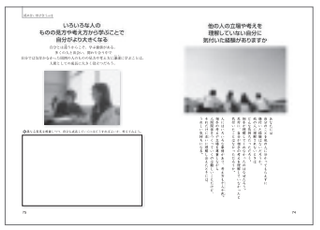
■国語科

七十六ページの「人物探訪」や七十七ページの「この人のひと言」の言葉を読んで、これまで読んだ本の中から、自分のものの見方や考え方を広げてくれた言葉などについて七十七ページに記入して、意見を交流する。こうした活動により、読書への興味・関心が喚起されるとともに、生き方についての考えを広げ、深めることにもつながる。

また、『論語』を教材とした学習をする際に、孔子の「君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。」という言葉を活用し、自身の体験を振り返らせながら、生きる教訓を短文にまとめさせる。それにより、題材と自己とをつなぐとともに、学習意欲を高め、言語感覚を豊かにすることもできる。

■特別活動（学級活動）

学級活動の内容「（2）適応と成長及び健康安全」の「イ　自己及び他者の個性の理解と尊重」の指導に当たって七十三・七十四ページについて話し合い、他者の個性を理解し、互いに尊重し合い、自己理解を一層深め、豊かな人間関係を育んでいくような態度を養う際に活用する。



P.74～75

◆この人のひと言
「君子は和して同ぜず。小人は同じて和せず。」

孔子は、古代中国の思想家で、儒教の祖として尊敬され、日本の文化にも古くから影響を与えた。この言葉は、『論語』の中にある。

この言葉を通して、他者と単に同調するのではなく、自分の考えをもって調和することが、人との関わりを深めていくということについて考えさせるようにしたい。そして、自分自身のことを振り返って、この言葉に込められた思いを深く考えさせ、望ましい人間関係の育成につなげていくようにしたい。

◆人物探訪〈山岡鉄舟〉
「己の知らざることは　何人にてもならうべし」

山岡鉄舟のエピソードから、個性の尊重や寛容の心をもち謙虚に学ぶことを具体的に考えさせるようにしたい。

鉄舟が十五歳のときに自らを律するために作ったルールを、同じ年代の生徒たちはどう感じるであろうか。

十五歳のときに作った自己を律したルールを守り続けた鉄舟の生き方は、その後、関わりのあった多くの人々の生き方にも影響を与えていることも押さえておきたい。

P.76

読み物資料

言葉の向こうに

P.78～81

2－(5)

1 資料の特性

インターネットという通信手段は、電子メールやＳＮＳ（ソーシャルネットワーキングサービス）、友人や仲間、同じ趣味や関心をもった人々との多様な方法での交流を可能にする。中学生になると、コンピュータ等を使用する機会も増え、インターネットを介した情報の収集や発信の経験をもつ生徒も多くなる。そのため、インターネットの魅力を体験する一方で、様々なトラブルに遭遇する可能性も高くなる。

主人公の加奈子は、インターネットで、ヨーロッパのサッカーチームのＡ選手のファン仲間との交流を楽しんでいる。ある試合をきっかけに、心ない書き込みが続いたことに怒った加奈子は、自分もひどい言葉で応酬し注意されてしまう。インターネット上での言葉のやり取りの難しさに直面した加奈子だったが、「言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて。」という言葉から、言葉の受け手の存在を忘れてしまっていた自分に気付くという資料である。

2 指導上の留意点

加奈子が置かれた状況は、インターネットを利用していれば誰もが想起することができるだろう。ここでは、情報モラルに留意しながら、インターネット上の書き込みによる心のすれ違いに着目し、考えを深められるように指導していきたい。

具体的には、自分の発する言葉の向こうにそれを受け取る他者がいることを想像させることで、ネット社会におけるよりよいコミュニケーションの在り方について考えさせるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

それぞれの立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする態度を育てる。

事例①

加奈子の思いを通して、他の人の考え方を尊重することについて考える展開

【主な学習】

①必死で反論する加奈子の言葉が段々エスカレートするのはなぜだろうか。

・ファンとしてＡ選手の悪口を言われっぱなしにできないから。

・相手が見えないので反論も書きやすいから。

②「中傷する人たちと同じレベルで争わないで。」という書き込みを見て、加奈子はどのようなことを思っただろうか。

・悪いのは悪口を書いてくる方だ。

・大好きな選手の悪口は許せない。

・私は悪くない。同じファン仲間だと思っていたのにひどい。

③画面から目を離して椅子の背にもたれた加奈子は、どのようなことを考えていただろうか。

・多くの人がサイトを見ていることを忘れていた。読む人の気持ちを全く考えていなかった。

・直接会って話している時よりもネット上のコミュニケーションって難しい。言葉じりにこだわって、ゆとりをもって受け止められない。

・自分の言いたいことばかりになって相手のことをじっくり考えられない。

④異なるものの見方や考え方を受け止めながら、他の人とコミュニケーションを図っていくためには、どのようなことが大切だと思うか。

事例②

いろいろなものの見方や考え方があることについて考える展開

【主な学習】

①加奈子は、「あなたが書いた言葉の向こうにいる人々の顔を思い浮かべてみて。」と言われて、どのようなことを考えただろうか。

・サイト上の字面だけにとらわれていたが、匿名だからこそ、ネット上での言葉のやり取りには難しさや恐ろしさがある。

・自分の発する言葉の向こうに、それを受け取る相手の存在があることを忘れてはいけない。

・全く同じ顔の人がいないように、いろいろなものの見方や考え方があるのは、当たり前だ。

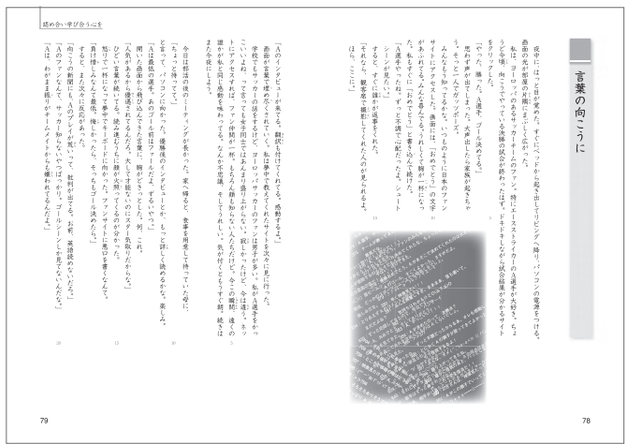
②加奈子が発見した「すごいこと」とは何だろうか。

・コミュニケーションとは、単に言葉を交わし合うことだけではない。言葉の奥にある思いや気持ちを交わし合うことだ。

・やりとりしている言葉は、人の全部ではなくて、一部だと考えれば冷静になれたのだと思う。

・大事なのは、字面にとらわれることではなく、言葉の奥にある人の気持ちを考え、いろいろな考え方を認めた上でコミュニケーションを図ることだ。

③この学習を通して、感じたことや考えたことは、どのようなことか。


言葉の向こうに

P.78～79

２ 人と支え合って
(6) 人々の善意や支えに応えたい

P.82〜93
2−(6)

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに感謝し、それにこたえる。

１ この内容項目のページの特徴

感謝の心は、他の人が自分のことを大切に思ってくれていることに触れ、相手の行為を有り難いと感じたときに起こる人間の自然な感情である。他者からの善意や支えに気付き、これを受け止めて感謝する豊かな心の働きが人間関係を築く上で大切である。

中学生の時期は、自立心の強まりとともに、日々の生活の中で自己を支えてくれている多くの人々の善意や支えに気付く一方で、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさも感じていることがある。

そこで、八十三ページでは、なぜ感謝の気持ちをうまく表現できないことがあるのかを考えるようになっている。

感謝の意味を考える書き込み欄や読み物資料とともに、八十四ページの詩などによって、感謝の気持ちを素直に伝えることの難しさや大切さを考える構成となっている。

２ 活用のポイント

指導に当たっては、まず、多くの人々の善意や支えによって、日々の生活が成り立ち、現在の自分があることに気付かせるようにする。その上で、その善意や支えに対する感動や喜びが自(おの)ずと感謝の心となって表出されるものであるということについて、経験を振り返って理解を深めさせていくことが大切である。そして、自分の心の中にある感謝の気持ちを素直に表現し、それが相手の心に届くことによって潤いのある人間関係が築かれるものであるということを考えさせていくようにしたい。

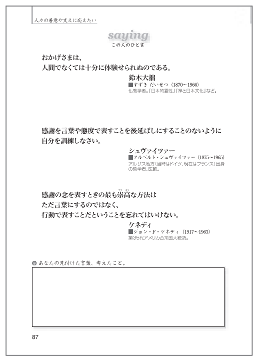
３ 活用場面例

■道徳の時間

読み物資料での話合いの前後に、「この人のひと言」を活用し、相手に感謝の心を届けることの大切さについて考えることができる。

事例

① 八十七ページの「この人のひと言」を読み、自分が関心をもった言葉を選び、理由を添えて発表する。
② 読み物資料「帰郷」を読んで話し合う。
③ 八十六ページの「メッセージ」を読んで、感じたことや考えたことを話し合う。
④ 自分が伝えたい「ありがとう」について八十五ページの書き込み欄に記入する。



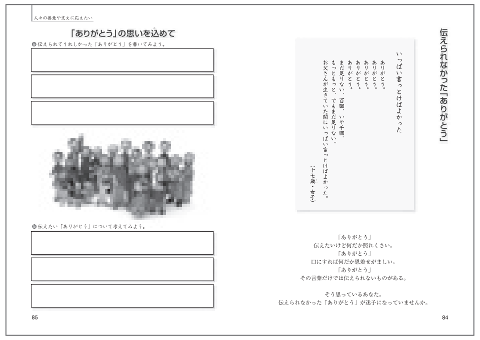
P.87

■特別活動（学級活動）

学級活動の内容「（２）適応と成長及び健康安全」の「オ 望ましい人間関係の確立」に関わって、八十四ページの「伝えられなかった『ありがとう』が迷子になっていませんか。」をテーマにして話し合う。

事例

① 八十五ページを活用して、伝えられてうれしかった「ありがとう」と、伝えたい「ありがとう」について考える。
② 八十四ページの詩を読んで、自分の体験を基に、伝えられなかった「ありがとう」について話し合う。
③ なぜ感謝の気持ちをうまく表現できないことがあるのかについて話し合う。
④ 自分が伝えたいと思う感謝の気持ちについて考える。
⑤ その感謝の気持ちをどのようにして伝えるのかを考え、自分なりの方法を考え、実践するようにする。



P.84〜85

◆メッセージ〈振分精彦（元小結高見盛）〉

「不器用な自分を支えてくれた全ての人に感謝したい。」

自分が不器用な人間であると自覚している振分親方は、最後の一番の後、支度部屋で、ようやくたくさんの人の支えに気付く。

親方が現役力士を引退する断髪式で、次のようなエピソードが残されている。大銀杏(おおいちょう)にはさみを入れた先代の東関親方（元関脇高見山）に対して高見盛（現振分親方）は、「親方、力士で生きる甲斐(かい)を与えてくださりありがとうございました」と角界にスカウトしてくれた師匠につぶやいたという。不器用な振分親方としては、この機会を逃せば伝えられない感謝の思いだったのだろう。

◆この人のひと言

「感謝を言葉や態度で表すことを後延ばしにすることのないように自分を訓練しなさい。」

アルベルト・シュヴァイツァーは、「世の中に善事をなす力や明るさがもっと増えるように、自分自身は、水の流れ出る道を見つけて泉となり、人々が感謝への渇きを癒すことができるようにしなければいけない。」という言葉も残している。

読み物資料

帰　郷

P.88〜93

2−(6)

1 資料の特性

本資料は、主人公の研一が故郷へ帰り、故郷の人々の温かさに触れ、感謝の気持ちを感じるという内容である。

東京で俳優となった研一は、脳卒中で母親が倒れたという連絡を受け、故郷の病院へと急ぐ。夜遅く病室に着くと、子供の頃から世話になった老夫婦が母親を見守っており、母親の無事を告げられる。翌日、研一は、老夫婦や母親が開いていた居酒屋の常連客の温かさに触れる。研一は、リハビリが必要な母親に東京で暮らそうと言うが、母親は首を横に振る。そんな様子を見ていた老夫婦が、母親の面倒を見ると切り出す。

「離れたくない」と母が言う町のぬくもりに触れ、研一は人々の温かさを感じながら東京に戻るという内容である。研一が感じた故郷のぬくもりや人の温かさについて考えることによって、多くの人の善意や支えにより、現在の自分があることに気付くことができる資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は自立心が強まり、時に、自己を過信し、自分の力だけで生きていると錯覚することもある。

本資料の主人公の研一が帰郷を通じて気付いたことは、母親への感謝だけではなく、母親を支えている老夫婦や町の人々の優しさなども含めたぬくもりであり、人は支え合いながら生きているということだった。このときの研一の気付きや東京に帰る研一の心の変化についても考えさせ、自分も多くの人の善意や支えによって、日々の生活を送っていることを感じ取らせるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

多くの人々の善意や支えにより、日々の生活や現在の自分があることに気付き、それに感謝し、応えようとする態度を育てる。

事例①

研一の思いを通して、感謝について考える展開

【主な学習】

①故郷に向かう電車の中で、研一は、どのようなことを考えていただろうか。

・母の病状はどうなんだろう。心配だ。普段からもっと連絡をとっていればよかった。

・大変な状況だったら、自分の仕事にも影響してしまうだろうな。

②老夫婦が病室に持ってきてくれたチャーハンを押し頂くように受け取った研一の胸には、どのような思いが込み上げてきたのだろうか。

・母だけでなく自分のことまで気遣ってくれて有り難い。

・大人になった自分に対して、子供の頃と同じようにしてくれることへの驚きと感謝の気持ち。

③来た道を引き返す電車の中で、研一は、どのようなことを思っていたのだろうか。

・これまで自分のことしか考えていなかった。

・おじさん、おばさんへの感謝の思い。常連客や雅也の優しさを有り難く感じる。

・自分一人で俳優になったと思っていたが、母や町の人たちみんなに支えられていたからこそ今の自分があるのだ。

④この学習を通して、感じたことや考えたことは、どのようなことか。

事例②

研一が感じたぬくもりや優しさの元になっているものについて考える展開

【主な学習】

①研一は、母が町の人たちとどのようなつながりをつくって暮らしてきたと思ったのだろうか。

・みんなに優しく接し、思いやりのある態度で過ごしてきた。

・気取らず自慢しない人で、みんなに愛されている。

・母に普段、世話になっているので、こんなときこそ役に立ちたいと、みんな思ってくれている。

②研一が感じた「ぬくもり」とは、どのようなものなのだろうか。

・母を包んでいる町のみんなの思いやりや親切、愛情。

・ふるさとの人たちに支えられているという安心感。

③研一が帰郷によって感じたことや考えたことは、どのようなことか。

・自分は一人で生きていると思っていたが、様々な人の善意や支えによって生きている。

・人の支えや善意に対して感謝し、その思いに応えていきたい。

支え合い共に生きる

1 このページの特徴

二の視点に関わる重点化「人間関係を築く力」に関するページである。

茨木のり子は、多くの詩人を輩出した同人誌「櫂（かい）」を発刊し、叙情詩を多数創作した。「知命」は、人間同士の心の交わりの世界を描いた作品である。

2 活用事例

■道徳の時間

人は、相互依存の間柄にあって生きている存在でもある。このページを活用して、人間関係を豊かにすることについて考えるようにしたい。特に、最後の行の「さりげなさで」の言葉に着目し、「沢山のやさしい手」とは何かなどについて、話し合うことができる。

P.94〜95

P.94〜95

生命（いのち）を考える

P.98〜101

1 このページの特徴

三の視点に関わる重点化「自他の生命の尊重」に関するページである。本ページは、生命を「偶然性」「有限性」「連続性」の観点から捉え、生徒たちに生命のかけがえのなさを語り掛けている。自らの生命を愛（いつく）しみ、他者の生命を尊び、あるいは生き物の死に涙する。生命を尊ぶという、人としての感情を、ここでしっかりと胸に刻み直したい。

生命の偶然性には、神秘的な面がある。生徒にとっては自己の存在そのものについての意味を考えるきっかけにもなり、哲学的な思索へと誘うかもしれない。有限性は、最も一般的な考え方であるが、身近な生死との関連の中で、その重さを認識していくであろう。連続性は、主に、家族との結び付きを再認識させ、同時に、自分も、脈々と続くであろう生命の環（わ）の一つであることに気付かせる。

日常生活の中では、生命の誕生に遭遇したり、身近な人との死別を経験したりすることがある。あるいは、書物やテレビドラマの中のそうした場面を見て、感動したり深い悲しみに包まれたりすることもある。そのような体験と重ね合わせて、このページを活用し、生命のかけがえのなさを実感できるようにしていきたい。

◆偶然性

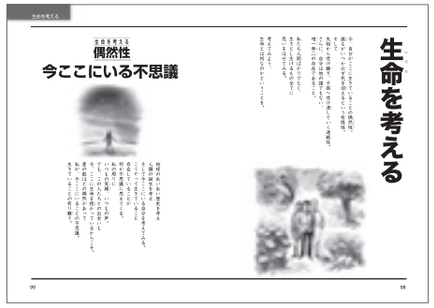
「なぜ自分は生まれてきたのだろう。」そのような思いを、感傷的に抱く生徒もいる。偶然性については、プラス思考で捉えるように助言したい。

◆有限性

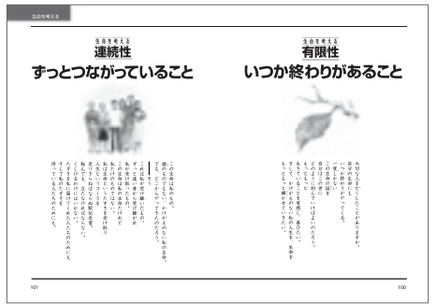
有限性からは、生きていることを大切にする心情が引き出せる。一日一日が去って行くように、いつか私たちも去っていく。誰にとってもかけがえのない貴重な一日を精一杯生きていこうとする思いを養いたい。

◆連続性

過去から現在へ、そして未来へと連綿と受け継がれていく生命。この連続性については、人間のみならず、あらゆる生命について思いを馳（は）せることができる。



P.98〜99



P.100〜101

2 活用事例

■理科（第二分野）

生物についての観察、実験を通して、植物の体のつくりと特徴について学ぶ際に、このページを活用する。植物はどのようにして仲間をふやすのか。植物はどのような体のつくりをしているのかについて考える。

事例

①花のつくりを調べる。
エゾヤマザクラ、ツツジ、チューリップ、マツなどの植物を観察し、その特徴をスケッチする。

②花のつくりの違いを知る。
被子植物と裸子植物のつくりの違いを学ぶ。

③花のつくりの特徴を深く考える。
裸子植物の胚珠（はいしゅ）や花粉のうが、なぜりん片の裏側についているのかについてグループで討議し、パネル発表を行う。

④一〇一ページの「生命を考える　連続性」を読み、植物にも生命を連続させる体の仕組みがあることについて感じたことをまとめ、発表し合う。また、一一九ページの「この人の言葉」のワーズワースの詩を読み、考えたことを記入する。

■特別活動（学級活動）

科学技術の発達と生命倫理との関わりから生命の意味を考える際に、このページを活用する。生命の有限性と科学技術との関わりについて深く考え、かけがえのない生命を尊重する態度を育む。

事例

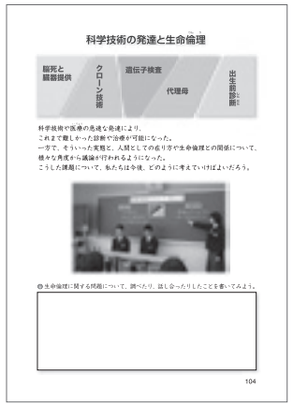
①九十八から一〇一ページの「生命を考える　偶然性　有限性　連続性」を読み、私たちの命が今の自分だけのものではなく、過去から現在、未来にもつながっていることを考える。

②一〇四ページの「科学技術の発達と生命倫理」に関する新聞記事などの資料を活用し、実態と課題を知る。

③遺伝子治療について意見交流を行い、その是非について考えを深める。

④かけがえのない生命を大切にするために、日々の生活の中で心掛けようと思うことなどを決めて実践に生かすようにする。

※生命倫理の課題についての議論では、多様な価値観から意見が対立することが少なくない。両論を併記するなどして、授業の展開には十分留意する必要がある。中学生の学習においては、性急に結論を求めるのではなく、これから一人一人がこのような現代的な課題に向き合っていくための出発点であるとの意識を生徒にもたせることが大切である。



P.104

3 生命を輝かせて
(1) かけがえのない自他の生命を尊重して

P.102～113
3−(1)

生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する。

1 この内容項目のページの特徴

生命を尊ぶことは、かけがえのない生命を愛しみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れと言える。

そこで、一〇二ページでは生命の神秘性に触れながら、生命が唯一無二のかけがえのないものであることが強調され、一〇三ページでは生命の「誕生」と「終焉」という対極の現実的な出来事から生命について考える構成をとっている。一〇四・一〇五ページでは、科学技術の進歩とともに生じる生命倫理に関わる問題や現代社会の抱える生命に関する課題を投げ掛けている。また、一〇六・一〇七ページでは、先人の生き方や格言から社会的な関わりの中での生命についても考えさせることができるようになっている。

2 活用のポイント

指導に当たっては、まず自分の生命について、その尊さやかけがえのなさを深く自覚させたい。さらに、人間の生命のみならず生きとし生けるものの生命の尊厳に気付かせ、生命あるものは互いに支えあって生き、生かされていることへの感謝の念をもたせるきっかけとしたい。

また、自己の生命の尊さやかけがえのなさを深く感じ、今を精一杯生きようとする姿勢につなげたい。さらに、二の視点や四の視点との関連の下で、人間の生命は人間関係の中で保たれているという側面があるということも考えさせるようにすることが大切である。

3 活用場面例

■道徳の時間

一〇六ページの「人物探訪」を読んで、人命を救うことを自らの使命とした緒方洪庵の生き方を考えたり、同じく人命を救う仕事に携わっている人からの話を聞いたりして、生命の尊さを考える。

事例

①一〇三ページの書き込み欄に、これまでの生活を振り返って、生命のかけがえのなさについて感じたことを記入して発表する。
②「人物探訪」を読んで考えたことを話し合う。
③人命を救う仕事に携わっている人をゲストティーチャーとして招き、生命についての話を聞く。
④生命の尊さについて、考えたことをグループで話し合う。

■社会科（歴史的分野）

「近世の日本」の中の「新しい学問・思想の動き」の学習の際に「人物探訪」を読むことで、蘭学者や国学者など新しい時代を切り拓いた人物の生き方について知ることができる。

■理科（第二分野）

内容「（５）生命の連続性」の単元で「ア　生命の成長と殖え方」と「イ　遺伝の規則性と遺伝子」について学習する際に、本項目のページを学習のきっかけとしたり、一〇一ページの「生命を考える　連続性」を読み、植物にも動物にも生命を連続させる体の仕組みがあることについて、感じたことをまとめて話し合ったりすることができる。

■保健体育科（保健分野）

内容「（４）健康な生活と疾病の予防」の感染症の予防に関して、病原体対策とともに、体力や抵抗力を高め免疫をつけることが感染症予防につながることを学習する。この単元の学習の際に、一〇六ページの「人物探訪」を読むことで、感染症により奪われてきた生命を救うために身を呈して研究に励んだ緒方洪庵の生き方が、予防接種による医療の先駆けとなったことに気付くことができる。

◆人物探訪〈緒方洪庵〉
「人の命を救い、人々の苦しみを和らげる以外に考えることは何もない。」

大阪市中央区北浜のビジネス街に、今も当時の姿を残す「適塾」。創設者の緒方洪庵は優れた蘭学者・医学者であっただけでなく、すばらしい教育者でもあった。明治維新で様々な分野で活躍する多くの偉人が学んだ適塾の入門者は千人にも達した。これほど多くの人に適塾で学びたいと思わせた魅力は何だろうか。

一つは、やはり洪庵の生き様ではないだろうか。

自分の名声や利益を顧みず、人のために生きる姿から、かけがえのない生命の大切さについて考えるようにしたい。

◆この人のひと言
「ひとの生命を愛せない者に、自分の生命を愛せるわけがない。」

吉川英治の言葉は、吉川が終戦後の混乱期に執筆した『大岡越前』の中に収められている。この言葉は、後の大岡越前、大岡市十郎が自らの生き方に苦悩し、命を絶とうとしていたときに出会った僧が市十郎に語った言葉として書かれている。

吉川は日本の敗戦後、一時筆を絶っている。『大岡越前』は、そのブランクを乗り越え、作家としての復活をかけた作品である。この言葉はこう続いている。「自分の生命すら粗雑に持ち扱う人間が、何で、ひとからその生命を祝福されようか、愛されようか。」吉川のこの言葉の意味を想像することで、「かけがえのない自他の生命を尊重する」生き方を考えることができる。

読み物資料

キミばあちゃんの椿（つばき）

P.108〜113

3−(1)

1 資料の特性

本資料は、病弱な広瀬淡窓が、医師の倉重湊（みなと）の助言によって生き方を変えたのを知って、主人公の裕介もこれまでの生き方を変えていこうとするという内容である。

病気のために入退院を繰り返し「何のために生きてるのかな、生きていても仕方がないのじゃないか」と苦しむ裕介が、人間の生きる意味について考え、生命を尊重しようとする生き方に変化するところを中心に考えさせたい。キミばあちゃんの言葉の中にある「生きることは一と筋がよし寒椿」の「生き切る椿」が象徴的な意味をもっており、かけがえのない生命を精一杯生きることについて考えさせられる資料である。人間の生命のみならず、身近な動植物をはじめ生きとし生けるものの生命の尊厳にも気付かせたい。

2 指導上の留意点

自己の生命の尊厳、尊さを深く考え、生きていることの有り難さに深く思いを寄せることは、自他の生命を尊重して生きることにつながる。

中学生の時期は、比較的健康に過ごせる場合が多いためか、自己の生命の大切さを感じている生徒は決して多いとは言えない。また、生命のかけがえのなさに思いが及ばず、生命軽視の軽はずみな言動につながることもある。

裕介は、自分と同じように病弱で、自らの生き方を憂い悩んだ淡窓という人物と、淡窓の実践した「万善簿」をキミばあちゃんから紹介され、生きることについて考えさせられる。裕介は、淡窓の生き方を知り、自分の考えの甘さに気付かされる。倉重からの淡窓への言葉、「万善簿」、そしてキミばあちゃんと友達とのやりとりなどから命の連続性や有限性、偶然性、そして生き方について考えていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

生命の尊さを理解し、かけがえのない生命を精一杯生きようとする態度を育てる。

事例①

裕介の思いを通して、生命の尊さについて考える展開

【主な学習】

①裕介は、なぜ、「何のために生きてるのかな、生きていても仕方がないのじゃないか」と思ったのだろうか。
・病気がちで入退院を繰り返していて苦しい。
・親にも心配や迷惑ばかり掛けている。
・生きる意味が分からない。

②裕介は、広瀬淡窓の生き方や「万善簿」のことを知って、どのようなことを考えたのだろうか。
・僕と同じように病弱だったけど、意味のある人生を懸命に生きたんだ。
・健康であるか病弱であるかは、生き方には関係がないのだ。

③裕介は、キミばあちゃんの手をぐっと握り締めて、どのようなことを考えていたのだろうか。
・生きていても仕方がないなんて考えていたけれど、しっかりと生きる。
・キミばあちゃん、大切なことを教えてくれてありがとう。自分だけが苦しいのではないんだ。前を向いて生きなければ。
・周りの人々が自分のことを気に掛けていることも忘れない。

※キミばあちゃんへの感謝だけにとどまる発言には、どういうことに感謝しているのかなどを問い、裕介の生きることに対する姿勢に考えが及ぶようにする。

事例②

キミばあちゃんの思いを通して、精一杯生きることについて考える展開

【主な学習】

①裕介の病室に見舞いに行ったときの様子を順平から聞いたキミばあちゃんは、どのようなことを考えただろうか。
・裕介は元気な同級生たちに自分の悩みを打ち明けることができず苦しんでいるに違いない。
・裕介が希望をもてるような話を聞かせてやれないだろうか。

②キミばあちゃんが広瀬淡窓の「万善簿」を通して、裕介に伝えたかったことはどのようなことだろうか。
・病気であっても、人とのつながりを大切にしながら、よいことを積み重ねていこうという前向きな生き方が生きる意欲を生むこと。
・淡窓も若い頃は、裕介と同じように自分の病気のことで頭がいっぱいだったが、どのように生きるかを追求していくことで、生きる意味を見いだしたこと。

③キミばあちゃんは、どのような思いから「生きることは一と筋がよし寒椿」の句を「いいねえ。」と言うのだろうか。
・生きることとは、ただ日々を過ごすだけでなく、自分の思いの限り、力一杯、生きることである。それが椿を見ていると思い返される。
・最後まで生きることの大切さが椿の様子と重なって心に伝わってくる。

④「生きることは」の言葉に続けて、生きることについての自分の考えを表現する。

3 生命を輝かせて
(2) 美しいものへの感動と畏敬の念を

P.114〜119
3−(2)

自然を愛護し、美しいものに感動する豊かな心をもち、人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。

1 この内容項目のページの特徴

悠久の時間の流れの中で育まれてきた地球の自然。その大自然を前に私たちは息をのむ。本内容項目では、人間の力を超える自然に対し畏敬の念を抱くとともに、自然と共存する将来を考えていくようにする。

一一四ページでは、自然と人間との関わりについて考えるきっかけを与えている。一一五ページでは自然の恵みと美しさ、一一六ページでは、人知の及ばぬ自然の猛威と神秘、そして一一七ページでは自然との共存、調和について考えることができるように構成されている。一一八ページの大木聖子氏のメッセージにある「私たちのために地球という星があるわけではありません。」という言葉は、この地球上での自然と共存した生き方を考えるきっかけになる。

2 活用のポイント

中学生の時期は感受性も豊かになり、自然や人間の力を超えたものに対して畏怖や神秘を感じるようになる。しかし、自然そのものに親しみ、その美しさに感動する機会に乏しい場合も多く、必ずしも自然のすばらしさを十分に実感しているとは言えない。また、地震や台風など自然の猛威を目の当たりにし、人間の無力さを強く感じている面もある。

指導に当たっては、時に人類に大きな被害をもたらすことのある自然が、一方では我々を豊かにし、癒し、育んでくれる存在であることに気付かせ、人間と自然との調和を考え、共存を目指そうという意欲を引き出していくことが大切である。

3 活用場面例

■道徳の時間

自然と共存し調和して、よりよく生きていくためにどのようなことが必要かを考える手掛かりとして、本項目のページを活用することができる。

事例

①一一五ページを読み、これまでの経験で自然が美しいと感じたことや、自然から癒されると感じたことを振り返る。

②一一六ページを読み、自然の不思議さについて感じたことを発表する。

③読み物資料を読んで話し合う。

④一一七ページの「コウノトリ野生復帰プロジェクト」を読み、今後、自然とどのように関わっていけばよいかを考え、発表し合う。

■理科（第二分野）

自然と人間の関わり方について認識を深め、自然環境の保全について科学的に考察し判断する態度を養う。

事例

①一一七ページの「コウノトリ野生復帰プロジェクト」を読み、コウノトリの絶滅を防ぎ、野生復帰を果たすために、動物学、生態学などの様々な科学の分野がいかに長い歳月をかけて関わってきたかを知る。

②保護動物を野生に帰す取組について調べる。

③調査の結果と自分の考えたことをまとめ、自然環境を保全することの重要性を認識する。

■総合的な学習の時間

環境などの横断的・総合的な課題について、自然と人間の関わりを考え、人間が自然に対してできることは何かを探究的に学習する際の導入として活用する。

事例

①一一八ページの「メッセージ」を読み、人間と自然との関わりについて考え、話し合う。

②人間が自然に対してできることや自然との調和について様々な資料を基に考え、環境に関する個人の学習テーマを設定する。

③個人別テーマを基に、探究活動の計画を立て、活動を行う。

④個人的テーマについて調査したことを整理してまとめる。

⑤探究活動の結果を踏まえ、調査してまとめたことや、自然との調和について身近な事柄として自分にできることを発表する。

◆メッセージ〈大木聖子〉

「私たちのために地球という星が
あるわけではありません。」

地球に息づく人間を、手のひらに乗るアリに例え、地球や自然に対する人間の傲慢さに警鐘を鳴らす。「地球という星に間借りをして暮らしているのは私たち人類の方」という大木聖子氏の考え方から、自然に対する感謝と謙虚さについて気付きを促すことができる。

この「メッセージ」は、理科の生物に関する単元への導入で活用することができる。地球に暮らす私たちが、自分たちの小ささを知ることができれば、時折起こる地震には謙虚に備えようと思えるのではないかという大木氏の言葉の意味を考えさせるようにしたい。

◆この人の言葉

ワーズワースは一時期、フランス革命に強く惹かれていた。しかし、革命による争いと流血に失望する。故国イングランドに戻った彼は、辺境の風景をこよなく愛する詩人となり、一八〇二年にこの「虹」が作られた。

この詩は、道徳の時間の終末などで活用することができる。この詩を朗読して、前述の背景を紹介し「生きている意味」「子供の頃の思い」から彼が抱く自然への畏敬の念に思いを馳せてみることもできる。

3 生命を輝かせて
(3) 人間の強さや気高さを信じ生きる

P.120〜131
3−(3)

人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることに喜びを見いだすように努める。

1 この内容項目のページの特徴

人間は決して完全なものではなく欠点や弱点も併せもっている。そして、その良心ゆえに悩み、苦しみ、その呵責に耐えられなくなることがある。

一二〇ページでは、良心の声に耳を傾けることで、よりよく生きようとする意欲を引き出すことについて考えさせる。一二一ページでは、心のどこかに抱くことがある劣等感や妬みなどについて、これまでの葛藤とそれに打ちかった経験を問い、本内容項目の論点に気付かせるようにしている。一二二ページでは、よりよい自分になろうと思う気持ちは誰もが胸の内に抱いているものだということを理解させ、自分自身の目指す生き方を問うものである。

また、一二四ページの「人物探訪」では、厳しい状況に置かれながらも、「人は本当はすばらしい心をもっている」と信じ続けるアンネ・フランクの生き方から、「人間としての気高さ」を知ることができる。

2 活用のポイント

「良心の声」「誇りある生き方」「人間の気高さ」という表現を具体的に捉えるのは難しい面もある。そこで、本内容項目のページを活用して、具体的に人間の弱さや醜さを克服する強さや気高さについて考えさせるようにしたい。その上で、自らの経験を振り返りつつ、自分自身の誇りある生き方について考え、よりよく生きようと考える自分がいることに気付き、誇りある生き方、夢や希望など喜びのある生き方を見いだすことにつなげていきたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

一二一ページを活用して、人間には弱さや醜さを克服して強く気高く生きようとする心があることについて考える。

事例

①一二一ページの八つの心について、今の自分が気になるものを選んで、どうして気になるのか理由も添えて、グループで話し合う。
②読み物資料「二人の弟子」を読んで話し合う。
③一二一ページに、自分の心の中の葛藤に打ちかったことを記入する。

P.120〜121

■社会科（歴史的分野）

歴史的分野の内容「（5）近代の日本と世界」と関連して、ファシズムと第二次世界大戦におけるドイツの占領政策の学習において、アンネ・フランクの生き方から、戦争や人間としての誇りについて考える。

指導に当たっては、ナチス政権下のドイツにおいてユダヤ人が迫害され、各地の強制収容所に送られたという事実を認識させた上で、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解させる。

その上で、アンネの意志の強さは、当時の時代背景からすれば極限とも言える状況下のものであったことを理解させるようにしたい。

P.124

◆人物探訪〈アンネ・フランク〉

「私たちは皆、幸せになることを目的に生きています。」

【一九四四年七月十五日の「アンネの日記」】

じっさい自分でも不思議なのは、わたしがいまだに理想のすべてを捨て去ってはいないという事実です。

だって、どれもあまりに現実ばなれしていて、とうてい実現しそうもない理想ですから。

にもかかわらず、わたしはそれを持ちつづけています。なぜならいまでも信じているからです。

――たとえいやなことばかりでも、人間の本性はやっぱり善なのだということを――

◆この人のひと言

「良心は魂の声である。」

ルソーについては、社会科の歴史的分野において、ヨーロッパの近代革命の時代の学習と関連させて取り上げることが考えられる。『エミール』で「私たちの魂の奥底には、私たちがそれに基づいて、私たちの行動と他人の行動とを、善あるいは悪と判断する、正義と美徳の生得的原理がある。」と述べており、ルソーは、どんな人間でも、人間であるがゆえに尊重されなければならないことの根底には良心があることを発見し、それゆえどんな人間でも、人間であるがゆえに尊重されなければならないことを訴えている。

読み物資料

二人の弟子

P.126〜131

3−(3)

1 資料の特性

本資料には、仏門で修行する二人の若者の対照的な生き方が描かれている。一人は、意志の弱さから修行を投げ出し人生の苦しみの中で自分の愚かさに悲嘆する道信であり、もう一人は、厳しい修行に耐え抜いて立派な僧侶に成長したが、舞い戻った旧友を許せない自分の醜さに苦悩する智行である。

二人の姿から、人間の弱さや醜さについて考えることができる。資料では、フキノトウと白百合（ゆり）が比喩的に人間としての強さや気高さとして暗示されている。

生き方の対照的な二人の弟子が、自分の弱さや醜さに向き合い苦しみながらも、それらを克服し誇りある生き方をしようとする姿に本資料のテーマがある。

自分を見つめ、弱さや醜さに向き合い、それを克服し、人間として気高く生きようとする姿勢を通して、生徒たちに人間としての生き方を考える機会を促すことができる。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、人間が内面に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せもっていることに次第に気付くようになる。対照的な生き方をした本資料の二人の弟子が、自己の弱く醜い心に悩む姿を通して、本内容項目の趣旨を理解させることができる。その上で、内なる良心の声を聞いて弱さや醜さを克服しようとする二人の弟子の姿から、自分自身の内にある誇りある生き方をしようとする思いに気付かせるようにしたい。

本資料では、「白百合のように気高く生きることの大切さ」に気付いた智行を中心に追うことで、弱さや醜さを克服することは、誇り高い生き方に近付こうとする生き方であることを考えさせることができる。また、苦悶（くもん）の末に「フキノトウのように強く生きよう」と決心した道信を中心に追うことでも、そのねらいに迫ることができる。

3 展開例

【ねらい】

自分の弱さや醜さに向き合い、それらを克服しようとする強さや気高さに気付くことで、人間として生きることに喜びを見いだそうとする態度を育てる。

事例①

智行のことを中心にして、人間の醜さを克服する気高さについて考える展開

【主な学習】

①智行は道信が帰ってきたとき、どのように思っただろうか。
・途中で修行を投げ出したのに今さらのこのこ戻ってきて恥ずかしくないのか。
・私は、厳しい修行に耐えて現在の立場にあるのだ。お前を受け入れることはできない。上人様もお許しになるはずはない。

②道信が上人によって許されたのを見て、智行はどのようなことを考えただろうか。
・修行を投げ出した人間を許すなんて信じられない。
・道信が許されるならば、真面目に修行をしてきた私はやっていられない。上人様は何を考えておられるのだろう。

③白百合を見つめながら涙をこぼさずにいられなかった智行の気持ちは、どのようなものであっただろうか。
・道信を受け入れることができない自分は、なんて醜い人間なんだろう。
・寺で修行してきた者以上に苦労してきたかもしれない道信のことを見下している自分は、なんて心が狭い人間なんだろう。

④「人は皆、自分自身と向き合って生きていかねばならないのだ。」という言葉には、上人のどのような思いが込められているのだろうか。
・人のことをとやかく言ってばかりでは、自分のことが見えなくなる。自分自身の心と向き合ってこそ、自らの生き方が見えてくるものだ。
・友を受け入れられない自分の弱さや醜さと向き合いなさい。
・道信は自分を見つめ、強く生きようと決心してここに戻ってきたのではないか。道信には、道信の生き方がある。自らの生き方を見つめ直す姿勢を大切にせねばならない。

事例②

道信のことを中心にして、人間の弱さを克服する強さについて考える展開

【主な学習】

①道信は雪の下のフキノトウを見て何を感じたのだろう。
・雪の下で耐えながら生きているフキノトウの強さを見て、自分もこう生きたいと思った。
・フキノトウを生かしているものを感じて、もう一度修行したいと心から思った。自分の弱さと向き合って、苦しさに目を背けずひたすらに生きてみようと思った。

②智行は道信の行為を許せないと思ったのに、上人はなぜ道信を許したのだろうか。
・道信の弱さや長年苦しんできたつらさを分かっていたから。
・道信が自分自身の弱さと向き合って生きようとしていることが分かったから。

③上人が道信を許したことについて、どう思うか。

4 社会に生きる一員として
(1) 法やきまりを守り社会で共に生きる

P.134〜145

4−(1)

法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。

1 この内容項目のページの特徴

法やきまりによって社会の秩序が保たれ、秩序と規律を守ることで個人の自由が保障されている。そのことを踏まえ、法やきまりの意義を理解し、権利を正しく主張し、自らに課せられた義務を確実に果たそうとする態度を養い、よりよい社会の実現を目指す気持ちを高めることが重要である。

一三四ページでは権利と義務の側面から法やきまりを捉え、一三五ページでは、身近なきまりを示しながら、これまでに学んだことを振り返る。一三六ページでは、社会をスポーツに例え、ルールを通して法やきまりの意義について理解を深める。一三七ページでは、法やきまりを守ると同時に、よりよいものに見直していこうとする意識を高めるようにしている。

様々な問題が発生した場合、きまりがなかったらどうなるかを考えさせるとともに、西村雄一氏の「メッセージ」や先人の格言などを通して人物の生き方や考え方に触れ、社会生活において守るべき法やきまりを大事にする態度を養い、日々の実践につなげていくようにしたい。

2 活用のポイント

中学生になると社会の仕組みもある程度理解し、社会の一員としての生活の仕方についての自覚も深まる。しかし、法やきまりについては、その意義を理解しつつも自分を拘束するものとして捉え、反発を感じる場合も多い。一方、他者のルール違反や不当な権利主張などには批判的な態度を示すこともある。

指導に当たっては、こういった批判的な経験も想起させながら、社会の秩序と規律を高めるために必要なことを考えさせ、実生活における実践にまで高めていくようにしたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

社会の一員として、社会の秩序や規律を保つことの重要性を認識し、そのために法やきまりが果たす役割についての理解を深める。

事例

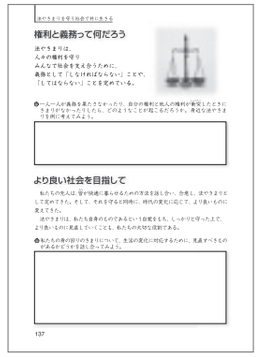
①一三六ページを読んで、法やきまりを守る意義について考え、発表し合う。
②読み物資料「二通の手紙」を読んで話し合う。
③一三七ページの上段の問いについて意見を発表し合う。
④一三七ページの下段を読み、よりよい社会や学校、学級を目指すためのきまりとは、どのような意味をもつのか、そのよりよい在り方を実現するためには何が求められるかなどについて考える。

■社会科（公民的分野）

人間は本来社会的存在であることに着目し、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えるようにする。

事例

①一三七ページの上段を読み、一人一人が義務を果たさなかったり、自分の権利と他人の権利が衝突したときにきまりがなかったら、どのようなことが起こるか、身近な法やきまりを例にして話し合う。
②一三七ページの下段を読み、身の回りのきまりについて生活の変化に対応するために見直すべきものがあるかを話し合う。



P.137

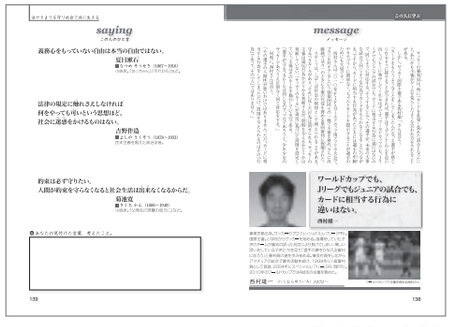
◆この人のひと言
「義務心をもっていない自由は　本当の自由ではない。」

夏目漱石の講演録「私の個人主義」に出てくる言葉で、自由と義務の関わりについて語られている。この言葉の背景となった漱石の考えを知り、「本当の自由」とは何かを考えることができる。

◆メッセージ〈西村雄一〉
「ワールドカップでも、Ｊリーグでもジュニアの試合でも、カードに相当する行為に違いはない。」

「カードをもらうようなことをしてしまったんだな、と選手が感じられるように接することができれば、選手はフェアプレーの心を思い出し、プレーに集中してくれるはずです。」と語るサッカー国際主審の西村雄一氏。西村氏のこの考え方に触れ、ルールの意義を考える。特に、年齢や経験の区別なく公平に対応する点についても押さえるようにする。

この「メッセージ」を活用して、例えば、なぜ西村氏は年齢等に関係なくカードを提示することが選手のためになると考えているのか、西村氏が考えるルールとはどのようなことかなどについて問い掛け、きまりの意義などについて考えさせることができる。



P.138〜139

読み物資料

二通の手紙

P.140〜145

4−(1)

1 資料の特性

主人公の元さんは、動物園の規則を知っていながら、幼い姉弟の思いに同情し、入園を許してしまう。元さんの行為は、母親からは感謝されることになったが、規則を破って入場させたことから大騒ぎとなり、その結果懲戒処分を受けることとなった。

姉弟の母から届いた感謝の手紙と動物園側から届いた懲戒処分の通告書。元さんが手にした「二通の手紙」は、社会における人間としての生き方について考える機会を与えてくれる。

本資料は、心の葛藤を引き起こす内容であり、社会における法やきまりの意義について深く考えることのできる資料である。

2 指導上の留意点

元さんの行為は、規則に違反した行為であり、万一、姉弟に事故でもあった場合には、軽はずみな行為として非難されることにもなる。しかしながら、この元さんの行為は、姉弟を思いやった行為であり、心情的な共感とともに懲戒処分に対する疑問や反発の気持ちも湧いてくる。

指導に当たっては、元さんの思いについて話し合ったり、元さんの判断を巡る道徳的な葛藤について話し合ったりして、社会における法やきまりの意義やそれを遵守することの大切さについて考えさせるようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

法やきまりの意義を理解し、秩序と規律のある社会を実現しようとする態度を育てる。

事例①

元さんの思いを通して、法やきまりを守ることの大切さを考える展開

【主な学習】

①元さんは、なぜ、規則を破ってまで姉弟を入園させたのだろうか。

・毎日、園内をのぞいていた姉弟の思いに同情し、弟の誕生日を祝ってあげたいという姉の気持ちに心を動かされたから。

・入園終了時刻は過ぎたけれど、まだ、閉門時刻は過ぎていない。今ならまだ大丈夫だろうと思ったから。

②母親からの手紙を読んだ元さんは、どう思っただろうか。

・そんなにも姉弟が喜んでいたなんて。そのことは、本当によかった。

・人としての行いは、間違っていないつもりだが。

③「二通の手紙」を見比べながら、元さんが考えていることは、どのようなことだろうか。

・入園係としての義務を考えると、規則の意味を考えて判断すべきだった。

・重大な事故になることも考えれば、姉弟の事情を察してしたことだったにせよ、それで済まされることではない。

・規則を破ると、結局は、多くの人に迷惑をかけることになるということも考える必要があった。

④この学習を通して、感じたことや考えたことは、どのようなことか。

事例②

元さんの判断を通して、社会における法やきまりの意義を考える展開

【主な学習】

①規則に反して姉弟を入園させた元さんの判断に賛成か反対かについて考え、その理由も含めて意見を交流する。また、相手側の意見を聞いて考えたことも述べる。

※弟の誕生日だからという姉の思い、また、重大な事故が起きることもあるということについても考慮して考えさせるようにする。

②自分が元さんの立場だったら、このようなとき、どのように対応すると思うか話し合う。

③法やきまりはなぜあるのか、それを破ることでどのような問題が起きるのかについて話し合う。

P.140〜141

四の視点　重点ページ

一人一人が守るべきものがある

1 このページの特徴

いつの時代にも守られてきたきまりがある。明確に定められた法はもちろん、明文化されていない約束も規範の一つとして言い伝えられてきた。これらの規範を守ることは、自分が社会の一員としての自覚をもって生きることにつながる。

このページを通して、どの時代にも、どのような場面においても、社会や集団における共通の規範があることに気付くことができる。また、法やきまりを守ることが、社会の秩序と規律の維持につながるということについても、考えることができる。

P.146〜147

2 活用事例

■道徳の時間

自分たちの守るべき身近なきまりなどについて話し合い、きまりを守ることの意義や自他の権利と義務について考える。

P.146〜147

4 社会に生きる一員として
(2) つながりをもち住みよい社会に

P.148〜159
4−(2)

公徳心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。

1 この内容項目のページの特徴

公徳心と社会連帯についての理解と実践意欲を高めることを目的とする内容項目である。公徳を大切にする心が、一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。自分たちが生活する社会が誰にとっても住みよい環境であるために、よりよい社会の実現に向けた一人一人の努力の積み重ねが必要である。

一四八・一四九ページでは、学校生活や毎日の生活を振り返って、公徳心や社会連帯の大切さについて考えることができる。また、一五〇ページを活用し、日常生活の中で他者への配慮や思いやりのある行為に遭遇したことを振り返り、公徳心について考えることもできる。さらに一五一ページのグラフを活用し、社会に対する興味や関心について考え、進んで社会と関わろうとする意欲を高めるようにしたい。

2 活用のポイント

自己中心的な身勝手な言動は、周囲を不愉快にさせ、社会の秩序にも悪影響を及ぼすものである。よりよい社会を実現するためには、相互に配慮し、協力して生活を築くことが大切である。ここでは、日常を振り返り、当たり前の心遣いが住みよい社会をつくっていくということに気付かせたい。また、渋沢栄一の「人物探訪」や大船渡市立第一中学校の「メッセージ」を通して、社会連帯の意義やよりよい社会の実現のために自分たちにできることはどのようなことかについて考えさせるとともに、よりよい社会の実現に努めようとする意欲を高めるようにしたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

「メッセージ」と「人物探訪」を活用し、社会連帯の大切さについて考える。

事例

①一五三ページの「メッセージ」を読み、感じたことを話し合う。
②一五二ページの「人物探訪」を読み、渋沢の言葉の意味を考える。
③一四九ページの書き込み欄に公徳心や社会連帯の大切さについて考えたことをまとめて記入する。

■社会科（歴史的分野）

歴史上の人物に対する生徒の興味や関心を育て、それぞれの人物が果たした役割や生き方などについて、時代背景を関連付けて考察するようにする。

一五二ページの「人物探訪」を読み、人々の幸福のために生きる姿から、社会に役立とうとする渋沢の強い思いについて話し合う。

■特別活動（生徒会活動・学校行事）

一五〇ページの「他者への配慮、思いやり」を読んで話し合い、相手への気遣いで住みよい社会が築かれることに気付くようにする。また、自分さえよければよいという心無い言動を見掛けたときの不愉快な経験を思い出し、そうした言動は、相手への思いやりのなさに起因していることに気付くことができるようにしたい。その上で、一四九ページの「公徳心、社会連帯の大切さ」を活用し、自分たちの学校生活を振り返って、一五〇ページのようなキャッチフレーズやポスターを作成し、校内や地域に掲示するなどして、集団や社会の一員としてよりよい学校、生活づくりに参画しようとする態度を育てる。

また、ボランティア活動などの奉仕的行事を行う際の事前・事後に本内容項目のページを活用することで、活動の意義を考えることもできる。

■家庭との連携

公徳心や社会連帯の自覚を高めるためには、社会全体に目を向けることが大切である。そのため、本内容項目のページについて家庭で一緒に話し合ったり、町で見掛けた他者への配慮や、思いやりがあると思った行為について家の人と話し合うなどして、様々な視点から社会全体に目を向けて、公徳心について考えるようにしたい。

◆人物探訪〈渋沢栄一〉
「いくら年をとっても　人間を辞職するわけにはいかん」

『論語と算盤（そろばん）』の著者であり日本の資本主義の父と言われる渋沢栄一は、社会公共事業にも力を注いだ人物である。渋沢の「人々の幸福のために生きる」という姿勢を通して、生徒一人一人が社会の成員であるという自覚を深め、進んで社会と関わりをもって生きようとする意欲を育てたい。

東京都北区西ヶ原には「渋沢史料館」が、埼玉県深谷市には「渋沢栄一記念館」がある。

◆メッセージ「一中生に、声をかけて下さい！」

危機的状況の中で、何か自分たちにできることはないだろうかという思いから、岩手県大船渡市立第一中学校の生徒たちは立ち上がった。がれきの撤去や炊き出しを手伝う姿は、地域の心を束ね、被災した多くの人々の心を明るく照らし、励ました。新聞の「今こそ出番だ」という言葉からは、生徒たちの意気込みが伝わってくる。できることから始めていけば、それがやがて大きな力となり、社会を支えていく力になることを教えてくれる。よりよい社会の実現に向けて、自分たちはどのように努力すればよいかを考え、進んで社会と関わろうとする姿勢を養うようにしたい。

読み物資料

鳩(はと)が飛び立つ日 ―石井筆子―

P.154〜159

4−(2)

1 資料の特性

本資料の主人公の筆子は、強くたくましい志で社会を照らし、よりよい社会の実現に向けて生涯をかけた女性である。

女子教育の充実に力を注いでいた筆子は、知的障害のある幼い二人の子供の教育や将来のことで心が晴れなかった。石井亮一から知的障害児教育の夢を聞いた筆子は、共感し共に歩む決心をする。学園の火災で子供たちを失ったことに強いショックを受けるが、子供たちのために再び立ち上がり、自らの選んだ道を進み続ける決意をする。

よりよい社会の実現のために、決して諦めることなく人生を生き抜いた筆子の姿から、自分たちにできることを真剣に考え、社会を構成する一員としての自覚を促し、生き方を問う資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、社会全体の在り方に理想を描くようになるとともに、現実社会と理想との間にギャップを感じ、現状に対する反発心を抱く場合もある。しかし、そのような心境の背後には、よりよい社会を実現したいという思いも隠されている。

また、この時期には、社会福祉施設でのボランティア活動などを体験する場合もある。

このような体験を生かして、自分も社会を構成する一員として、他者と共に手を携え、誰もが安心して暮らせるよりよい社会の実現に向けて努力しようとする態度を育てたい。

3 展開例

【ねらい】

社会全体に目を向け、よりよい社会の実現に努めようとする意欲を育てる。

事例①

筆子の思いを通して、よりよい社会の実現について考える展開

【主な学習】

①筆子はどういう思いから女学校を手放し、亮一と共に歩む決意をしたのだろうか。
・障害のある人や弱い立場の人を救うために自分も役に立ちたい。
・亮一と共に協力して、弱い立場の人が安心して暮らせる世の中をつくりたい。

②幸子までも失ってしまった筆子は、幸子が刺しゅうしたハンカチを手に取り、どのようなことを考えたのだろうか。
・亡くした子供の分まで学園の子を守り育てよう。
・学園の子供たちを守り育てるのが、自分の使命だ。

③火事の後、学園を廃止にする決意をした亮一に黙ってうなずいた筆子は、どのような気持ちだったのだろうか。
・社会から見放された子供たちを守り切れなかった。
・自分は思い上がっていたのかもしれない。

④筆子は、どうして学園を続けようと思ったのだろうか。
・社会や子供たちが、自分を必要としているのだ。
・学園の存続を願っている人たちの思いに応えよう。

事例②

筆子や社会奉仕活動などをしている人の思いを通して、よりよい社会の実現について考える展開

【主な学習】

①亮一から知的障害児教育の夢を聞いたとき、筆子はどのようなことを考えたのだろうか。
・本当にそのようなことができるのだろうか。簡単なことではないだろう。でも、子供たちの可能性を拓(ひら)くため、自分も一緒にやってみたい。
・娘たちのためにも、また、よりよい社会づくりのためにも、その夢を一緒に実現したい。

②「私には子供たちの声が聞こえる。」とつぶやいた筆子は、何を思っていたのだろうか。
・子供たちが私を支えてくれている。私の使命は、私を支え、助けてくれているあの子たちの思いに応えることだ。
・あの子たちのためにもよりよい社会をつくりたい。

③ゲストティーチャー（社会奉仕活動などをしている人）から、よりよい社会づくりのための活動とその思いについて話を聞いて、よりよい社会づくりに向けた自分自身の具体的な関わり方を考える。

四の視点　重点ページ

社会に目を向け、社会と関わり、社会を良くする。

P.178〜179

1 このページの特徴

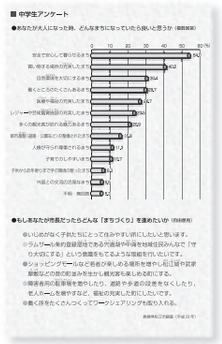
四の視点に関わる重点化「社会参画への意欲や態度を身に付ける」に関するページである。誰もが安心して生活できる、住みよい社会の実現のために、自分にはどのようなことができるかを考えることで、生徒一人一人が社会の一員としての自覚を深め、進んで社会と関わろうとする態度を育てたい。

「もし、あなたが市長だったら」という設定では、広い視点から自由にまちづくりへの想像を広げることができる。

2 活用事例

■道徳の時間

道徳の時間の導入で活用し、社会全体に目を向けるきっかけとする。一五一ページの「社会に対する興味関心」のグラフと関連させて、社会参画についても考えることもできる。



P.179

4 社会に生きる一員として
(3) 正義を重んじ公正・公平な社会を

P.160〜165
4−(3)

正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。

1 この内容項目のページの特徴

社会的な問題でもあるいじめにも深く関わる内容項目である。一六〇ページの文章では、いじめに言及し、それは正義に反する卑怯（ひきょう）な行為だと断じている。一六一ページの世界人権宣言では、差別や偏見のない社会の実現のための課題について考えることができる。また一六二・一六三ページでは、グラフを基にいじめをなくすために何ができるのかを話し合うようになっている。

これらのページを活用して話し合う中で、深く自分にも問い掛け、公正・公平で差別や偏見のない社会の実現に向けた意欲を引き出すようにしたい。

2 活用のポイント

指導に当たっては、「見て見ぬふりをする」とか、「避けて通る」という消極的な立場ではなく、差別を憎み、不正な言動を否定するなどの主体性ある態度が養われるよう指導することが大切である。そのため、一六五ページの「いじめ撲滅宣言」を活用するなどして、いじめの防止や解決に向けて主体的に取り組む中学生の姿から、正義が通る公正・公平な社会の実現に積極的に努めようとする態度を育てていきたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

読み物資料や「人物探訪」を活用して、正義の意味を考え、公正・公平な社会の実現について話し合い、差別や偏見をなくそうと努力する態度を養うようにする。

事例

①一六一ページの世界人権宣言を読み、差別や偏見のない社会の実現のための課題について考える。
②読み物資料を読んで話し合う。
③「人物探訪」を読み、差別や偏見について話し合い、それに立ち向かう正義とはどのようなことかを考える。

■特別活動（学級活動）

悪いと思うことをやめさせたり、いじめをなくしたりするためにはどうすればよいのかを学級で話し合い、解決策を見いだすようにする。

事例

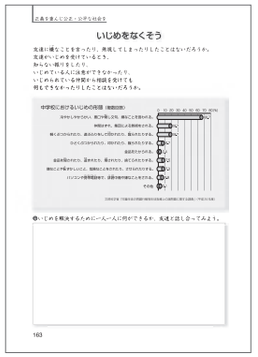
①一六二ページの問いについて、意見を出し合う。
②一六三ページの問いについて、各自それぞれの考えを記入し、発表する。
③一六五ページの「いじめ撲滅宣言」を参考に、学級の宣言をグループで起草し、発表し合う。
④各グループの宣言について話し合い、学級の宣言として一つにまとめ、学級のみんなで守っていくようにする。

■特別活動（生徒会活動）

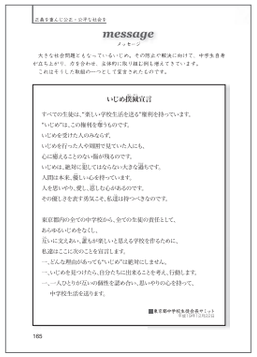
生徒全員が差別や偏見のない学校生活への願いや思いを共有し、正義の実現に向けて積極的な意識をもてるよう、一六五ページの「いじめ撲滅宣言」などを活用する。

事例

①生徒会役員会が主体となり、「いじめ撲滅宣言」を全校生徒に紹介する。
②生徒会役員会の話を受けて、一六三ページを活用して、学級でいじめ撲滅について考える。
③学級ごとに「いじめ撲滅宣言」を作成し、学級目標とともに掲示し、実践していくようにする。



P.163



P.165

◆人物探訪〈ガンディー〉
「全ての人の目から、あらゆる涙を拭（ぬぐ）い去ることが私の願いである。」

ガンディーは、人種差別に対し非暴力、不服従の方針を掲げ貫き通した。このガンディーの生き方を通して、差別や偏見に対して正義を貫いていくことを考えさせるようにする。

人は誰であっても一人の人間として尊重されねばならない。また、差別や偏見によって不当な扱いを受けてはならない。

差別や偏見に対して怒りを感じ、それを正していこうとする気持ちが自分たちにもあることに気付き、自分たちに何ができるかを問い掛けながら、何人（なんぴと）にも公正、公平に接し、正義の実現に向けて努力しようとする態度を養うようにする。

◆メッセージ〈いじめ撲滅宣言〉

いじめの問題は、現代の社会の解決しなければならない重要な課題である。生徒自らが立ち上がり、その防止や解決に向けた取組を行うことは、重要なことである。

東京都中学校生徒会長サミットの「いじめ撲滅宣言」は、差別や偏見に対する自己の考えを振り返るきっかけとなるだろう。この宣言を様々な視点から活用するようにしたい。

4 社会に生きる一員として
(4) 役割と責任を自覚し集団生活の向上を

P.166〜171
4−(4)

自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め、役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。

1 この内容項目のページの特徴

人は様々な集団や社会の一員として生活を送っている。本内容項目は、その集団における自己の生き方を考える内容である。

一六六・一六七ページでは、集団において他者と協力して自己の役割を全うしようとする例として、オーケストラの写真が掲載されている。一人一人が奏でる音は、仲間と心を一つにして表現されることで、より美しい音楽となる。家庭、地域、学校、学級、委員会活動、部活動など様々な集団に属する生徒たちに、集団の一員としての自覚を促すような内容になっている。また、一六八ページでは、自分の所属する集団を確認しながら役割や責任について考えることができる。

これらのページを活用して、集団における自己の役割と責任を自覚して、自己の役割を果たし、集団生活の向上に努めようとする態度を養うようにしたい。

2 活用のポイント

人は決して一人で生きているのではなく、所属する集団の中で励まし合ったり支え合ったりしながら生活している。集団においては、各々の役割を自覚し、責任をもってそれを果たすことが重要である。また、集団の目標は各々異なっていても互いに排他的にならずに尊重し合い、集団生活の向上に努めることが大切である。そのため、集団の中での役割や、集団をよりよいものにするためにやってみたいことなどについて、自分のことを振り返って具体的に考えさせるようにしたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

一七〇ページの「はやぶさプロジェクト」のコラムや一七一ページの「この人のひと言」を活用して、集団の中で自己が輝き、そして集団も発展するということはどのようなことか、そのために何が必要かを考える。

事例

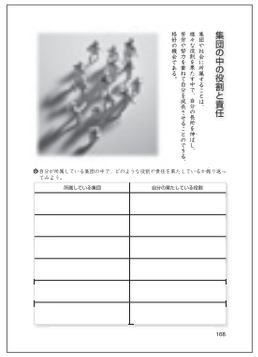
①「この人のひと言」を読み、考えたことについて話し合う。
②読み物資料を読んで話し合う。
③コラム「はやぶさプロジェクト」を読んで、各自の役割と責任、そして集団の目標について話し合う。

■特別活動（学級活動）

学級における自己の在り方や学級の仲間相互の関わり方について考え、学級生活の向上のために、自分の役割と責任を果たしていこうとする態度を養っていく際に、一六六から一六九ページを活用することができる。

■特別活動（学校行事）

例えば、合唱コンクールや体育祭などの学校生活における行事等、集団の成員が力を合わせ結束しなければならない機会がある。指導の初期段階で一六七ページの書き込み欄を活用して目標を確認し合い、さらに一六八ページの記入を通じて自己の役割や責任について一人一人に自覚させることができる。結果や出来映えのみに意識が集中しないよう留意し、集団の望ましい在り方について考えることができるようにする。


集団の中の役割と責任

P.168

◆コラム〈はやぶさプロジェクト〉

壮大なプロジェクトは、メンバーの一人一人が自己の役割を全うし、互いに支え合いながら、心を一つにして努力を続け、数々のトラブルを克服して達成された。「はやぶさプロジェクト」の取組を通して、集団の力を高めるために何が必要なのかを考えることができる。

（道徳の時間の学習展開の例）
①はやぶさの写真や映像を提示する。
②コラムを読んで話し合う。
③エンジントラブルに見舞われた時の川口淳一郎氏たちの思いについて話し合う。
④一六七ページを読んで、集団として目標を達成するために大切なことを考え、話し合う。
⑤一七一ページの格言を読み、集団の役割と責任について考えを深める。

◆この人のひと言

「自己形成がある程度まで進んだら、比較的大きな集団に加わり、他人のために生き、我が身のことを忘れるほど、これが自分の義務だと感じた活動に身をていするのが望ましい。人間は、そうやって初めて自分自身を知ることができる。」

ドイツを代表する文豪、ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテは、フランクフルトに生まれた。自然科学にも興味をもちながら、シラーとともにドイツ文学における古典主義時代を築いた人物である。

彼の言葉から、人は一人では生きられない、集団の中で自己を輝かせることによって自己の存在を感じ取ることができるのだという思いが伝わってくる。

4 社会に生きる一員として
(5) 勤労や奉仕を通して社会に貢献する

P.172〜177
4−(5)

勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。

1 この内容項目のページの特徴

中学生にとって、働くことに対する関心や意識は決して高いとは言えない。しかし、この時期に勤労の意義について考える機会をもつことは、将来に向けて有益なことである。

一七二ページでは、働くということの意味を文章と四つの写真から考えられるようになっている。一七三から一七五ページは、ボランティア活動や職場体験活動等の例示を含め、働くことの実感や意義、社会との関わりについての文章や問い掛けで構成されている。

さらに「メッセージ」と「この人のひと言」を活用することで、勤労と社会貢献との関わりについて、人物の生き方や言葉から考えることができるように構成されている。

2 活用のポイント

中学生の段階では、働くということは、現在の自分にとっては無関係という捉え方をしがちである。しかし家庭や地域、学校において行う様々な活動の中には、仕事と同様に、公共の福祉と社会生活の発展・向上につながるものも多いということに気付かせるようにする。

また、自己の進路と関連して一七五ページの問い掛けなどを通して、働くことは何らかの形で社会に貢献するものであるということに気付くこともできる。この時期に勤労についての正しい理解を促すことは、学ぶことの意欲を高める上でも大切なことである。

3 活用場面例

■道徳の時間

職場体験活動等を通して、勤労の尊さについて考えるとともに、そうした活動がもたらす充実感を知り、働くことによって生きがいのある人生を実現しようという意欲を高め、公共の福祉と社会の発展に努めようとする態度を養うようにしたい。

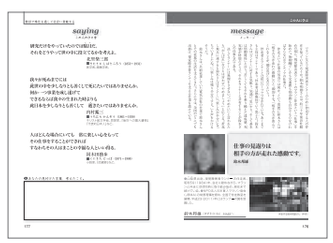
事例

①ボランティア活動や職場体験活動等を振り返りながら鈴木邦雄氏の「メッセージ」を読む。

②「相手の方が喜んでくれることが、僕の喜び」という鈴木氏の言葉から働くことの意義について考える。

③「仕事の見返りは相手の方が走れた感動です。」の「見返り」の意味を考え、話し合う。

④一七六ページの「この人のひと言」の言葉に触れながら、働くことと社会貢献との関わりについて、自分なりの考えをまとめる。



P.176〜177

■特別活動（学級活動）

学級活動の内容「（3）学業と進路」の「エ　望ましい勤労観・職業観の形成」の指導に当たって、一七三ページを活用して実際に働いている人にインタビューし、それを基にして働く目的と意義について話し合う。

また、将来自分がどのような職業に就き、どのように職業生活を送るかについてグループで話し合い、生きがいのある人生を築こうとする意欲を高める。

■総合的な学習の時間

一七二から一七五ページに掲載されている写真から様々な職業があることを理解するとともに、社会が様々な職業で支えられ、仕事が社会にどのように関わり、貢献しているのかについて考える。その上で、仕事についてテーマを決めて調べてまとめ、発表する。

◆メッセージ〈鈴木邦雄〉

「仕事の見返りは相手の方が走れた感動です。」

会社に勤めながら視覚障害者ランナーの伴走者としてボランティア活動を始めた鈴木邦雄氏の生き方に触れる。

「仕事の見返りは相手の方が走れた感動です。」という言葉の中にある仕事の本質的な意味や、人生における仕事の役割などについて考えさせたい。

◆この人のひと言

「人はどんな場合にいても　常に楽しい心をもって　その仕事をすることができれば　すなわちその人はまことの幸福な人といい得る。」

明治期に活躍した国木田独歩の短編小説『日の出』による。明海に身を投げようとする青年が、初日の出を見に来た老人の言葉ないか。」と青年に声を掛け、家に招き、雑煮を振る舞いながら、晩安らかに眠られる。」と諭す。青年は生まれ変わったように働き老人の息子に託す。「この人のひと言」は、里帰りし訪れた卒業生に、校長として働く老人の息子が語った言葉である。これに続けて「人は人以上の者になることはできない。しかし人は人の能力の全部を尽くすべき義務をもっている。この義務を尽くせば英雄である。」とも語っている。

4 社会に生きる一員として
(6) 家族の一員としての自覚を

P.180〜193
4−(6)

父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。

1 この内容項目のページの特徴

家族の一人一人が温かい信頼関係や愛情によって結ばれていることを自覚することは、より充実した家庭生活を築くことにもつながる。

一八一ページの文章や問い掛けを通して、家庭や家族についての考えを整理し、一八二ページでは、グラフを通して家族との語らいについて振り返るようになっている。また、一八三ページの文章では、家族を「命の長いつながり」と捉え、いずれ自分が築く家庭へと思いを馳(は)せることができる。さらに、コラム「誰かのために」では、家族の一員としての自覚、家族の絆(きずな)について考えることができる。

2 活用のポイント

自我意識が高まる中学生の時期では、家族に対して反抗的な態度をとることがあったり、家庭や家族から少し距離を置こうとする傾向が見られる。このような時期に家庭や家族について深く考える機会を設けることは大切なことである。

指導に当たっては、自分自身の家族のことや家庭生活のことを振り返るページを活用するなどして、自分と家族との関わりについて考え、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを理解させるようにする。

また、家族の一員としての自覚をもって積極的に協力できるような態度を養っていくことも大切である。

なお、様々な事情により多様な家庭環境があることを踏まえ、生徒一人一人の家庭環境について十分に配慮した指導が必要である。

3 活用場面例

■道徳の時間

本項目の書き込み欄に記入した生徒の思いを家庭で話し合ったり、家族に思いを書き込んでもらったことを、道徳の時間の学習に生かしたりするなどして家庭と連携した活用を図るようにしたい。

事例

①一八〇・一八一ページを読んで、家族や家庭について考えたことを一八一ページに記入する。

②読み物資料「一冊のノート」を読んで話し合う。

③一八四・一八五ページのコラム「誰かのために」を読み、余命三か月と診断された患者とその家族の生き方から家族についての考えを深める。例えば、「子供の卒業式まで生きたい。」という言葉や最後の力を振り絞ってお弁当を作る様子などから、無私の愛情をもって子供を育てようとする母親の姿について話し合うことができる。また、母親が作ってくれた最後のお弁当を食べた子供の気持ちについて話し合うことができる。

④家庭や家族について自分自身が感じたこと、考えたことを一八五ページの書き込み欄に記入して発表する。

■社会科（公民的分野）

内容「（１）私たちと現代社会」の「ア　私たちが生きる現代社会と文化」において、社会的存在としての人間、社会集団における家族の機能の指導に当たって、自分と家族との関わりを考え、家庭生活の在り方が人間としての生き方の基礎であることを理解させる際に本項目のページを活用する。

■技術・家庭科（家庭分野）

内容A「（１）自分の成長と家族」及び「（２）家庭と家族関係」の指導に当たって、自分の成長と家族や家庭生活との関わりについて考えるとともに、家庭や家族の基本的な機能、家庭生活と地域との関わり、家族関係をよりよくする方法を考える際にこの項目のページを活用する。

事例

①一八二ページのグラフなどを見て、自分と家族とのコミュニケーション（関わり合い）について、振り返る。また、その状況について、友達と意見交流する。

P.182〜183

②自分にとっての家庭、また、地域と家庭との関わりについて考え、話し合う。

③家庭生活をよりよくするための家族の関わりについて話し合う。

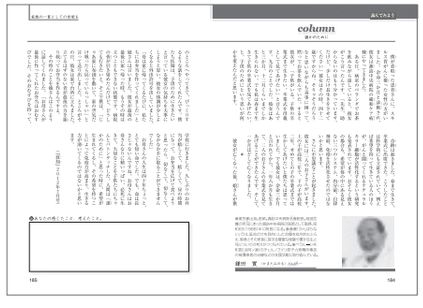
④一八三ページを読んで、将来、自分が築きたい家庭をイメージして、自分の考えをまとめ、友達と意見交流する。

◆コラム「誰かのために」

鎌田實氏が最期を看取(みと)った患者とその家族との関わりから、自分の成長を願い、無私の愛情をもって育ててくれた父母や祖父母に対して敬愛の念を深めることができる。

余命三か月と知りつつも子供の卒業を見届けたいという母親の姿、その思いをしっかりと受け止めている子供の姿を押さえたい。

生きる力が湧いてくるのはなぜなのかを考え、家族の深い絆について捉えられるようにしたい。



P.184〜185

読み物資料

一冊のノート

P.186〜193

4−(6)

1 資料の特性

人間は、過去からずっと受け継がれてきた命のつながりの中で生きている。家族とは、自分を育ててくれた祖父母や父母をはじめとする最も身近な共同体である。

本資料には、主人公である「僕」と同居している物忘れの多くなった祖母との間に生じたトラブルと、その奥にある祖母の思いが描かれている。

トラブルから祖母に不満を感じる「僕」だったが、ある日、一冊のノートを見付け、そこに書かれていた祖母の苦悩と、家族のことを思い続ける気持ちを知る。

その一冊のノートを読んで、いたたまれなくなった「僕」。その「僕」の思いを考えることを通して、家族を大切に思う気持ちを感じ、家族の一員としての自覚を深めることができるとともに、家族のかけがえのなさを再認識させてくれる感動的な資料である。

2 指導上の留意点

中学生の時期は、自我意識が強くなり、自分の判断や意志で生きていこうとする自立への意欲が高まってくる。そのため、父母や祖父母の言動に反抗的になるという面も見られる。また一方で、家族の一員として、役割を担うことで家庭の仕事の大変さや家族の有り難さが分かってくることもある。

本資料の活用に当たっては、家族との関わりを振り返らせながら、家族が相互に深い絆で結ばれていることを自覚し、家族に感謝することがより充実した家庭生活を築くことにつながることを生徒一人一人に深く考えさせたい。

なお、家族の姿も一様ではないので、様々な事情を抱えている生徒に対して十分な配慮が必要である。

3 展開例

【ねらい】

かけがえのない家族の存在に気付き、その一員として関わり合いながら、充実した家庭生活を築こうとする態度を育てる。

事例①

「僕」の思いを通して、家族の一員としての在り方を考える展開

【主な学習】

①薬局の前で祖母に出会ったとき、友達に気付かれないように知らん顔をして通り過ぎたのは、どのような気持ちからだろうか。
・変な格好をしている祖母の姿が恥ずかしい。
・自分の祖母だと周りに気付かれたくない。

②父の話を聞いたとき、何も言えなくなったのはどうしてだろうか。
・現在の医学では治せない病気なのだから、これ以上言っても仕方がないと思ったから。
・幼い頃から祖母に身の回りの世話をしてもらうなど、何かと祖母に頼っている自分に気付いたから。

・自分が責めたときの、祖母の寂しそうな姿を思い出したから。

③黙って祖母と並んで草取りを始めたのは、どのような気持ちからだろうか。
・祖母が一番苦しんでいることを知り、いたたまれない気持ち。ひどいことを言って、ごめんなさい。
・こんなにも大切に思ってくれていることへの感謝と、祖母を責めたことへの後悔の気持ち。
・これからは祖母を大切にしたいという気持ち。今度は自分が祖母を支える番だ。

④家族の一員であるとは、どのようなことだろうか。

事例②

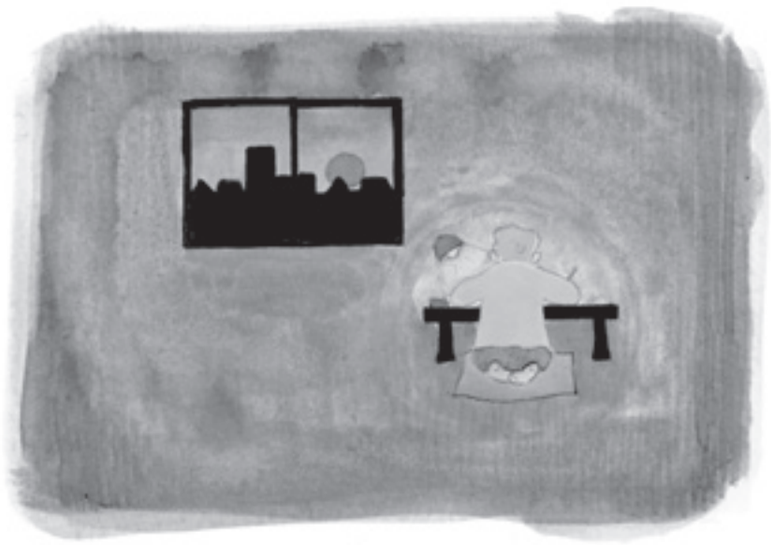
祖母の思いを通して、家族の一員としての在り方を考える展開

【主な学習】

①「誰だって年を取ればしわもできれば白髪頭にもなってしまうものよ。」と言った祖母の気持ちは、どのようなものだっただろうか。
・年を取ってしまったことの自覚とともに寂しさを感じている。
・自分はきちんとしているつもりなのに、孫から厳しい口調で問い詰められ、悲しい気持ち。

②「あと十年、いや、せめてあと五年、何とか孫たちの面倒を見なければ。」と書いた一冊のノートには、祖母のどのような思いが込められているのだろうか。
・自分の孫たちに迷惑をかけているのだろうか、何とか孫たちのために自分ができることをしてあげたい。
それが自分の生きがいだ。
・二人とも大人になるまで、それが無理なら高校生になるまで孫たちのために頑張りたい。

③この資料を読んで、感じたことや考えたことは、どのようなことか。



4 社会に生きる一員として
(7) 学校や仲間に誇りをもつ

P.194〜199
4−(7)

学級や学校の一員としての自覚をもち、教師や学校の人々に敬愛の念を深め、協力してよりよい校風を樹立する。

1 この内容項目のページの特徴

生徒にとって学校で過ごす時間は、日々の大半であり、学級や学校は重要な生活の場となっている。そこで多くの友と出会い、様々な貴重な経験を積み、人間としての成長を遂げていく。しかしながら、中学生にとって、自分の学級や学校への関心や、よりよい学級や学校づくりへの意欲は必ずしも十分とは言えない。そこで、本内容項目のページを活用して学級や学校に対する生徒の関心を高め、学校との関わりについて見つめ直す機会としたい。

一九九ページの合唱曲「旅立ちの日に」は、一九八ページのコラムにあるように、全国の多くの中学校の卒業式で愛唱される歌である。この歌を通じ、仲間との思い出を胸に、これからの人生を切り拓(ひら)いていこうという希望をもつことの大切さや、学校生活は教師と生徒、生徒同士の深い信頼関係で成り立っていることなどに気付くことができる。これらのページを活用して、学校の一員としての自覚を深め、よりよい校風の樹立と発展に努める態度を養いたい。

2 活用のポイント

学校には長年にわたって先輩たちが築いてきた独自の校風があり、それを後輩たちが継承し、協力し合ってよりよい校風へと発展させてきた。中学生にとって、学級や学校に対して愛着や誇りをもつことは大切なことであり、本内容項目のページを活用して、学校の伝統やよさを見つめ、仲間と力を合わせて、自分たちの学校をよりよくしていこうとする態度を育てたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

コラム「旅立ちの日に」は、道徳の時間の補助的な資料として活用することができる。それぞれの学校には、学び舎(や)で出会うかけがえのない人々との関わりがあり、共に培ってきた伝統や校風がある。自分たちの学校を改めて見つめ、そのよさを後輩へ伝えていきたいという思いを高めていくようにしたい。

事例

①コラム「旅立ちの日に」を読み、楽曲誕生の背景を知る。
②合唱曲「旅立ちの日に」の歌詞を読み、楽曲を聴く。この楽曲に込められた願いや思いを考え、一九九ページに、感じたことや考えたことを書いて発表する。
③卒業生または在校生の先輩から、自分たちの学校の伝統や校風についての話を聞く。（ビデオレター形式でもよい。）
④後輩に伝えていきたい自分たちの学校の伝統や校風について話し合う。

■音楽科

一九九ページの合唱曲「旅立ちの日に」の歌詞の内容や曲想から感じ取ったことと、音楽的な特徴とを関わらせながら表現を工夫し、仲間への思いや学校への愛着を感じて歌う。

事例

①歌詞の内容や曲想を味わう。
②曲にふさわしい表現を工夫し歌う。
③全員で合唱をつくっていく体験を通して、表現したいイメージを伝え合う。

■特別活動（生徒会活動）

一九六ページの「後輩に伝えたいこと」を活用し、卒業を前に後輩に伝えたいメッセージについて話し合う。そのメッセージを全校集会で伝え、生徒同士の人間関係を深めて、先輩の思いを受け継ぎ伝統を守っていこうとする意欲を高める。

また、一九七ページの「学校を良くするために」を活用し、意見を集め、それを生徒会通信等で発信するなどして、自分たちの学校をよりよくするために取り組んでみたいことをまとめていくようにする。

■家庭や地域との連携

一九五ページの「自分と学校との関わり」を活用し、家庭や地域の人と校風について語り合う。

家庭や地域の人と共に、学校の歴史や伝統に触れる機会を増やすことで、伝統を受け継ぎ、よりよい校風を築いていこうとする態度を養うとともに、家庭や地域で自分たちを支えて見守り、励ましてくれる人々への感謝の思いを育む。

◆コラム「旅立ちの日に」

合唱曲「旅立ちの日に」の歌詞には、様々な願いが込められている。

歌詞を何度も繰り返し読むことで、その心情が伝わってくる。

中学校を巣立っても、共に過ごした日々の思い出が、いつまでも生徒たちの心のより所として、心の中に生き続けている。この歌詞をかみしめることで、学校というものを改めて見つめて、生徒たちの学校に対する愛着を深め、これからの関わりに生かしていく。

コラム「旅立ちの日に」の活用に当たっては、まず合唱曲「旅立ちの日に」が誕生した背景を知る。

そして、この歌には教師のどのような思いが込められているか、生徒たちはどのような思いでこの歌を歌っていたのかなど、様々なことを考えながら歌詞を読んでいきたい。

さらに、自分たちの学校を見つめ、学校の一員としての自覚を深めていきたい。また、教師や学校の人々への感謝や尊敬の気持ちも育んでいきたい。

4 社会に生きる一員として
(8) ふるさとの発展のために

P.200〜205

4−(8)

地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努める。

1 この内容項目のページの特徴

中学生にとっては日々を暮らすその地域は、大切な生活の場であり、郷土である。本内容項目は、地域に目を向け、郷土を愛し、その発展に寄与しようとする態度を育むものである。本内容項目のページを活用することによって、地域社会に対して様々な視点から思いを深め、郷土を愛し、その発展に努める態度を養っていきたい。

二〇三ページでは、ふるさとの発展に貢献する具体的な事例を通して、また、二〇五ページの「メッセージ」では、様々な人のふるさとに対する思いに触れながら、郷土に対する認識を深めていくようにしたい。

2 活用のポイント

中学生の時期は、自分が自分だけで存在していると考えがちであるが、そのような中で家族や社会に尽くした先人や高齢者によって自分が支えられて生きていることを自覚し、それらの人々への尊敬と感謝の気持ちを深めることは極めて大切なことである。

指導に当たっては、本内容項目のページを活用し、地域のよさや人々の関わりなどについて考えさせ、郷土に対する認識を深めていく。その上で、自分にできるふるさとへの貢献の方法を考えさせるなど、郷土の発展に努める自発的な態度を養いたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

「人物探訪」や「メッセージ」を活用し、地域の発展に尽くした先人の思いや、自分とふるさとの関わりについて考える。

事例

①二〇〇から二〇二ページを読み、ふるさとへの思いについて話し合う。

②読み物資料を読んで話し合う。

③二〇四・二〇五ページの「人物探訪」や「メッセージ」を読んで、濱口梧陵や多くの人々の言葉に込められた思いについて話し合う。

④二〇三ページを活用し、地域の課題を話し合い、ふるさとの発展のために自分たちにできることについて考えをまとめる。

■音楽科

B鑑賞「(1)ウ　我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。」(第一学年)、「(1)ウ　我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。」(第二学年及び第三学年)の指導に当たって、本項目のページを活用する。

事例

①我が国や郷土の伝統音楽と諸外国の様々な音楽を比較して聴き、感じ取ったことを発表したり、その共通点や相違点、あるいはその音楽だけに見られる固有性について話し合ったりする。

②保存会など地域の人々による郷土の伝統音楽の演奏を聴く機会をつくり、生徒が感じ取ったよさを伝えたり地域の人々の思いを聞いたりする。

③二〇〇・二〇一ページを読み、郷土の伝統音楽がその地域の人々の暮らしと共にあることに着目しながら、その音楽のよさや魅力について自分なりの考えを発表し合い、味わって聴く。

■総合的な学習の時間

地域の課題を解決し、地域の活性化に取り組む学習活動などでは、二〇三ページを活用することができる。また、地域の安心・安全のための防災などについて探究的に学習を行う場合には、二〇四ページの「人物探訪」を活用することができる。

■特別活動(生徒会活動)・家庭や地域との連携

ふるさとのよさなどについて、二〇一ページに書き込み、郷土に関する様々な思いや気付きを発表し合う。様々な考えを知ることによって、郷土への思いを深め、地域社会の一員としての自覚を深めることができる。

事例

①二〇〇から二〇五ページの文章を通し、地域のよさや自慢、課題やその解決策などを記入し、発表し合う。

②①で記入したことを基に、近隣の中学校の生徒会代表が集まり、郷土についての意見交流を行い、地域の活性化や、郷土の発展のための取組について話し合う。

③生徒会代表で話し合ったことを基に、家庭や地域の人と共に郷土発展のための企画を構想し、実践化を図る。

◆人物探訪〈濱口梧陵〉

「住民百世の安堵(あんど)を図る」

「稲むらの火」の逸話として、今でも多くの人に語り継がれている濱口梧陵の生き方に触れ、郷土に尽くした先人や高齢者への尊敬と感謝の気持ちを育む。

梧陵が、莫大な私財を投じて、大地震による津波の壊滅的な被害からの復興を支え、人々の暮らしの安定を計り、郷土の発展に尽くした動機について話し合う。

「住民百世の安堵を図る」という言葉に込められた梧陵の思いから、人と郷土との関わりについて考えを深めさせたい。

◆メッセージ

二〇五ページに掲載されているのは、平成十年度当時、福井県丸岡町(現・坂井市)で募集されていた「ふるさとへの想い」の応募作品である。

ふるさとへの素直な思いを味わうことで、郷土に対する愛着を深めていくことができる。

4 社会に生きる一員として
(9) 国を愛し、伝統の継承と文化の創造を

P.206〜211
4−(9)

日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。

1 この内容項目のページの特徴

国の発展に寄与する気持ちを高め、伝統の継承と文化の創造に貢献しようとする態度を養う内容項目である。

二〇六・二〇七ページでは日本の伝統や文化について、また日本らしさについて考えることのできる内容が掲載されている。さらに、二〇八・二〇九ページは、伝統や文化の継承者としての自覚を深める内容になっている。

本内容項目のページを活用しながら、我が国について広い視野から認識を深めるとともに、我が国固有の優れた伝統と文化などについて理解を深め、その価値を継承し、新たな文化を創造していこうとする態度を養いたい。

2 活用のポイント

中学生の時期になると、日本の風土や歴史に対する理解が深まり、伝統と文化に対しても一層関心をもつようになる。この関心を高め、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献しようとする態度を育成するようにしたい。

指導に当たっては、排他的なものの見方や考え方に陥ることのないよう配慮し、我が国の伝統と文化を誇りをもって世界や後世に伝えようとする意欲をもち、国際社会の一員として世界の平和と安定に寄与していこうとする思いを育てていきたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

本項目のページを活用して、広い視野から日本についての認識を深め、優れた伝統と文化について知り、その価値を受け継いで新たな文化を創造しようとする態度を養う。

事例

①二〇七ページを活用し、日本の伝統と文化、その特徴について考え、日本に対する意識を確認する。
②日本の伝統と文化の継承に関わっている人（ゲストティーチャー）から、日本の伝統と文化の特徴や、その継承に努める思いを聞く。
③ゲストティーチャーから聞いた話を基に、二〇八ページを活用して、自分が紹介したい日本の文化をグループで話し合う。

■社会科（歴史的分野）

飛鳥（あすか）文化の学習の際に、二一〇ページの「人物探訪」を読むことで、およそ一四〇〇年前の伝統と文化を現在にまで受け継いできた人々の思いと生き方に触れることができる。

世界最古の木造建築である法隆寺は世界遺産となっている。法隆寺を支えてきた棟梁（とうりょう）たちの思いや生き方、そして、現在もなおその思いを守り受け継ぐ人がいることを知り、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めることができる。

■数学科

二〇七ページの「算額」を活用し、数学に対する関心を高めることができる。「算額」を絵馬として奉納する習慣は、日本独特の文化であることを紹介したり、図形の学習の発展的な学習として、「算額」におさめられている問題に挑戦したりすることも考えられる。身近な地域の「算額」を紹介し、先人の築いた優れた文化を知ることもできる。

■美術科

鑑賞の学習において、身近な地域や日本及び諸外国の美術の文化遺産などを鑑賞し、二〇七ページの文章や問いを活用して、そのよさや美しさ、受け継がれてきた独自の美意識や創造の精神などを感じ取る。各学年に応じて、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、美術文化やそれらの継承と創造への関心を高めることができる。

◆人物探訪〈西岡常一〉

「木を生かすには、自然を生かさねばならず、自然を生かすには自然の中で生きようとする人間の心がなくてはならない。」

飛鳥時代から受け継がれてきた寺院建築の技術を後世に伝え、「最後の宮大工」と呼ばれた棟梁西岡常一は、祖父も父もまた法隆寺の宮大工棟梁であった。祖父の勧めで農業学校で三年間農業を学び、檜（ひのき）の原木の見分け方や地質調査といった知識・技術的なことと同時に生命の尊さや自然の偉大さを学んだ。

一三〇〇年の技を途絶えることなく伝承してきた西岡の姿勢や思いを知ることによって、優れた文化に誇りを持ち、伝統の継承と新しい文化の創造に対する意欲を高めることができる。

◆この人のひと言

「われわれの歴史の中にわれわれの未来の秘密がかくされている。」

岡倉天心のこの言葉は著書『東洋の理想』に収められている。岡倉は西洋文化の波が急速に押し寄せて来た明治時代に、日本の伝統美術のすばらしさに目を向け、近代日本美術の発展に力を注いだ。また、英文で『茶の本』を出版し、日本の文化を欧米に紹介するなど、国際的な視野に立って活動した。英文で出版された『茶の本』は今ではスウェーデン語、ドイツ語、フランス語、スペイン語などをはじめ各国の言語に翻訳されている。

この言葉をきっかけに、日本の国土や歴史に対する理解を一層深めるとともに、伝統や文化に対する関心を高め、日本人としての自覚と誇りをもとうとする態度を育成することにつなげたい。

4 社会に生きる一員として
(10) 日本人の自覚をもち世界に貢献する

P.214〜225
4−(10)

世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。

1 この内容項目のページの特徴

国際化が進展する中で、国際的視野に立ち、世界の中の日本人としての自覚をもつことが必要となっている。本内容項目のページでは、真の国際人として生きるとはどういうことかを具体的に考えさせるとともに、二一八ページの嘉納治五郎の「人物探訪」や、二一九ページの緒方貞子氏の「メッセージ」を活用して、自分の生き方を振り返りながら国際社会に貢献しようとする積極的な生き方について考えさせる構成となっている。

2 活用のポイント

中学生の時期は、国際的な出来事への興味や関心が高まるとともに、世界の国々の人々と様々な形で関わる機会も増えていく。今後、ますます国際的な関係を深めていく社会の中で生きていく中学生にとって、今の段階で国際的な視野と国際社会で生きることの大切さを自覚することは重要なことである。

本内容項目のページを活用し、国際社会に生きる一員として日本人としての自覚をもつことの大切さを理解させ、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする態度を育むようにしたい。

3 活用場面例

■道徳の時間

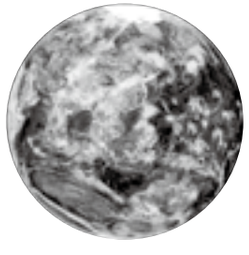
世界の国々にはそれぞれ独自の伝統と文化があり、それぞれに誇りをもっていることを踏まえ、多様な文化に対する理解と尊敬の念を育む。また、「世界の平和と人類の幸福のために、日本人として、私たちにできること」について、二一七ページの書き込み欄を活用して考えることもできる。

事例

①二一四ページを読んで、世界の中の日本人として、自分は何を考えていけばよいのか、また、何ができるのかなどについて考える。

②読み物資料「海と空 ―樫野（かしの）の人々―」を読んで話し合う。

③「世界の平和と人類の幸福のために、日本人として、私たちにできること」について、二一七ページの書き込み欄に記入して話し合う。その際に、二一九ページの緒方貞子氏の「メッセージ」を活用し、国際貢献について考えを深めることもできる。



■総合的な学習の時間

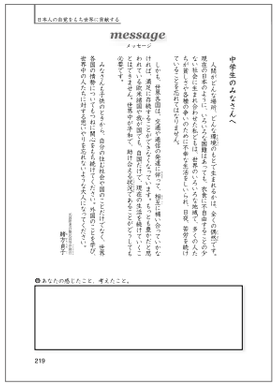
国際理解などの横断的・総合的な課題についての学習活動において、二一二・二一三ページや二一五ページを活用することができる。

国際社会においてどのような貢献が求められているかを考え、そのための行動について探究的に学習していくことが考えられる。

◆メッセージ〈中学生のみなさんへ〉

緒方貞子氏は、一九九一年から十年間、国際連合難民高等弁務官を務め、世界の難民問題解決に貢献した国際政治学者である。

「日本は、国際的な貢献、国際的な関与を心掛けて五十年の戦後を歩んできたと思います。国際社会に対する積極的な開放、承認そしてまた協力の姿勢を、難民のことを考える上でも、ぜひ今後の日本の課題としていただきたいと思います。」という記念講演の言葉がある。緒方氏は日本人で初めてユネスコ平和賞を受賞した。



P.219

◆人物探訪〈嘉納治五郎〉

「オリンピックを真に世界の文化にせねばならない」

真の国際人として求められる生き方という視点から嘉納治五郎の生き方に触れ、「オリンピック精神と、自らが説く武道的精神の融合によって、オリンピックを真に世界の文化にしたいという強い思い」について具体的に考えさせることが大切である。

嘉納が多くの流派に分かれていた柔術から「柔道」を編み出したこと、講道館を設立したこと、柔道を世界のスポーツにする基盤を作ったことなどを知ることができる。また、嘉納が「柔道」に求めたものは何か、真の国際人に求められるものは何かなどについて考え、その生き方に迫るようにしたい。

嘉納が「精力善用・自他共栄」の精神を、西洋のスポーツ文化に紹介することが世界平和につながると信じていたことを取り上げることもできる。

また、保健体育科（体育分野）における柔道の学習の導入として、このページを活用することもできる。

P.218

読み物資料

海と空 ―樫野の人々―

P.220〜225

4―(10)

1 資料の特性

国際化の進展の中で、真の国際人として、どの国の人々も同じ人間として尊重し合い、公正、公平に接する生き方が求められている。そのためには、日本人としての自覚をしっかりともち、その上で国際的視野を広げていくことが大切である。

本資料は、一九八五年のイラン・イラク戦争の渦中、テヘランからの脱出の手段を失っていた邦人たちが、トルコ政府から提供された「救いの翼」によって無事に帰国できたという実話に基づき構成されている。

脱出の当事者である主人公は、帰国後、トルコ政府の厚意の背景に、一八九〇年のトルコ船籍エルトゥールル号遭難の際の和歌山県串本の人々の献身的行為があったことを知り、百年の時を経てもなお、その恩恵に報いようとしたトルコの人々の温情に胸を打たれる。このことから、国と国との関わり、ひいては国際的規模の相互扶助の在り方に思いを馳せることができる。

世界の平和と人類の幸福に貢献することが大切であることを感じ、真の国際人としての生き方を考えさせることのできる資料である。

2 指導上の留意点

中学生になると、教科の学習などを通して国際的な問題についての関心が高まる。同時に、情報社会の中で、諸外国の出来事についても多くの知識を得るようになる。

一方で、目の前にある情報だけにとらわれて物事を判断する傾向もあり、その背景にある事情までは、なかなか考えが及ばないこともある。

平成二十三年の東日本大震災の際、日本は多くの国々から支援を受け、国際的な相互扶助の関係を一層深めた。中学生にとって、国際的な視野と国際社会で生きる力を身に付けることは、これからの社会を生きていく上で、これまで以上に大切なことである。そうしたことを踏まえ、世界の平和と人類の幸福に貢献する真の国際人の姿を考えていくようにしたい。

3 展開例

【ねらい】

世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、同じ人間として尊重し合おうとする意欲を育てる。

事例①

国際的視野に立って、他の国の人々と尊重し合うことについて考える展開

【主な学習】

①遭難したエルトゥールル号に乗っていたトルコの人たちを助けた樫野の人々は、どのような思いでそうしたのか。
・困っている時に助けるのは当たり前。
・人の命に国の違いはない。同じ人間だ。
②海と空が水平線で一つになるのを見つめながら、「私」はどのようなことを思っていたのだろうか。
・私の命は樫野の人々によって今ここにあるのだなあ。
・二つの救出は、何の見返りも期待せずに、危険に陥った人々を助けようとする人間愛そのものだ。
・同じ人間として互いに尊重し合う心をもつことが、世界平和のために大切なことだ。
③国際社会の一員として、世界との関わりの中で、自分たちにできることやしてみたいと思うことについて話し合う。

事例②

国際的規模の相互扶助のために大切なことについて考える展開

【主な学習】

①どのような思いから、「私」は、エルトゥールル号遭難の顛末を知らなければならないと思ったのか。
・トルコの人が親日的になった理由である樫野の人々の話とは何なのか。そこに樫野の人々のどのような思いがあったのかを知りたいと思った。
・国と国との関わりにも影響するほどの出来事は何なのか。それを知らなければこの疑問は消えないという思い。
②「長年の疑問が氷解していく」という「私」の言葉には、どのような思いが込められているだろうか。
・樫野の人々の国を越えた救助が、今も親日感情としてトルコの人たちの心に生きていることが分かった。
・自国の国民よりも優先して、日本人を救助したトルコの人たちの心が理解できた。
・私たちは国際的規模の相互扶助によって助けられている。国の別なく、互いに助け合ってこそ世界の平和や人類の幸福が築かれていくものなのだ。
③国際的規模の相互扶助のために大切なこととは何か。
・国の別なく困っている状況を助けようとする気持ちと行動が大切。
・東日本大震災のときのように、国を越えて助け合おうとすることが大切。その思いは、国の別なく人として大切なこと。

四の視点　重点ページ

日本人としての自覚をもって真の国際人として世界に貢献したい

1 このページの特徴

四の視点に関わる重点化「国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすること」に関するページである。

日本の伝統と文化について理解を深めるとともに、国際社会の中で貢献している日本人の姿を通して、国際人としての在り方を考えさせたい。

2 活用事例

■道徳の時間

写真から、我が国の優れた伝統文化や科学技術が海外からも評価されていること、世界に貢献し、活躍している日本人が多くいることに気付くことができる。また、それぞれの写真の事柄について調べるなど発展的な学習も可能である。

P.212〜213

情報モラル

考えよう 情報社会の光と影

P.226〜229

1 このページの特徴

情報通信技術の飛躍的な発達は、私たちの生活に計り知れない恩恵を与えてくれた。しかし、その一方で、インターネット上での誹謗中傷やいじめ、インターネットを介した犯罪や違法・有害情報の問題等が発生している。現代社会を生きる者として、情報社会の光と影の部分を適切に理解していないと、様々な問題に巻き込まれることも考えられる。このページを通して、個人情報の保護、著作権等に対する対応、危険回避などネットワーク上のルール、マナーなど、情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育成し、適切な判断と行動がとれるよう自覚を促す。

二二六ページは情報社会の光の部分を確認する構成で、二二七から二二九ページまでは影の部分であり、情報化の影の部分がもたらす様々な問題について文章やグラフから考えることができる。

2 活用のポイント

電子メール、各種ＳＮＳ（ソーシャルネットワーキングサービス）やゲーム等の利用が可能なパソコンや携帯電話の中学生の所有率は、年々高まっており、このページで例示された様々な問題に巻き込まれる可能性があることを理解させる必要がある。インターネット上での誹謗や中傷、メールやＳＮＳを介したいじめや嫌がらせは、道徳的な判断によって回避することもできる。情報モラルに関しては、節度、自律性、思いやりや礼儀、友人関係の問題、法やきまりの遵守など、様々な道徳の内容項目との関連を意識した指導を行う必要がある。

3 活用場面例

■道徳の時間

操作技術に関わってインターネット等を適切に利用できるようにすることがねらいではなく、道徳の問題として扱うことが肝要である。

事例

①インターネットに関しての困ったことやトラブルがなかったか考える。

②読み物資料「言葉の向こうに」を読んで、次のことについて考える。

○反論する「私」の言葉がエスカレートするのはなぜか。

○画面から目を離して椅子の背にもたれた「私」は、どのようなことを考えていただろうか。

③二二六ページを活用し、インターネットを利用したコミュニケーションの際に、どのような点に留意すればよいかを考え、意見交流する。

■特別活動（学級活動）

事例①では、学級活動の内容「（２）オ　望ましい人間関係の確立」に関する指導に当たって、情報モラルに留意しつつ、本ページを活用することができる。電子メールやＳＮＳを介したいじめが増加傾向にあることを紹介しながら、インターネット等を利用するときの道徳的な判断の必要性について考え、適切な利用の仕方を学ぶ。

また事例②では、学級活動の内容「（２）キ　心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成」に関する指導に当たって、情報モラルに留意しつつ、本ページを活用して、インターネット等の過剰な利用によって懸念される問題を考えることができる。社会や環境における情報技術の役割、トラブルに遭遇したときの主体的な解決方法、基礎的な情報やセキュリティ対策、健康を害するような行動について考え、理解させるようにする。指導に当たっては、二二六・二二七ページとともに、十二・十三ページの「自分で生活をコントロールする」を活用することもできる。

P.226〜227

事例①

①インターネットに関しての困ったことやトラブルがなかったか考える。

②二二八ページの「分身キャラが欲しかった」の部分を取り上げ、このようなことがなぜ起きるのか考える。

③二二九ページの「『ネット上のいじめ』の被害経験と加害行動経験」のグラフを見て、自分たちの生活の中に潜む問題として捉え、なぜ起こるのか話し合う。

④このようなことが起こらないようにするための方法を考える。

⑤七十四・七十五ページの内容と関連付けて、異なる意見を尊重しつつ、自分も成長していくにはどうすればよいか考える。

⑥ネット上のいじめが起こらないようにするために、どのようなことに気を付ければよいか、学習したことを基に、自分が心掛けてみようと思うことを決め、実践に生かすようにする。

事例②

①パソコンや携帯電話、インターネット等の利点を挙げ、一方で自分が気を付けなければいけないと思っていることについて意見を出し合う。

②二二六・二二七ページを通して、情報化が果たしている役割や及ぼしている影響について考える。

③二二七ページの懸念される問題について、自分たちがそれらに陥らないために心掛けたいことを話し合う。

④十二・十三ページを活用して自分の生活習慣を見直す。

⑤自分の生活習慣について、パソコンや携帯電話等の使い方も含め、気を付けたいことを自分で決めて、実践に生かすようにする。

■技術・家庭科（技術分野）

情報通信ネットワークの仕組みを学んだ上で、著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考える際にこのページを活用することができる。

指導に当たっては、情報に関する技術の利用場面に応じて適切に評価し、活用することができるようにしたい。

事例

①インターネットなどの情報通信ネットワークの仕組みについて理解する。

②ネットワーク上でのコミュニケーションの特徴を考える。ネットワーク上で、個人を特定するためには、どのようなものが使われているかを確認する。ブログ等を利用したネットワーク上でのコミュニケーションの際に、その特性（匿名性等）からどのような問題が起こる可能性があるか、また、それを防ぐためにはどのように行動すればよいかを実際の書き込み例などを基に話し合う。

・四人一組のグループでロールプレーを行う。特に新たに不特定の人が参加した場合、どのような書き込みになるのかを経験してみる。

・どうして不適切な書き込みが行われてしまうのか、それを防ぐためにはどのようにすればよいかについて、ネットワーク上でのコミュニケーションの特性を踏まえて話し合う。

③二二六・二二七ページを活用し、情報社会の光と影について考える。

・インターネットを利用する際のルールやマナーを確かめ、情報社会での自分の責任や義務について考える。

・電子メールやＳＮＳ等を利用したコミュニケーションの取り方と、直接会話する場合との違いについて考える。

・自分の言葉が他者に与える影響を考え、相手の立場を尊重し他者を思いやって、その場にふさわしい言葉を使おうとする意識をもつようにする。

・インターネットなどを過剰に利用すると、生活リズムが乱れ調和のとれた生活が送れなくなる場合があることにも気付くようにする。

■関連項目について

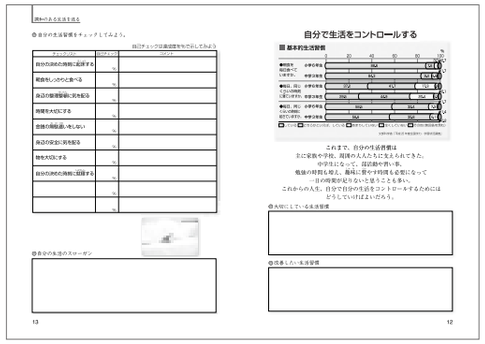
技術・家庭科の技術分野において、情報モラルについての指導を行うことができる。

その際、情報モラルを単なる情報通信技術として捉えるだけでは、道徳的な視点からの思考を深めることができない。

指導に当たっては、関わりの深い道徳の内容項目との関連を考えて、道徳的な視点から情報モラルについて考えることが大切である。関連の深い項目については、情報モラルがコミュニケーションに関わるものであることから、例えば、特に相手の立場に立って考えたり、礼儀をわきまえたり、思いやりをもって対応したりすることなどが挙げられる。

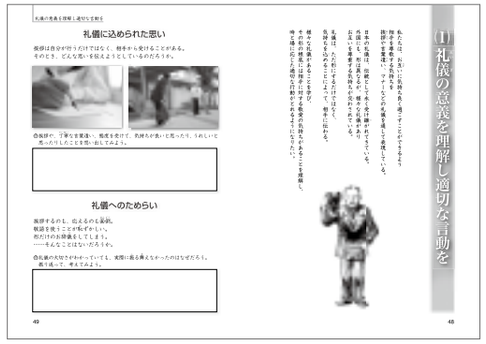
また、インターネット等の過剰な利用による生活リズムの乱れに関連しては、節度を守り節制に心掛けることと関連する。

さらには、法やきまりを守ることなど、遵法の精神との関わりも深い。



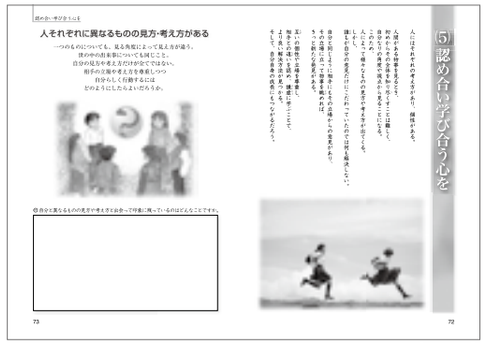
P.12～13

●「調和のある生活を送る」
インターネット等の過剰な利用による生活リズムの乱れは、中学生の時期の心身の発達に重大な支障をきたすことがある。自らの生活習慣を振り返る際に13ページの表に、例えば、「インターネット等の利用時間を守る」を追加して、各自の生活習慣を確認してみる。



P.48～49

●「礼儀の意義を理解し適切な言動を」
例えば離れた相手との電子メールでのやり取りでは、一方的な言い方や、失礼な発言で相手を傷付けてしまうことがある。電子メールのやり取りでは、相手の立場や思いを考慮し、礼儀をわきまえた適切な表現を用いることが大切である。



P.72～73

●「認め合い学び合う心を」
人にはそれぞれに異なったものの見方や考え方がある。ネットワーク上のコミュニケーションにおいても、それを尊重することは極めて重要である。

P.134～135

●「法やきまりを守り社会で共に生きる」
情報通信に関する法規は様々にあり、表現の自由という権利とともに、守らなければならないきまりがある。情報通信に関連した法律や条例等を参考にしながら遵法精神を養うことも大切である。

いじめの問題への対応

あなたの身近に いじめはありますか

P.230〜237

1 このページの特徴

政府の教育再生実行会議は、平成二十五年二月の第一次提言において、いじめの問題等への対応をまとめた。その中で、いじめの問題が深刻な事態にある今こそ、制度の改革だけでなく、本質的な問題解決に向かって歩み出すことが必要であり、心と体の調和の取れた人間の育成の観点から、道徳教育の重要性を改めて認識し、その抜本的な充実を図るとともに、新たな枠組みによって教科化することが提言された。

いじめは、「どの子供にも、どの学校でも起こり得る」ものであるが、決して許されないことである。「いじめは人間として絶対に許されない」という意識を一人一人の生徒に徹底させなければならない。いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめる行為と同様に許されないという認識、また、いじめが起こっている場合にそれを大人に伝えるなど適切な行動を起こすことが重要であるという認識を、生徒にもたせることが必要である。

「私たちの道徳」では、本特設ページでいじめを取り上げている。「卒業文集最後の二行」は、いじめの加害者が、自らの行為を悔い苦しむ様子から、いじめの悲惨さ、醜さを改めて認識させられる。二三六・二三七ページの読後感想では、それぞれの複雑な思いが綴られているが、これらを通してもいじめは決して許さないという意識や態度を養うことができる。

2 活用のポイント

いじめの問題には、道徳の様々な内容項目が複合的に絡み合っている。

このことを踏まえ、本特設ページは、特定の内容項目についてではなく、いじめの問題というテーマに真正面から向き合うための総合的な視点から作成されている。

3 活用場面例

■道徳の時間

いじめはいけないことだと頭の中では分かっていても、また自分の身近にいじめではないかと思われる行為があったとしても、深く考えることがなかったり、どのように対応すればよいか判断ができないといった場合もあり、そういった態度がいじめの解決を妨げてしまうこともある。

いじめの問題については、いじめを受けている人、いじめをしている人だけの問題ではなく、周囲の人も含め、生徒一人一人が自分の内面と真摯に向き合い、その本質的な解決を図る心を育てたい。導入の段階で、二三〇ページの「あなたの身近に いじめはありますか」を活用して、いじめの問題と自分自身との生活を重ね合わせて考えるようにしたい。

■特別活動（学級活動）

よりよい人間関係を築くためには、正しいことは正しい、悪いことは悪いと言える学級の雰囲気を築くことが重要である。生徒一人一人が、正義を重んじ、公正、公平な学級をつくろうと強く意識することが重要である。

事例

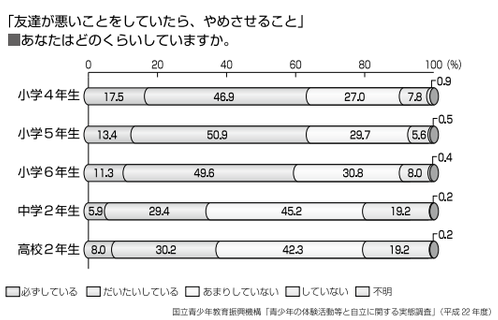
学級活動の内容「（２）オ　望ましい人間関係の確立」の指導に当たって、二三〇ページを活用していじめの問題を取り上げ、人間関係の希薄さや、他を思いやることのできない心の弱さがいじめの問題の一つの要因になっていることを捉えた上で、人間関係を構築する力や正義感などを育むようにしていく。また、学級の実態を振り返る場面で、生徒自身の考え方や行動について考える際に、一六二ページの「正義感」のグラフを活用する。

①二三〇ページの「あなたの身近に いじめはありますか」を読んで、いじめの問題が起こる要因を考え、話し合う。

②一六二ページの「正義感」と同様の質問を学級で事前に調査し、これまでの自分自身の考え方、行動を振り返って、書き込み欄に記入する。

③よりよい人間関係を築くため、一人一人の意識を変えるためにはどうすればよいかを話し合う。

④正義を重んじる学級のスローガンを考える。



国立青少年教育振興機構「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」（平成 22 年度）

■特別活動（生徒会活動）

いじめの防止や解決のために一人一人に何ができるかを生徒会役員会で話し合い、よりよい学校生活づくりのために、いじめの問題に学校全体で取り組んでいこうとする際に、本特設ページ等を用いることができる。いじめの問題の本質に迫り、問題を解決していくようにしたい。

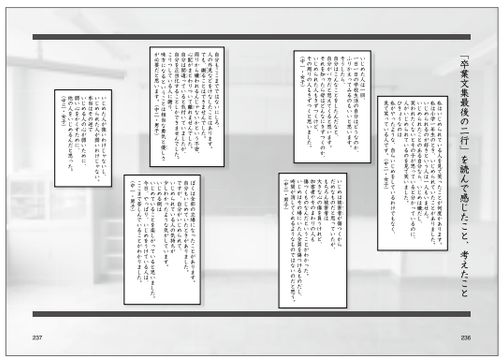
事例

①いじめとは何かについて、考えを交流し合う。

②「卒業文集最後の二行」を読んで感じたこと、考えたことを話し合う。その際、二三六・二三七ページの六つの意見について、自分が共感したり、反対の意見をもったり、考えさせられたりしたことを話合いに生かす。

③自分たちの学校における課題を話し合う。いじめの防止や解決のためには具体的にどのようなことが必要かを考える。

④話し合ったことを、例えば、一六五ページの「いじめ撲滅宣言」のような宣言としてまとめ、学校全体で共有し、実践に向けて取り組んでいくようにする。



P.236〜237

いじめの問題への対応

卒業文集最後の二行

P.231〜237

1 このページの特徴

いじめの悲惨さ、むごさ、愚かさが、読む者に如実に伝わる資料である。「あまりに切なく、つらく、悲しすぎる」被害者の心情を思いやり、筆者は自らの罪業に、苦しみ続ける。

この筆者は「卒業文集」によって相手の心情を知ることとなったが、多くの場合、いじめた側は、自戒の念を起こすこともなく人生を送っていくことになるだろう。「いじめられる身になって」と言われることがあるが、いじめられる側の立場に立って考えてみることがいじめの撲滅のために必要な気付きではないかということを本資料によって考えることができる。

2 活用のポイント

中学生の時期に人間としての生き方を踏まえ、自己を見つめ、向上を図るなど自己の生き方に関する思考を深めることは重要なことである。中学生になると、友達同士の会話や行動などから学級の中の違和感に気付くこともあるが、いじめを認識しながら「見て見ぬふりをする」、いわゆる傍観者になっている生徒もいるかもしれない。

いじめをはやし立てたり、傍観したりする行為もいじめる行為と同様に許されないということを生徒一人一人に自覚させたい。

3 活用場面例

内容項目としては3―（3）と4―（3）が深く関わっているが、自律、他者の立場に立ったものの考え方、思いやり、差別や偏見をなくす努力など、様々な道徳的観点から考えることができる。生徒が様々な思いや考え方を述べ合い、話合いを深めていくことができるよう指導の工夫を図っていくようにしたい。

■道徳の時間

歳月の経過によっても風化することのない筆者の自責の念から、いじめの本質を考え、いじめの愚かさを知り、差別や偏見を憎み、不正な言動を断固として許さない態度を育てる。

事例①

①筆者は、どのような気持ちで「汚い、くさい」などとT子さんをけなしていたのか。
・友達と盛り上がれて面白い。
・そう思っているから思ったことを言っただけ。
②T子さんの卒業文集の最後の二行を見て、筆者が果てもなく泣いたのはなぜか。
・T子さんのつらさが伝わってきたから。
・申し訳ない気持ちで一杯になったから。
③T子さんは、なぜ本当の友達ときれいな洋服がほしいと言ったのか。
・きれいな服さえあれば、自分はいじめられないと思ったから。
・自分のことを分かってくれる友達がいれば、気持ちを話せるし、相談もできると思ったから。
④「あの二行を読まなかったら、現在の私はどうなっていたであろう。」という筆者は、今どのような生き方をしていると思うか。
・人の痛みを理解し、思いやる生き方。
・誰にでも平等に接する生き方。

事例②

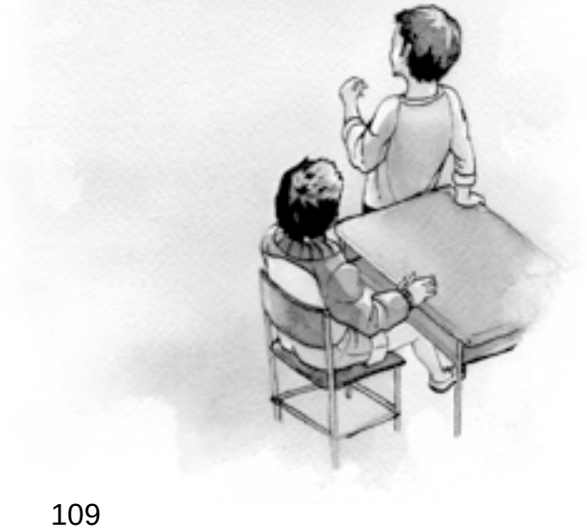
①筆者がT子さんにひどい仕打ちをし続けた動機を考える。
②三十年の歳月が流れてもなお、深い後悔に苦しみ続ける筆者の思いについて考える。
③いじめの防止や解決のために必要なことを考える。

■特別活動（学級活動）

学級活動の内容「（2）オ　望ましい人間関係の確立」の指導に当たって、本資料や読後の感想を通していじめの本質を考え、人間関係を構築する力や他者への思いやりについて考えを深める。そして、いじめの本質に迫り、生徒一人一人がいじめは決して許さないという思いを抱き、いじめを生まない社会の実現への意欲を高めることができるようにする。

事例

①特設ページ全体を通して、いじめについて気付いたことや、改めて考えたことを発表し、意見交流をする。
②いじめはよくないことだと分かっていながら、どうしてそれが世の中から無くならないのかを考える。
③これからの自分自身の生き方に関連して、いじめとどう対峙（たいじ）していくかについて考え話し合う。自分自身が、いじめの加害者にも、被害者にも、傍観者にもなり得る。そのような立場に陥りそうになった時、強い気持ちで跳ね返すにはどうすればよいかを考える。
④差別や偏見のない社会の実現のために、人間はどうあるべきか、私たちはどう生きるべきかを考える。
⑤いじめの防止や解決のために、自分たちが取り組んでみようと思うことを話し合い、それを実践していくようにする。



「道徳の内容」の学年段階・学校段階の一覧表

	第１学年及び第２学年	第３学年及び第４学年	第５学年及び第６学年	中学校	
1 主として自分自身に関すること	(1) 健康や安全に気を付け,物や金銭を大切にし,身の回りを整え,わがままをしないで,規則正しい生活をする。	(1) 自分でできることは自分でやり,よく考えて行動し,節度のある生活をする。	(1) 生活習慣の大切さを知り,自分の生活を見直し,節度を守り節制に心掛ける。	(1) 望ましい生活習慣を身に付け,心身の健康の増進を図り,節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。	**1** 主として自分自身に関すること
	(2) 自分がやらなければならない勉強や仕事は,しっかりと行う。	(2) 自分でやろうと決めたことは,粘り強くやり遂げる。	(2) より高い目標を立て,希望と勇気をもってくじけないで努力する。	(2) より高い目標を目指し,希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ。	
	(3) よいことと悪いことの区別をし,よいと思うことを進んで行う。	(3) 正しいと判断したことは,勇気をもって行う。	(3) 自由を大切にし,自律的で責任のある行動をする。	(3) 自律の精神を重んじ,自主的に考え,誠実に実行してその結果に責任をもつ。	
	(4) うそをついたりごまかしをしたりしないで,素直に伸び伸びと生活する。	(4) 過ちは素直に改め,正直に明るい心で元気よく生活する。	(4) 誠実に,明るい心で楽しく生活する。		
			(5) 真理を大切にし,進んで新しいものを求め,工夫して生活をよりよくする。	(4) 真理を愛し,真実を求め,理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。	
		(5) 自分の特徴に気付き,よい所を伸ばす。	(6) 自分の特徴を知って,悪い所を改めよい所を積極的に伸ばす。	(5) 自己を見つめ,自己の向上を図るとともに,個性を伸ばして充実した生き方を追求する。	
2 主として他の人とのかかわりに関すること	(1) 気持ちのよいあいさつ,言葉遣い,動作などに心掛けて,明るく接する。	(1) 礼儀の大切さを知り,だれに対しても真心をもって接する。	(1) 時と場をわきまえて,礼儀正しく真心をもって接する。	(1) 礼儀の意義を理解し,時と場に応じた適切な言動をとる。	**2** 主として他の人とのかかわりに関すること
	(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し,親切にする。	(2) 相手のことを思いやり,進んで親切にする。	(2) だれに対しても思いやりの心をもち,相手の立場に立って親切にする。	(2) 温かい人間愛の精神を深め,他の人々に対し思いやりの心をもつ。	
	(3) 友達と仲よくし,助け合う。	(3) 友達と互いに理解し,信頼し,助け合う。	(3) 互いに信頼し,学び合って友情を深め,男女仲よく協力し助け合う。	(3) 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち,互いに励まし合い,高め合う。	
				(4) 男女は,互いに異性についての正しい理解を深め,相手の人格を尊重する。	
			(4) 謙虚な心をもち,広い心で自分と異なる意見や立場を大切にする。	(5) それぞれの個性や立場を尊重し,いろいろなものの見方や考え方があることを理解して,寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。	
	(4) 日ごろ世話になっている人々に感謝する。	(4) 生活を支えている人々や高齢者に,尊敬と感謝の気持ちをもって接する。	(5) 日々の生活が人々の支え合いや助け合いで成り立っていることに感謝し,それにこたえる。	(6) 多くの人々の善意や支えにより,日々の生活や現在の自分があることに感謝し,それにこたえる。	
3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること	(1) 生きることを喜び,生命を大切にする心をもつ。	(1) 生命の尊さを感じ取り,生命あるものを大切にする。	(1) 生命がかけがえのないものであることを知り,自他の生命を尊重する。	(1) 生命の尊さを理解し,かけがえのない自他の生命を尊重する。	**3** 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること
	(2) 身近な自然に親しみ,動植物に優しい心で接する。	(2) 自然のすばらしさや不思議さに感動し,自然や動植物を大切にする。	(2) 自然の偉大さを知り,自然環境を大切にする。	(2) 自然を愛護し,美しいものに感動する豊かな心をもち,人間の力を超えたものに対する畏敬の念を深める。	
	(3) 美しいものに触れ,すがすがしい心をもつ。	(3) 美しいものや気高いものに感動する心をもつ。	(3) 美しいものに感動する心や人間の力を超えたものに対する畏敬の念をもつ。		
				(3) 人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて,人間として生きることに喜びを見いだすように努める。	
4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	(1) 約束やきまりを守り,みんなが使う物を大切にする。	(1) 約束や社会のきまりを守り,公徳心をもつ。	(1) 公徳心をもって法やきまりを守り,自他の権利を大切にし進んで義務を果たす。	(1) 法やきまりの意義を理解し,遵守するとともに,自他の権利を重んじ義務を確実に果たして,社会の秩序と規律を高めるように努める。	**4** 主として集団や社会とのかかわりに関すること
				(2) 公徳心及び社会連帯の自覚を高め,よりよい社会の実現に努める。	
	(2) 働くことのよさを感じて,みんなのために働く。	(2) 働くことの大切さを知り,進んでみんなのために働く。	(2) だれに対しても差別をすることや偏見をもつことなく公正,公平にし,正義の実現に努める。	(3) 正義を重んじ,だれに対しても公正,公平にし,差別や偏見のない社会の実現に努める。	
	(3) 父母,祖父母を敬愛し,進んで家の手伝いなどをして,家族の役に立つ喜びを知る。	(3) 父母,祖父母を敬愛し,家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくる。	(3) 身近な集団に進んで参加し,自分の役割を自覚し,協力して主体的に責任を果たす。	(4) 自己が属する様々な集団の意義についての理解を深め,役割と責任を自覚し集団生活の向上に努める。	
	(4) 先生を敬愛し,学校の人々に親しんで,学級や学校の生活を楽しくする。	(4) 先生や学校の人々を敬愛し,みんなで協力し合って楽しい学級をつくる。	(4) 働くことの意義を理解し,社会に奉仕する喜びを知って公共のために役に立つことをする。	(5) 勤労の尊さや意義を理解し,奉仕の精神をもって,公共の福祉と社会の発展に努める。	
	(5) 郷土の文化や生活に親しみ,愛着をもつ。	(5) 郷土の伝統と文化を大切にし,郷土を愛する心をもつ。	(5) 父母,祖父母を敬愛し,家族の幸せを求めて,進んで役に立つことをする。	(6) 父母,祖父母に敬愛の念を深め,家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築く。	
		(6) 我が国の伝統と文化に親しみ,国を愛する心をもつとともに,外国の人々や文化に関心をもつ。	(6) 先生や学校の人々への敬愛を深め,みんなで協力し合いよりよい校風をつくる。	(7) 学級や学校の一員としての自覚をもち,教師や学校の人々に敬愛の念を深め,協力してよりよい校風を樹立する。	
			(7) 郷土や我が国の伝統と文化を大切にし,先人の努力を知り,郷土や国を愛する心をもつ。	(8) 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し,社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め,郷土の発展に努める。	
				(9) 日本人としての自覚をもって国を愛し,国家の発展に努めるとともに,優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する。	
			(8) 外国の人々や文化を大切にする心をもち,日本人としての自覚をもって世界の人々と親善に努める。	(10) 世界の中の日本人としての自覚をもち,国際的視野に立って,世界の平和と人類の幸福に貢献する。	